

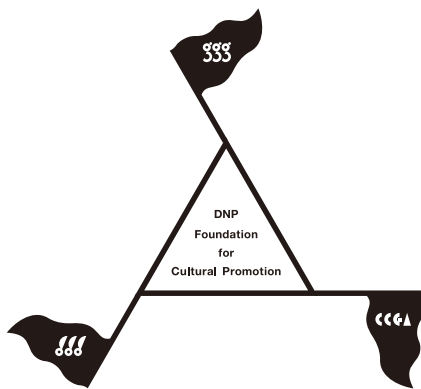
Graphic Art & Design Annual



2018

DNP Foundation for Cultural Promotion

Graphic Art & Design Annual



[表紙デザイン]

表紙の絵は45年前に描いた新聞小説の挿絵の一点に彩色して使用しました。

特にこの絵を表紙に使用した意味はありません。

白黒の絵に色を塗ることは、子供の頃のぬり絵の延長みたいなものです。

デジタルで色を塗るのもぬり絵の延長ですね。

絵もデッサンの輪郭をとって、色を塗っていくので、結局はぬり絵です。

横尾 忠則

[Cover Design]

For the cover design, I used an illustration from 45 years ago
created for a novel serialized in a newspaper—to which I added color.

There's no special meaning behind my choice of this illustration in particular.

Adding color to a black-and-white picture is like an extension of the coloring we do as children.

Adding color digitally is also an extension of childhood coloring.

Since the picture too is made by sketching the outlines and then adding color,
it's really coloring after all.

Tadanori Yokoo

Graphic Art & Design Annual 2018 ggg ddd CCGA

Publication: DNP Foundation for Cultural Promotion

DNP Ginza Building, 7-7-2 Ginza,

Chuo-ku, Tokyo 104-0061

Phone: +81 3 5568 8224

Planning & Editing: DNP Foundation for Cultural Promotion

Art Direction: Shin Matsunaga

Design: Shinjiro Matsunaga

Design Assistance: Moemi Kiyokawa, Tomoko Takagawa

Cover Design: Tadanori Yokoo

Photography: Mitsumasa Fujitsuka (ggg),

Ryota Sakai, Kyosuke Kawanami (ggg gallery talk)

Akihito Yoshida, Kinichi Maeda (ddd / ddd gallery talk)

Translation: Rei Muroji

Cooperation: Koichi Kawajiri

Printing & Binding: Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Contents

目次

はじめに	5
北島 義俊 (公益財団法人DNP文化振興財団理事長)	

序論:	
DNP文化振興財団10周年に寄せて	6
インタビュー: 永井 一正 (グラフィックデザイナー)	
「過去と未来」	12
ポーラ・シェア (グラフィックデザイナー)	

1 展示事業	17
ギンザ・グラフィック・ギャラリー (ggg) 2018-19	18
京都dddギャラリー (ddd) 2018-19	34
CCGA 現代グラフィックアートセンター 2018-19	46
企画展「マリメッコ・スピリッツ・バーヴォ・ハロネン/マイヤ・ロウエカリ/アイノ=マイヤ・メッツォラ」巡回	54

2 教育・普及事業	55
ggg, dddギャラリートーク	56
CCGA 版画工房ワークショップ	60
出版活動 2018-19	61

3 アーカイブ事業	63
DNP グラフィックデザイン・アーカイブ	64

4 国際交流事業	67
国際シンポジウム「イタリアと日本: 芸術を通じての文化交流」	68
AGI総会メキシコシティ 2018	70
AGI特別企画 in インド	71

5 研究助成事業	73
研究成果報告会・交流会	74
グラフィック文化に関する学術研究助成	75
2018-19年度 助成実績	78

展覧会概要 2018-19	79
展覧会一覧 1986-2019	84
ギャラリー概要	94

Foreword	5
Yoshitoshi Kitajima (Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion)	

Introduction:	
On the 10th Anniversary of the DNP Foundation for Cultural Promotion	6
Interview: Kazumasa Nagai (Graphic Designer)	
"Past and Future"	12
Paula Scher (Graphic Designer)	

1 Exhibitions	17
ginza graphic gallery (ggg) 2018-19	18
kyoto ddd gallery (ddd) 2018-19	34
Center for Contemporary Graphic Art (CCGA) 2018-19	46
Exhibition Tour	54

2 Education & Enlightenment	55
ggg, ddd Gallery Talk	56
CCGA Print Studio Workshops	60
Publications 2018-19	61

3 Archiving	63
DNP Graphic Design Archives	64

4 International Exchange	67
International Symposium Italy and Japan: Relations and Exchanges through the Arts	68
AGI Congress Mexico City 2018	70
AGI in India	71

5 Research Support	73
Research Results Presentations and Exchange Session	74
Research Grants for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art	75
2018-19 Financial Support Activities	78

Review of ggg, ddd and CCGA 2018-19	79
List of Exhibitions 1986-2019	84
Galleries' General Information	94

Foreword

はじめに

昨年、DNP文化振興財団は、設立10周年を迎えました。

ギンザ・グラフィック・ギャラリー（ggg）では、7回の企画展を開催しました。7月の「山口はるみ展」は会場の真ん中にプールが、9月の「横尾忠則展」には冥界世界が出現し、両展とも記録的な集客となりました。10月は恒例の企画展ADC展を「日本のアートディレクション展」と名称を刷新して開催しました。また気鋭のアートディレクター三澤遥氏のこれまで取り組んだプロジェクトを紹介した「続々 三澤遥展」では、SNS等を用いた情報拡散が効果的に機能し、多数の来場者がありました。

京都dddギャラリー（ddd）では、4回の企画展と大学連携企画展を開催しました。なかでも、1960年代から半世紀以上ものキャリアを誇り、今なおその頂点を極める田名網敬一氏の現在を紐解いた「田名網敬一の現在展」は、黒と黄色で統一されたインパクトのある煌びやかな異空間が注目を集めました。

CCGA現代グラフィックアートセンターでは、3回の企画展を開催しました。版画家・現代美術家の北川健次展では、氏の原点である銅版画を中心に、代表作100点を展示し、観る者の記憶や想像力を喚起する氏の世界を紹介しました。

2014年にスタートしたDNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、5年目を迎えるにあたり、これまでの研究助成をまとめた『DNP文化振興財団学術研究助成紀要Vol.1』を刊行しました。また2018年11月30日には、東京国立近代美術館講堂において学術研究助成成果報告会兼交流会を開催しました。

今年5月、「令和」という新しい時代がスタートしました。近年、コミュニケーションを取り巻く環境が大きく変化しています。そうした中、私たちの目指す文化活動が、グラフィック文化の振興を通じて、新しい時代に求められる価値の創造に寄与できるよう、事業を推進してまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

Last year the DNP Foundation for Cultural Promotion celebrated the 10th anniversary of its founding.

During the 2018 fiscal year—the period from April 2018 through March 2019—a total of seven regular exhibitions were mounted at ginza graphic gallery (ggg). Two exhibitions drew record-setting numbers of visitors: July's "Harumi Yamaguchi Exhibition," which featured a pool at the center of the gallery, and September's "Tadanori Yokoo Exhibition," which provided a vivid depiction of the netherworld. October saw the annual Tokyo Art Directors Club (ADC) exhibition, which this year was renamed "Art Direction Japan 2018 Exhibition." "Haruka Misawa—Again and Again: Ideas Coming to Mind" introduced the projects undertaken to date by Haruka Misawa, an up-and-coming art director. Her exhibition attracted numerous visitors, thanks in large part to the effective spread of information using the social media.

At kyoto ddd gallery (ddd), four regular exhibitions and one exhibition in collaboration with a university took place during the year. Meriting special mention was "The Exhibition of Keiichi Tanaami." This solo show explored Mr. Tanaami's contemporary status at the peak of a career spanning more than half a century, starting from the 1960s. Attention focused in particular on the exhibition's dazzling otherworldliness heightened by his unified use of powerful black and yellow colors.

The Center for Contemporary Graphic Art (CCGA), which is located in Fukushima Prefecture, held three regular exhibitions. The exhibition of works by Kenji Kitagawa, a printmaker and contemporary artist, highlighted his intaglio prints, the genre in which he launched his career. In all, one hundred of Mr. Kitagawa's representative works were on display, providing visitors an introduction to this artist's world that stirs the viewer's memories and ignites one's powers of imagination.

The DNP Foundation for Cultural Promotion's Research Grants Program for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art, launched in 2014, entered its fifth year in 2018. To mark the occasion, the Foundation published a volume—*The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.1*—collating the results of the research funded to date. Also, on November 30, 2018 a session was held in the Auditorium of the Museum of Contemporary Art Tokyo, at which research results were reported and participants were able to interact in free exchanges.

In Japan, May 2019 saw the start of a brand-new imperial era, "Reiwa." In recent years, the environment surrounding communication has changed greatly. In response, going forward the DNP Foundation for Cultural Promotion will undertake programs that, by promoting graphic culture, will enable our cultural activities to contribute to the creation of the values sought by the new era. We sincerely ask for your continued support and understanding in the years ahead.

公益財団法人 DNP文化振興財団 理事長
北島義俊

Yoshitoshi Kitajima
Chairman of the board of directors, DNP Foundation for Cultural Promotion

DNP文化振興財団10周年に寄せて

インタビュー：永井 一正

グラフィックデザイナー

——DNP文化振興財団は、昨年で10周年を迎えました。まだ財団が設立されておらず、DNPを活動母体としていた2004年より、永井先生にはggg・ddd両ギャラリーの企画監修、2007年からは当財団の理事を務めていただいておりますが、今日はこれまでの振り返りとして財団の活動に対するご意見をうかがいたいと思っています。まずは財団の意義について。企業の文化事業を公益財団法人が担うことに関していかがお考えでしょう？

永井一正氏（以下、永井）：いまや企業は業績だけでは評価されない時代です。特にこの10年くらいで、従業員数や資本金など、従来の基準では企業の価値を計ることがますます困難になってきていますから、財団を運営することで文化事業を継続することには大きな意義があると言えるでしょう。しっかりした文化的・社会的基盤があってこそ、企業のポジショニングは明確になります。

企業による文化活動と言うと、かつては「企業メセナ」が盛んに行われましたが、この場合、事業内容が業種の制約を受ける側面もありました。文化活動を企業の本体から切り離し公益財団法人として行うことで、より客観的で幅広い事業を展開することが可能になります。現在、DNP文化振興財団の事業は「展示」「教育・普及」「アーカイブ」「国際交流」「研究助成」の5つから構成されています。それぞれに重要な役割があるわけですが、旧来の企業メセナであれば、研究助成を含めてこれほど広範にカバーできなかったのではないのでしょうか。

事業を企業本体から独立させることで客観性を担保すると同時に、その企業ならではのバックボーンを生かしているかという視点でこれまでを振り返ることも必要でしょう。DNP文化振興財団の原点にあるのはギンザ・グラフィック・ギャラリー（ggg）です。gggは大日本印刷の現会長である北島義俊さんが社長をしていらした頃に田中一光さんと出会い、それを契機に誕生したのですが、北島さんが現在も財団の理事長を務めておられるのは大きいですね。こういった取り組みは経営者の見識あってこそ成功します。

今後は財団の事業をきちんと継続するための体制作りも課題にな

ってくると思います。先ほど述べた5つの事業が現在活発に行われているのは事実ですが、歴史をつくっていくためには年月をかけてさらに継続していくことが大切です。gggは今年で創設33年になるそうですが、たとえ建物の改装中であっても別会場を設けるなどして、ほぼ休みなく展示を継続してきたのは特筆すべき成果だと思います。各展示に関しては企画段階から拝見していますが、上げていただくものが非常にバラエティ豊かで、ときには若手を思い切って起用するなど素晴らしいと感じています。

——これまでの各展示へのご感想も。今後の展示に関する要望などございますか。

永井：gggの展示企画にはいくつかの柱があると思いますが、アレクサンドル・ロトチェンコやレイモン・サヴィニャック、ヤン・チヒョルトら、巨匠と言われるような海外のグラフィックデザイナーたちの作品を紹介する企画はやはり見応えがありました。優れたクリエイティブが時代を超えて伝わる普遍的文化性を持つということを実証する意味で、こういった展示には大きな価値があるでしょう。グラフィックの古典から学べることは多いと思います。サヴィニャックやロトチェンコの作品が持つ直裁的訴求力を、我々はもう一度見直すべきかもしれません。

海外作家の古典と同時に、日本の新しい人たちの取り組みを積極的に紹介しているのもすごくいいことですね。先日の三澤遥展もそうでしたが、グルーヴィジョンズやライゾマティクス、ノザイナーら若手たちが、従来のグラフィックデザイナーが考えつかなかった刺激的な試みをしていることを知って感心しました。佐藤雅彦さんの展示には連日多くの人たちが詰めかけましたね。

グラフィックデザインは継承されていくことが大切です。亀倉雄策さん、河野鷹思さん、原弘さん、早川良雄さんらを戦後の第一世代とすると、それに続く田中一光さん、福田繁雄さん、勝井三雄さん、杉浦康平さん、仲條正義さんや僕らの世代、そして浅葉克己さん、青葉益輝さん、石岡瑛子さん、長友啓典さん、松永真さんらの世代とその次に来る井上嗣也さん、サイトウマコトさん、

戸田正寿さんたちの世代——いまなお一線で活躍する元気のあ
る世代とそうでない世代がありますが、このように連綿と続く系
譜をうまく見せることで、眠っている才能を刺激できるのではな
いかと思います。

ジャンルにフォーカスした企画で言うと、タイポグラフィをテー
マにした展示も興味深く拝見しました。例えば白井敬尚さんの仕
事と平野甲賀さんの仕事は対照的な印象を与えますが、それぞれ
が独自のデザインを徹底して追求しているのが非常に面白い。タイ
ポグラフィの可能性の大きさを伝えるために、この領域で活躍
する国内外の作家たちの仕事を、系統立てて見られる企画なども
検討してよいかもしれません。装幀展としては祖父江慎さんや横
尾忠則さんによる展示が印象に残っています。

個人的には今後はロゴマークにフォーカスした展示をもっと見て
みたい気がします。僕はかねてより、グラフィックデザインには「ポ
スター」「ブックデザイン」「マーク」の3つの柱があると考えている
のですが、前二者に比べてロゴマークを見てもらう機会がちょっ
と少ないかもしれません。

——gggの活動と平成の時代はほぼ重なっています。新しく令和
の時代を迎えたわけですが、先生はこの30年のグラフィックデザ
インの変化についてどのように考えておられますか。

永井：やはり一番大きいのは技術革命だと思います。急激なデジ
タル化により、この30年はグラフィックデザインも大きな変革期
を迎えた時代でした。次の新しい時代に「グラフィックデザインを、
文化としていかに社会に位置付けていくか」、それこそがDNP文
化振興財団の大きな役割だと改めて感じます。

例えばポスターには、デジタルのように効率的に何かを伝えたり
広めたりする力はないと思いますが、グラフィックデザインを文
化として捉えた場合、依然極めて高いステータスを持っているこ
とに気づかされます。デジタル全盛の時代になっても富山でポス
タートリエンナーレが開催されているように、世界中でポスター

ビエンナーレなどが盛んに行われていますし、ADCやTDC、
JAGDAにおいても出品される作品はいつもポスターのほうが多
いんですね。ポスターというのは、グラフィックデザイナーが自
身の力量や作家性を発揮するのに適した形なのだと思います。こ
れをいかに次の世代に継承していくかが課題です。

もちろん、広い意味での“グラフィックデザイン”は、デジタルも
含めてビジュアルコミュニケーションのあらゆる領域に浸透して
いくものですし、そもそもデザインには経済性と文化性、社会性
の3つの側面があるわけですが、財団がそのすべてを追うことは
不可能です。ということは我々は、やはり文化の側面からグラフ
ィックをとらえることに絞る必要があると思うんです。そうしな
いと後世に残る本当にいい作品というものとはつくりえないのでは
ないかと。アートの世界で見ても、夭折した村山槐多や青木繁は寡
作の作家でありながら、彼らの作品はいまなお毅然として光彩を
放っています。文化芸術というのは必ずしも数が多ければいいと
いうものではありません。

——優れたグラフィック作品を後世に残す取り組みとして、21世
紀を迎えた頃からアーカイブ事業をスタートさせました。現在、
永井先生も含めて200名を超える国内外のデザイナーによる
15,000点以上の作品をCCGAに所蔵するなど、グラフィックポ
スターのアーカイブとしてはほかに類を見ない貴重なものになっ
ていますが、今後、このアーカイブをどのような形で活用してい
くのがいいとお考えでしょうか。「国際交流事業」や「教育・普及事
業」に関してもご意見いただけましたら。

永井：アーカイブを系統立てて展覧会という形で見せていくこと
も大切ですが、せっかくいい作品が集まっているわけですから、
ほかにも有効なやり方があるのではないかと思います。デジタル
化することで遠隔地からアクセスできるようにするのもひとつの
方法でしょうし、富山のように町おこしに活用する方向性も取り
うるかもしれません。過去の良い作品をもっと広めていく方法か
ら模索することも、DNP文化振興財団のひとつの役割でしょう。
国際交流に関して言うと、海外からの問い合わせが増えているの

は素晴らしいことです。近頃、北斎が世界的にまたブームになっているそうですが、日本のポスターにも日本文化を海外に発信する力があると思います。日本のグラフィックデザインは、ある意味では日本画以上に伝統美術の影響を色濃く受けていますし、日本人の感性はデザインに向いていますから。

日本が世界に誇る伝統美術はすべてデザインとして捉えることができます。例えば、平安期の仏画にしても中世の障壁画にしても、それ単体のアートとして鑑賞することもできるとはいえ、機能からそれが置かれる空間や環境までをふまえたデザイン性に卓越したものがあわけです。「源氏物語絵巻」や「鳥獣戯画」といった絵巻物に見られる大和絵は、日本の漫画やアニメーションの原点とも言えるものですが、町や家屋を上から俯瞰するスタイルでグラフィカルに描くなど、我々の伝統美術に見られる豊かなデザイン感覚は、日本の四季や風土が育んだものと言えるでしょう。絵師と彫師、刷り師が協働で完成させていく浮世絵も、デザインの制作システムに共通するものを感じます。

桃山時代に本阿弥光悦や俵屋宗達が始めた琳派は、江戸初期に尾形光琳らに継承され、その後も100年をへて酒井抱一、鈴木其一へと受け継がれていったものですが、琳派に共通する感性を田中一光さんの作品に読み取ることができるように、西欧的な強い個性とは異なる和の精神を我々はDNAの中に引き継いでいます。日本人の間の取り方の巧みさも、この自然環境に由来するものだという気がしますね。

いま話したことはデザインの教育とも関わってくることです。これは僕の持論ですが、人も自然の一部である以上、その摂理から学ぶのは重要なことではないでしょうか。例えば、雲を見ても無限に形が変わる。海を見ても同じ波は二つとない。植物も四季によって移ろう。そういった外部環境から僕たちは発想を得ていると思うと、自然に対する感覚を敏感に研ぎ澄ますことが大切だと思います。

若い人に危惧することがあるとすれば、日常生活でパソコンやス

マートフォンの画面を見る時間がすごく長くなっていますよね。もちろんメールでやりとりしたり、新しい情報を得られたりというメリットもあるのですが、パソコンの画面から得る情報というのは、すでにだれかが発した情報です。なかには間違っている情報もあるかもしれない。それを鵜呑みにして発想してはオリジナリティには至りません。デザイナーはまず自分自身で体験することが第一だと思います。

(聞き手・構成：河尻亨一)

On the 10th Anniversary of the DNP Foundation for Cultural Promotion

Interview: Kazumasa Nagai

Graphic Designer

— In 2018 the DNP Foundation for Cultural Promotion celebrated its 10th anniversary. Before the Foundation was established, when DNP was still functioning as the principal organizer of activities, starting in 2004 you supervised planning at both ggg and ddd gallery, and since 2007 you have served as one of the Foundation's Directors. Today, we would like you to reflect back on your long involvement with the Foundation and tell us your views of the activities undertaken by the Foundation. To begin, we would like to talk about the significance of the Foundation. What are your thoughts concerning a public interest incorporated association taking charge of a corporation's cultural operations?

Kazumasa Nagai: These days, corporations aren't evaluated solely on the basis of their earnings performance. Starting around 10 years ago especially, it's become increasingly difficult to measure a company's value based on conventional criteria such as the number of employees it employs, the amount of its paid-in capital, and so on. In this respect, it's very significant for a company to undertake cultural activities on a continuous basis under the management of a foundation. It's when a corporation has a robust cultural and social foundation that its positioning becomes clear.

When we talk about corporate cultural activities, earlier much was undertaken in this sphere in the name of "corporate philanthropy." However, in that instance the content of such activities was partly restricted by the type of business the company was involved in. By separating cultural activities off from the company itself and undertaking such activities as a public interest incorporated association, it's become possible to conduct activities more diversely and more objectively. Today the DNP Foundation for Cultural Promotion's activities fall into five categories: exhibitions, education and enlightenment, archiving, international exchange, and research support. All of these areas play important roles, but in the days of corporate philanthropy, it wasn't possible for activities to be so broad in scope—especially where research funding support was concerned.

It's important to reflect back simultaneously on two aspects:

whether separating cultural activities off and making them independent from the company structure has guaranteed objectivity, and whether what lies uniquely at the heart of the company is being put to full use. The DNP Foundation for Cultural Promotion's roots are in ginza graphic gallery—ggg. ggg came about after Yoshitoshi Kitajima, now Chairman of Dai Nippon Printing, met Ikko Tanaka during his time serving as DNP President. There's much to be seen in the fact that Mr. Kitajima today is Chairman of the Foundation's Board of Directors. Work of the kind performed by the Foundation succeeds when top management is a person of lofty discernment.

From here on, I think a challenge that will need to be addressed is to create a system for carrying on the Foundation's work in good order. While it's true that the five types of activity I mentioned earlier are being actively carried out today, in order to build up a history it will be vital to continue further over time. As I understand it, this year marks 33 years since ggg was created, and I think it's a noteworthy accomplishment how the gallery has continuously held exhibitions almost without any break, even setting up in a separate location when its building was under renovations. I've observed every exhibition right from the planning phase, and the shows that are mounted are extremely varied, truly superb, at times boldly focusing on young designers.

— Please tell us your personal impressions concerning past exhibitions, and any requests you might have concerning future shows.

Nagai: To my thinking, there have been a number of shows at ggg that have stood out above the rest. Exhibitions introducing works by the giants among foreign graphic designers—people like Alexander Rodchenko, Raymond Savignac and Jan Tschichold, for example—have been especially impressive. Exhibitions such as these have great value in terms of demonstrating how superlative creative work has universal cultural appeal transcending the ages. There's much to learn, I think, from the classic graphic works. Perhaps it's time for us to take a second look at the straightforward appeal of Savignac's and Rodchenko's works.

Along with the classics by overseas artists, it's also really meaningful how ggg proactively introduces the work being done by new people in Japan. The recent show by Haruka Misawa was one, and I was impressed to see the exciting experimental works of young designers like GROOVISIONS, Rhizomatiks and NOSIGNER—works that the graphic designers in the traditional mold never conceived. The exhibition by Masahiko Sato drew large crowds of visitors day after day.

Passing on the graphic design of the past is important. The first generation of the postwar era included designers like Yusaku Kamekura, Takashi Kono, Hiromu Hara and Yoshio Hayakawa; the second generation, Ikko Tanaka, Shigeo Fukuda, Mitsuo Katsui, Kohei Sugiura, Masayoshi Nakajo and me; then the generation of Katsumi Asaba, Masuteru Aoba, Eiko Ishioka, Keisuke Nagatomo and Shin Matsunaga; followed by the generation of Tsuguya Inoue, Makoto Saito and Seiju Toda. Some of these generations remain active in the front lines of the profession; others not so. But by showing how these generations are all interconnected through the years, I think it's possible to awaken dormant talent.

In the area of exhibitions focused on a specific genre, I was also very interested seeing ggg's exhibitions on typography. For example, the work done by Yoshihisa Shirai and that by Kouga Hirano give the impression of being polar opposites, but it's extremely interesting how they each are pursuing design that's uniquely their own, each in his own way. To convey how great the possibilities are in typography, it might be good to consider exhibitions that would systematically show work done by Japanese and non-Japanese designers active in this area. Among the exhibitions focused on book design, those on Shin Sobue and Tadanori Yokoo left an especially strong impression.

Personally, going forward I'd like to see more exhibitions focused on logomarks. For some time I've believed that graphic design has three mainstays: posters, book design and logomarks. But compared to the first two, there may be fewer opportunities for people to see logomarks.

— *ggg's activities overlap almost completely with the Heisei*

era. Now that we've entered the new Reiwa period, what are your views on how graphic design has changed during the past thirty years?

Nagai: The biggest change, of course, has been the revolutionary progress made in technology. The rapid shift to digital technology has driven a period of major change in graphic design during these three decades. In the new era, I think a major role to be played by the DNP Foundation for Cultural Promotion will be how to place graphic design as a cultural element of society.

In the case of posters, for example, I don't think they have the power to convey or make something widely known efficiently the way digital technology can; but when graphic design is viewed as culture, we find that it still possesses an extremely lofty status. Even in the current period dominated by digital, poster biennales and the like take place all around the world—the poster triennials held in Toyama are a good example—and even now posters outnumber other works shown at exhibitions by the Tokyo ADC, Tokyo TDC and JAGDA. The medium of posters, I think, is a format suited to enabling a graphic designer to demonstrate his or her abilities and artistry. The challenge will be how to pass this on to the next generation.

Of course, graphic design in the broad sense of the term will penetrate into all realms of visual communication, including digital. Design inherently has three aspects—economic, cultural and social; and it's impossible for the Foundation to pursue them all. That being so, I think we have to narrow our focus and deal with graphics from the cultural aspect. Otherwise I don't think it will be possible to make truly good works that will be passed on to future generations. If you look at the world of art, here too works by Kaita Murayama and Shigeru Aoki—who both died young and produced only a small number of works—continue to shine brilliantly even today. In culture and the arts, good work isn't defined by the volume that's produced.

—*To pass on outstanding graphic works to future generations, the Foundation launched its archiving activities around the turn*

of this century. As of now, more than 15,000 works by over 200 designers from all over the world, including your own works, are permanently held at CCGA, making for a rare and precious archive of graphic posters on a scale unknown anywhere else. What are your thoughts concerning how to make good use of this archive in the future? Also, kindly tell us your views concerning the Foundation's "international exchange" and "education & enlightenment" endeavors.

Nagai: Holding exhibitions of archived works systematically is important, but given the high quality of the works that have been collected, I think there must be other effective usage methods also. One would be to digitalize them and enable access from remote locations. And it might also be possible to use the archive as a way of revitalizing towns and cities, as Toyama has done. One role of the DNP Foundation for Cultural Promotion is to probe for ways to make the excellent works of the past better known.

With respect to international exchange, it's wonderful that inquiries from overseas are increasing. I understand that recently there's been a swell of interest again in Hokusai, and I think that Japanese posters also have the power to popularize Japanese culture overseas. Japanese graphic design in a sense shows the influence of traditional art even more strongly than Nihonga [Japanese-style painting], because the sensibilities of the Japanese are geared toward design.

Japan's world-famous traditional art can all be understood as design. The Buddhist paintings of the Heian period, for example, or the paintings created on sliding doors and folding screens during the Kamakura and Muromachi periods can be appreciated as individual works of art; and yet, they are imbued with superlative design qualities ranging from their function to the space and environment in which they are placed. The yamato-e style seen in such picture scrolls as *Genji Monogatari Emaki* [The Tale of Genji Scroll] and *Choju-giga* [Animal Caricatures] can be viewed as the original form of Japanese manga and animation; and the rich sense of design seen in our traditional art—for instance, the graphical way things are depicted employing a bird's-eye view from above a cityscape or

building—can be said to have been nurtured by Japan's four seasons and climate. Ukiyo-e too, which were completed through the collaboration of the artist, the engraver and the printmaker, suggest something in common with the system by which designs are produced.

The Rimpa School started by Hon'ami Kouetsu and Tawaraya Sotatsu during the Momoyama period was carried on by Ogata Kourin and others during the early Edo period, and then, after a gap of 100 years, was taken up by Sakai Houitsu and Suzuki Kiitsu. Sensibilities in common with Rimpa can also be gleaned in Ikko Tanaka's works. All this goes to suggest that as Japanese we have a unique spirit in our DNA different from the strong Western personality. I also feel that the skill with which Japanese insert "ma" [space between objects] derives from this natural environment.

What I've just described is also related to design education. I have a personal theory that because humans are part of nature, learning from the workings of nature is important. When we look at clouds, for example, they constantly change form, indefinitely. When we look at the oceans, no two waves are ever exactly alike. Plants change with the four seasons. When I think how we gather ideas from such an external environment, I think it's important for us to burnish our sensitivity toward nature.

If I have one concern insofar as young people go, it's the extraordinary amount of time they spend looking at computer screens and smartphones in their everyday lives. There are, of course, advantages to these media, such as communicating by email and being able to gather new information. But the information one gleans from a computer screen is information that somebody else has already provided—and some of that information may well be in error. To swallow it whole and then conceive ideas lacks originality. More than anything, I think designers should experience things for themselves.

(Interview and text: Koichi Kawajiri)

「過去と未来」

ポーラ・シェア

グラフィックデザイナー

「過去・現在・未来という考え方はしつこく付きまとう幻想に過ぎない」—— アルベルト・アインシュタイン

私は50年近くグラフィックデザインを手がけてきました。あらゆるものが変化しましたが、実は何も変わっていません。私がアートスクールに通っていた頃は、コンピューターなどありませんでしたが、モノを創っていました。アイデアを思い描き、それを目に見える形にするという、本質的には今と変わらないことをしていたのです。簡素な道具を使い、手間暇かけて創っていましたが、当時は、頭だけでなく手を使ってモノを創り上げていくのが好きでした。こうした手作業がなくなった寂しさを埋め合わせるために、込み入った大きな地図を描いているのです。時代とともにハイテク器機を使うようになり、この世界に参入する人も増えましたが、それ以外の点はあまり変わっていません。

1970年代に仕事を始めた頃は、レコードカバーをデザインし、アートディレクターの役を担っていました。ロックンロールのバンドやジャズミュージシャンとともに、レコードカバーのビジュアルアイデアを生み出していました。彼らは私のクライアントで、決定権を握っていました。楽しく仕事をできたときもあれば、散々な思いをすることもありました。たいていの場合は、彼らが何も決断できず、作品を見てもその良さに気づけなかったからです。

現在のクライアントは幅広い業種にわたっていて、ミュージシャンはほとんどいません（音楽業界やシアター関連の仕事はたくさんこなしてきましたが）。一緒に仕事をして楽しいクライアントもいれば、決断力がなく、良い作品を見てもそれに気づかないやっかいなクライアントもいます。

ずいぶん前に、作品の良さを人に説明できることがとても大切だと知りました。それは今も変わっていませんが、以前より難しく、ややこしくなっています。この50年間に、ビジネスにおいてマーケティングが非常に重視されるようになったからです。私がレコードカバーをデザインし始めた70年代には、市場調査や購買層の研究、さまざまな分析など何もせずに、世界に売り出されています。

した。私が手がけたアルバムカバーの多くは今も市場に出回っています。私の名前と「アルバムカバー」という語で検索すれば、たくさんヒットするでしょう。若者のあいだでビニール盤レコードの人气が再び高まっているので、現代音楽のショップで自分のレコードカバーを見かけることもありますし、アンティークショップで出くわすこともあります。かつて、グラフィックデザインは寿命が短いと言われましたが、そんなことはありません。

1984年にアップルのマッキントッシュ・コンピューターが登場しましたが、知り合いのデザイナーたちは90年代初めまであまり使っていませんでした。私もコンピューターで描くのは好きではありませんでしたが、手作業と使い分けていました。最初のソフトウェアは使い勝手が悪く、書体も限られていました。コンピューターと手を使っている作業を半々で行うようになったのは、90年代に入ってからです。90年代半ばには、ペンタグラム社の私のチームは完全にコンピューター化しました。

1982年からスクール・オブ・ビジュアル・アーツでシニア・ポートフォリオ・クラスを担当していますが、当初はコンピューターを使わずに教えていました。その後取り入れましたが、学生たちは書体やプログラムの性能に満足できませんでした。ソフトウェアは徐々に改良され、今の学生は手の延長としてソフトウェアを使いこなしているのに、プログラムでできることとできないことについていちいち文句を言ったりはしません。けれども、90年代末頃、私はあることに気づき始めました。ソフトウェアは年々進化しているのに、コンピューターを使いこなしている学生の作品は進化していなかったのです。デザイナーとして成長した学生は、優れたアイデアを持っていて、それを表現し、大切にしたら成長できたのであり、最新のソフトウェアを使いこなせたからではありませんでした。このことはずっと変わっていませんし、これからも変わらないでしょう。

ソフトウェアの進化はもちろん仕事の助けになっており、特に環境グラフィックにおける3Dプログラムのデザイン性能は素晴らしいものです。ソフトウェア無しでデザインすることなど想像でき

ませんが、以前はそれを使わずにデザインしていました。過去20年間の自分の環境グラフィックの作品を振り返ると、コンピューターを使うことによって仕事は楽になりましたが、作品が良くなったとは言えません。結局、新しいプログラムを使っても、新しい発見があるわけではないのです。まず自分でアイデアを思い描けなければなりません。創作過程で想定外のことが起きたとき、すなわち、思ったようにならずに違ったことが起きたときに発見があるのです。コンピューターが発明される以前から、ずっとそうだったのです。

テクノロジーは広く役立っていますが、私のデザインの進化とブレークスルーのほとんどは、テクノロジーではなく、間違いから生まれてきました。歳をとるにつれて知識が増えるために、間違いを犯しにくくなります。新たな解決策を導く大きな過ちを犯すためには、初心に帰ることです。私は作品を創るときに、デビュー作のつもりで取り組みます。優れた突破口や飛躍的進歩につながる大失敗を犯すには、これが一番です。若い時はあまり知識がないのでよく間違いますが、デザインの経験を長く積むにつれてプロフェッショナルになっていきます。

真のブレークスルーにつながる過ちを犯したとき、クライアントを納得させるのは容易ではありません。クライアントに理解させる術をまだ身につけていない若いデザイナーの場合はなおさらです。プロになると、失敗は許されないので、間違いを犯しにくくなります。私は何か新しいことを試みるとき、クライアントの許可を必要としない無料のプロジェクトをよく行います。ここから多くの優れた作品が生まれてきました。モノを創り、成長したいという欲求は衰えることはありません。新たな発見をするには自由も必要なのです。

消費者テストは往々にしてグラフィックデザインの敵となります。消費者やユーザーが今何を好んでいるかを知るための質問を並べても、役立つ情報は得られません。そんなテストをしても、人々の今後の嗜好はわからないからです。私たちはこれから人々が好きになるようなものをデザインしているのです。近年、広告会社

は世論をクラウドソーシングするためにAR(拡張現実)プログラムを利用しています。クラウドソーシング技術は、一般の人々が知っていること、好むこと、理解できることを知るには便利です。製品の有用性テストにおいては重要なツールですが、グラフィックデザインには有害無益です。ありきたりの解答しか得られないからです。一部のオーディエンスの嗜好を集めたところで、消費者がすでに知っていることや好むもの、理解していることがわかるだけで、そんなものはほとんどの場合、もうすでに存在しています。未来への期待感を引き上げることも我々デザイナーの役目なのです。

グラフィックデザインの歴史を辿る本を見ると、テクノロジーやファッションや文化の変化によってスタイルが変わってきたことがわかります。50年後にテクノロジーがどのように変化しているか、あるいは文化や政治の変化によって我々の見方やアイデアの表現方法がどのように変わり、どのような形態やメディアが使われるようになるかはわかりません。けれども、政治や文化、ファッション、テクノロジーが変化していくことは確かで、人々は常にそれをどう捉えるかを学ばなければならないことも確かです。それがわかったところで、結局はほとんど何も変わらないのです。

“Past and Future”

Paula Scher

Graphic Designer

“The distinction between the past, present, and future is only a stubbornly persistent illusion” - Albert Einstein

I have been a practicing graphic designer for nearly fifty years. Everything has changed and nothing has changed. When I went to art school there were no computers, but we made things and we made them essentially the same way we do now: we got an idea and we figured out how to realize it. We had crude tools and craft took a lot of time, but I liked making things then because it was physical and I got to use my hands as much as my head. I miss that and compensate for it by making big, complicated paintings of maps. The equipment I use has advanced technologically over the years, and the industry got more crowded, but otherwise everything is more or less the same.

When I began working in the 1970's I was designing record covers, functioning as an art director. I would work with rock and roll bands or jazz musicians to come up with a visual idea for their record covers. They had full approval; they were my clients. Sometimes they were easy and fun to work with, sometimes they were horrible, mostly because they couldn't make up their minds about anything and didn't know if something was good when they saw it.

My clients today tend to work in many kinds of businesses and are rarely musicians (though I have done work for the music industry, and lots of work for theaters). Sometimes, they are easy and fun to work with, and some are horrible, mostly because they can't make up their minds about anything and don't know if something is good when they see it.

I learned a long time ago that it is very important to explain to someone why something is good. That hasn't changed at all, but it has gotten harder and more complicated now. This is because Marketing as a business discipline has grown massively in the past fifty years. When I first designed record covers in the '70's they went all over the world without any market research testing, demographic studies, or analytics of any kind. And many of my album covers are still around—

if you search for my name and “album covers”, many will pop up. Vinyl records are popular again with young audiences and sometimes I will see my record covers in contemporary music stores or antique shops. I was told long ago that graphic design is ephemeral. It isn't.

The Apple Macintosh computer was introduced in 1984, but most working designers I knew didn't use it extensively until the early 90's. I didn't like operating them, but I did use them for some things and did other things by hand. The first software wasn't well developed and type choices were not broad. In the early 90's I accomplished my work half on the computer and half by hand. By the mid-90's my team at Pentagram was fully computerized.

I have taught a senior portfolio class at the School of Visual Arts since 1982. At first I taught the class without computers, then with them. In the early computer days the students would complain that they didn't have access to a typeface, or that a program didn't perform very well for them. Gradually the software improved. Now my students use the software as an extension of their hands and no one complains about what a program can or cannot do. But in the late 90's I began to notice that those students who were facile on the computers didn't progress in their work because the software would change year by year. The ones who progressed as designers did so because they had good ideas, and could show them and defend them, not because they were proficient with the latest software. This has never changed, and never will.

Advances in software have certainly aided my work, particularly in environmental graphics where the ability to design in 3D programs is spectacular. I can't imagine designing without it, but I did. When I look at the body of my environmental work over the past 20 years, I can't say that the work has gotten better because of the technology, but it has gotten easier. In the end I don't think that the new programs aid me in making discoveries, I have to imagine them first. The discoveries come when, in the process of creating something, I have an accident, which means that

something I thought would happen didn't materialized and something else happened in its wake. This was always the case, even before the computer was invented.

Most of my design growth and breakthroughs have come from making mistakes, not through technology, though the technology is the prevalent tool. As I get older, I find that it's harder to make mistakes because I know too much. You need to be a neophyte to make a big mistake that leads you to a new solution. I try as much as I possibly can to work on things that I have never worked on before. That's the best way to make a really big blunder that can lead to a viable solution and serious breakthrough. You make your mistakes easily when you are young because you don't know any better, and when you have been designing for a longer period of time you become much more professional.

If you make a mistake that causes a true breakthrough it's often hard to make a client comfortable with it, especially if you are a young designer and haven't learned yet how to teach a client how to see. But if you are a pro, you are less likely to make the mistake because you don't have the freedom to fail. I find myself often taking on pro bono projects that don't require client approval to try something new. I often do my best work this way. The desire to create things and grow never changes. Sometimes you need freedom to make discoveries.

Consumer testing is often the enemy of graphic design. Test questions are established to discover what the consumer or user likes now. That's useless information because it doesn't answer what they are going to like next, and we are designing for what they will like next. Recently, advertising agencies have been using AR programs to crowd source public opinion. Crowd sourcing technology is good for discovering what the public knows and likes and what they can recognize. It is an important tool in a product usability test but terrible for graphic design because it gives solutions that are hackneyed. They have sourced the preferences of specific audiences and the result will be what the consumer already knows, likes, and understands, which is often what

they have already seen. Part of our responsibility as designers is to raise the expectation of what something can be.

When I look through the history of graphic design books, I see changing styles, some due to technology and some due to fashion and cultural shifts. You can't expect to know how technology will change in fifty years or what cultural and political shifts may occur that will effect how we see and how we express ideas, and in what form and media. But we can know with certainty that politics, culture, fashion and technology will change. And that people will always need to learn how to see. And with that knowledge, not much really changes at all.

展示事業

Exhibitions

ginza graphic gallery 2018–19

April 4 – 28, 2018

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

May 14 – June 23, 2018

wim crouwel: fascinated by the grid

July 6 – August 25, 2018

Harumi Yamaguchi × Yoshirotten Harumi's Summer

September 5 – October 20, 2018

Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for *Genka* by Jakucho Setouchi 1974–1975

October 29 – November 22, 2018

Art Direction Japan 2018 Exhibition

December 3, 2018 – January 26, 2019

Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind

February 4 – March 25, 2019

Paula Scher: Serious Play

gogogo



ADC

日本のアートディレクション展
2018 ART DIRECTION JAPAN 2018 EXHIBITION

本展は、アートディレクションの発展と創造性をテーマに、国内外の優秀なアートディレクターの作品を展示する。2018年10月18日（月）～19日（金）11:00～17:00（入場無料）
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 千代田駅西口徒歩1分

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

April 4 – 28, 2018

TDC 2018



「東京TDC賞2018」グランプリはプリル・ヴィセッリ・クレーマーの『Under the Radar, Underground Zines and Self-Publications 1965-1975』。西ドイツのアンダーグラウンドなセルフパブリッシュ作品をまとめた書籍で、魅惑的なコレクションにひきよせられた。解説の文字組がページ余白の都合で自在に大きさを換え、アングラの世界感を踏襲している。一方、ブックデザイン賞フレイザー・マゲリッジの『Shonky』はマクロ・タイポグラフィの果敢な挑戦である。2冊ともgggに展示するとすぐに話題になり、ネット上で売り切れ、増版が決定。展覧会の反響がうれしい年になった。

東京TDC 照沼太佳子

The 2018 Tokyo TDC Grand Prix was won by Prill Vieceli Cremers for *Under the Radar: Underground Zines and Self-Publications 1965-1975*. This book is a truly captivating collection of underground and self-published works from West Germany. The blocks of explanatory material vary freely in size in the blank spaces of each page, vividly reflecting the worldview of the underground. The winner of the 2018 Tokyo TDC Book Design Prize, *Shonky: The Aesthetics of Awkwardness*, which was designed by Fraser Muggeridge, was a bold experiment in macro typography. As soon as these two works were shown at ggg, they immediately aroused great interest, were quickly sold out, and additional print runs were

decided. The strong response to the exhibition made this a happy year.

Takako Terunuma, Tokyo TDC

Under the Radar Underground Zines and Self-Publications 1965-1975

Edited by
Jan-Frederik Bandel,
Annette Gilbert, Tania Prill
Spector Books

Prill Vieceli Cremers



Au Chon Hin



Nod Young, A Black Cover Design



wim crouwel: fascinated by the grid

May 14 – June 23, 2018

ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて



このたび、DNP文化振興財団とカロリン・フラーゼンブルグ氏（アムステルダム市立美術館／グラフィックデザイン部門キュレーター）にご協力いただきましたことを心より感謝いたします。

ヘルムート・シュミット氏とお嬢さんのニコールさんも「ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて」展の実現のために大変ご尽力くださり、京都dddギャラリーに続いて、東京のギンザ・グラフィック・ギャラリーでも開催することができました。大変悲しいことにヘルムート・シュミット氏はご逝去され、この場を借りて生前のご功績を偲び、心から哀悼の意を表します。

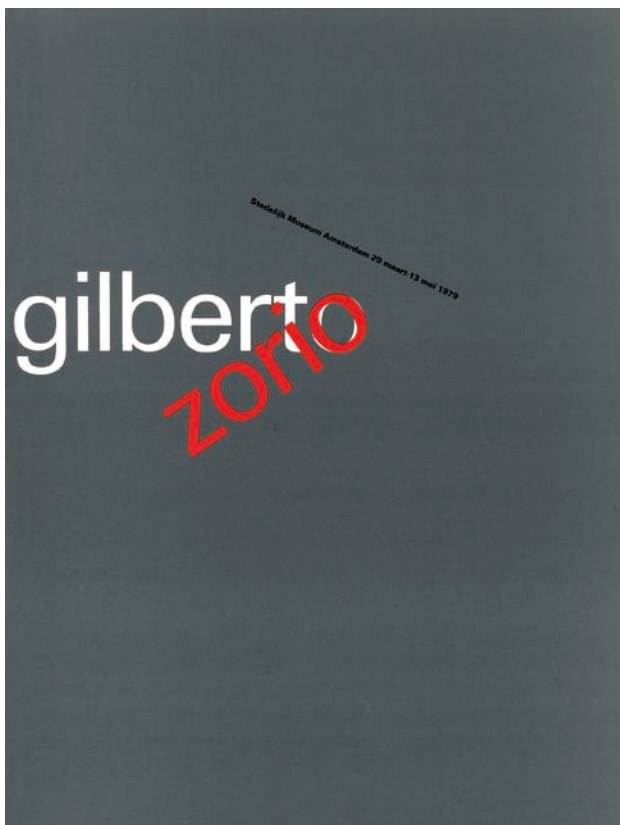
私の日本びいきは1960年代に遡ります。1970年には大阪での万国博覧会でオランダ館のデザインに携わり、1980年代と1990年代にも美術館館長として来日しました。その時にギンザ・グラフィック・ギャラリーのことを知り、それ以来、その素晴らしいプログラムに注目しています。 ウィム・クロウエル



I'm very grateful for the involvement of Chikako Tatsuumi working for DNP foundation, and Carolien Glazenburg, the curator of graphic design at the Stedelijk Museum in Amsterdam. On her own initiative Chikako Tatsuumi contacted the Stedelijk Museum with the idea to curate an exhibition about my work in Japan. Helmut Schmid and his daughter Nicole also played a big role in the realization of my exhibition Fascinated by the grid, which first opened in the kyoto ddd gallery, followed by the ginza graphic gallery in Tokyo. I would like to take the opportunity to commemorate Helmut Schmid, who is unfortunately no longer with us. He is dearly missed.

My fascination for Japan started in the 1960's. In 1970 I was involved with the design of the Dutch pavilion at the World Expo in Osaka. But I have also visited Japan as a museum director in the 1980's and '90's. It is since that time that I have known and followed the wonderful program of ggg.

Wim Crouwel



Harumi Yamaguchi × Yoshirotten Harumi's Summer

July 6 – August 25, 2018

Harumi Yamaguchi × Yoshirotten Harumi's Summer



2018年の夏、銀座で展覧会を開催していただけることになりました。8年前にCDジャケットでコラボした若いADのyoshirottenさんに声をかけました。200枚ものイラストレーションを見て自由に展示をと依頼したところ、銀座の真ん中にプールが出現しました。タイトルも「HARUMI'S SUMMER」。壁面はアクリルで覆われた水着のHARUMI GALSたちがピンク、グリーン、ブルーの光を反射し波立つ夢の空間に。B1階はGALSたちのオンパレード。私のすべてをさらけ出したい。2階ではPARCOのCMが流れ「懐かしい!」の声をいただきました。猛暑の50日、10,000人を超える方々に入場いただき、すべての皆さまに感謝でいっぱいでした。

山口はるみ

In the summer of 2018, I was given the opportunity to hold an exhibition in Ginza. I immediately contacted YOSHIROTTEN, a young art director I'd collaborated with on a CD jacket eight years earlier. I asked him to look over some 200 of my illustrations and to display them as he saw fit. What he came up with was a swimming pool in the middle of Ginza. The title: "HARUMI'S SUMMER." The walls were transformed into a billowing dreamy space, acrylic-covered HARUMI GIRLS in swimsuits reflecting bright images in pink, green, blue. The gallery's lower level was filled with GALS, as if baring my all. On the uppermost floor visitors could watch old PARCO commercials. They brought back warm feelings of nostalgia, some

visitors told me. During the exhibition's 50-day run—in brutally hot weather—more than 10,000 visitors came. I'm ever so grateful, to everyone.

Harumi Yamaguchi



Tadanori Yokoo: The Complete Drawings for *Genka* by Jakucho Setouchi 1974–1975

September 5 – October 20, 2018

横尾忠則 幻花幻想幻画譚1974–1975

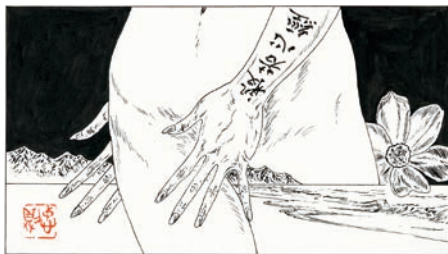
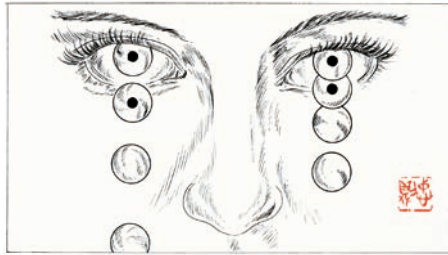


「幻花」展は45年前に描いた瀬戸内寂聴さんの時代小説の絵の画集の発刊にちなんで企画された展覧会。白黒の小品約300点以上の挿絵を有元利彦さんのインスタレーションで、演劇的空間を創造していただいた。照明を担当していただいた旧友の藤本晴美さんが展覧会の開催寸前に他界されたことは非常に残念だったが、会場全体が、まるで冥界世界の再現のようで瀬戸内王朝文学がキリリと屹立して実に格調の高い展示になり、観客動員の記録を更新したという。

横尾忠則 (美術家)

This exhibition was planned in conjunction with the publication of a collection of illustrations I created 45 years ago for Jakucho Setouchi's serialized historical novel titled *Genka*. More than 300 small black-and-white illustrations were worked up into a dramatic spatial installation by Toshihiko Arimoto. The sudden death, just before the show opened, of Harumi Fujimoto, a friend of long standing who had been in charge of the exhibition lightning, was extremely lamentable, but the gallery as a whole seemed like a re-creation of the afterworld. That, together with Setouchi's soaring court literature, made for a truly dignified exhibition. From what I'm told, it broke the gallery's attendance record.

Tadanori Yokoo (artist)



Art Direction Japan 2018 Exhibition

October 29 – November 22, 2018

日本のアートディレクション展2018



2018年のADCグランプリは、大貫卓也氏の長年にわたる作品をあつめた作品集が受賞した。ただの作品集を越えて、制作のプロセスやテキストをふんだんに盛りこみ、広告へのあつい情熱がほとばしるもので、他の作品を圧倒した。ADC会員賞には、CULENの「新しい地図」が。一般のADC賞には、Double Aのムービー。神戸新聞社の「SINCE 1995」。大塚製薬の「ポカリスエット」のTVCM。サントリーの「プレミアム・ボス」のポスターなど。これからの広告表現の新しさを予感させる作品が多くならんた。

ADC展委員 副田高行

The 2018 Tokyo ADC Grand Prize was won by Takuya Onuki for his collection of works created over a long time span. More than a mere collection, the prize-winning compilation included a wealth of information about his production process and textual notes. It was also bursting with Onuki's enthusiastic passion toward advertising, altogether overwhelming the other works up for competition. The Tokyo ADC Members Award went to CULEN's "New Map," while regular Tokyo ADC Awards were presented for Double A's movie, Kobe Shimbun's "SINCE 1995," a TV commercial for Otsuka Pharmaceutical's Pocari Sweat energy drink, and a poster for Suntory's "Premium Boss" beverage, among others. Many works

were on display that gave a hint of the new kinds of expression to come in the advertising of tomorrow.

Takayuki Soeda,
ADC Exhibition Committee Member



Takuya Onuki



Kenjiro Sano



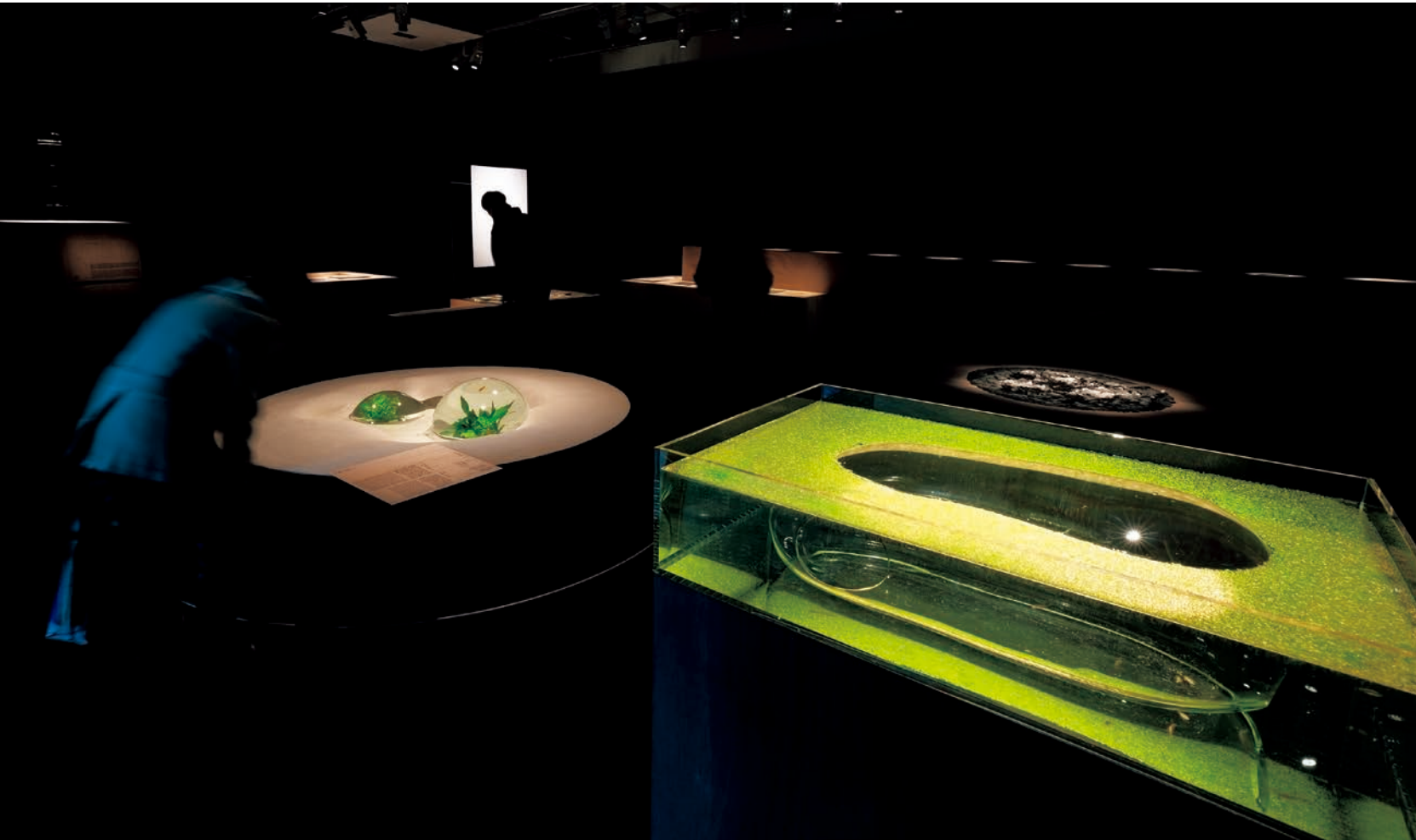
Atsuki Kikuchi



Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind

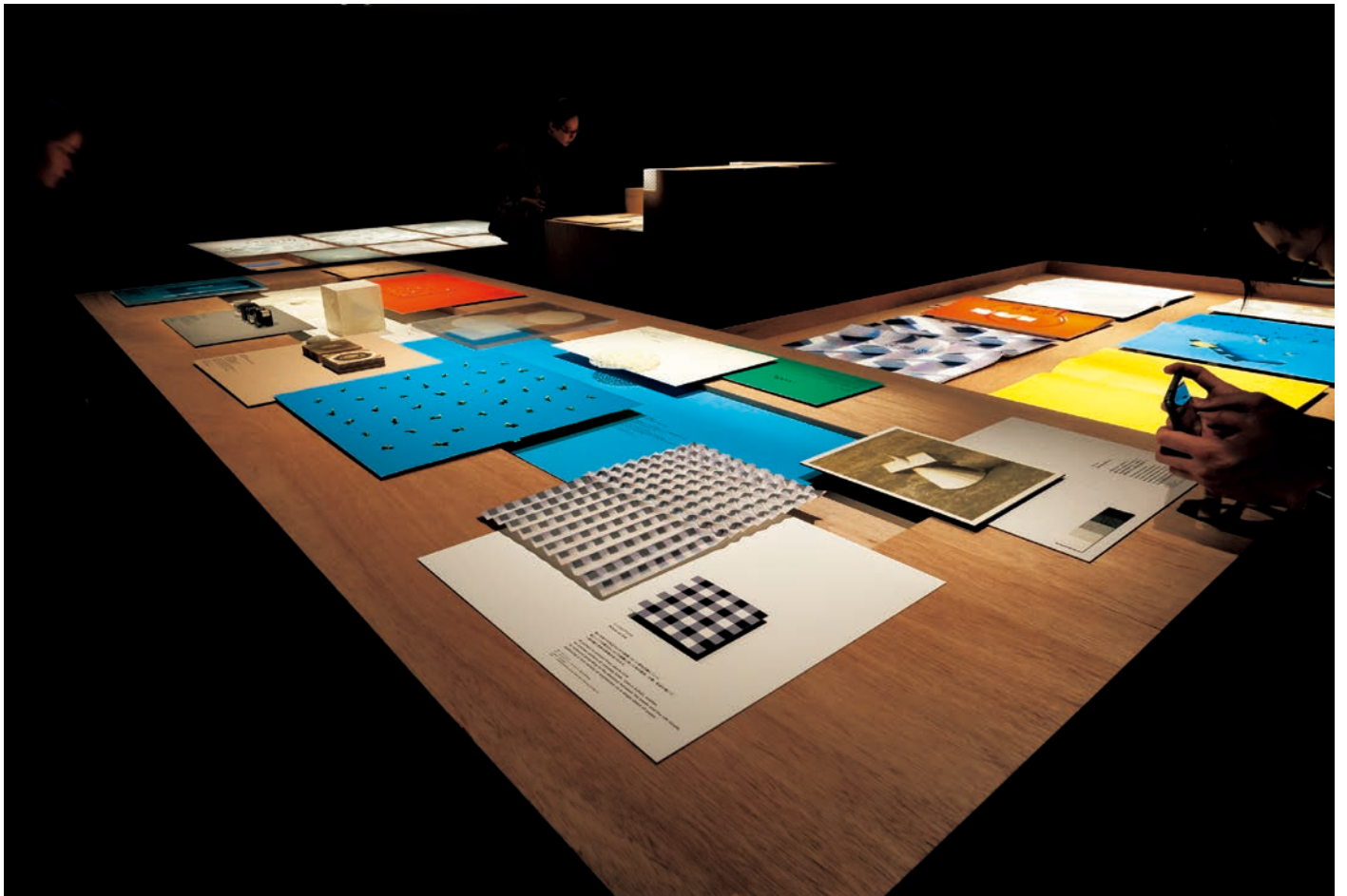
December 3, 2018 – January 26, 2019

続々 三澤 遥



ものごとを組み立てていくプロセスの中で、自分でも想像していなかったことを見つける瞬間があり、それに出会いたくて私はデザインの仕事をしていますところがあります。自分の中の固定概念が揺さぶられる。自分は何もわかっていなかったんだと未知を感じて嬉しくなる。原理や要素、素材など、その気づきが身近なものであればあるほど喜びは倍増します。これをだれかに伝えたい、共有したい。その思いこそ、私のデザインの原動力かもしれません。たくさんの方々の支えがあり、今回の展覧会を走りきることができました。ご協力いただいた皆様、心よりありがとうございました。 三澤 遥

In the process of putting things together, there are moments when I discover things I myself had never imagined, and part of why I work in design is out of a desire to encounter such moments. The fixed notions within me are shaken. I get a sense of the unknown, a realization that I hadn't known a thing, and this makes me happy. And the closer those realizations are—underlying principles, elements, materials, etc.—the greater is my joy. It's something I want to convey to somebody, to share with. It's this thinking that perhaps is the motivating force that makes me design. I was able to make it through this exhibition thanks to the support of many people.
Haruka Misawa



Paula Scher: Serious Play

February 4 – March 25, 2019

ポーラ・シェア：Serious Play

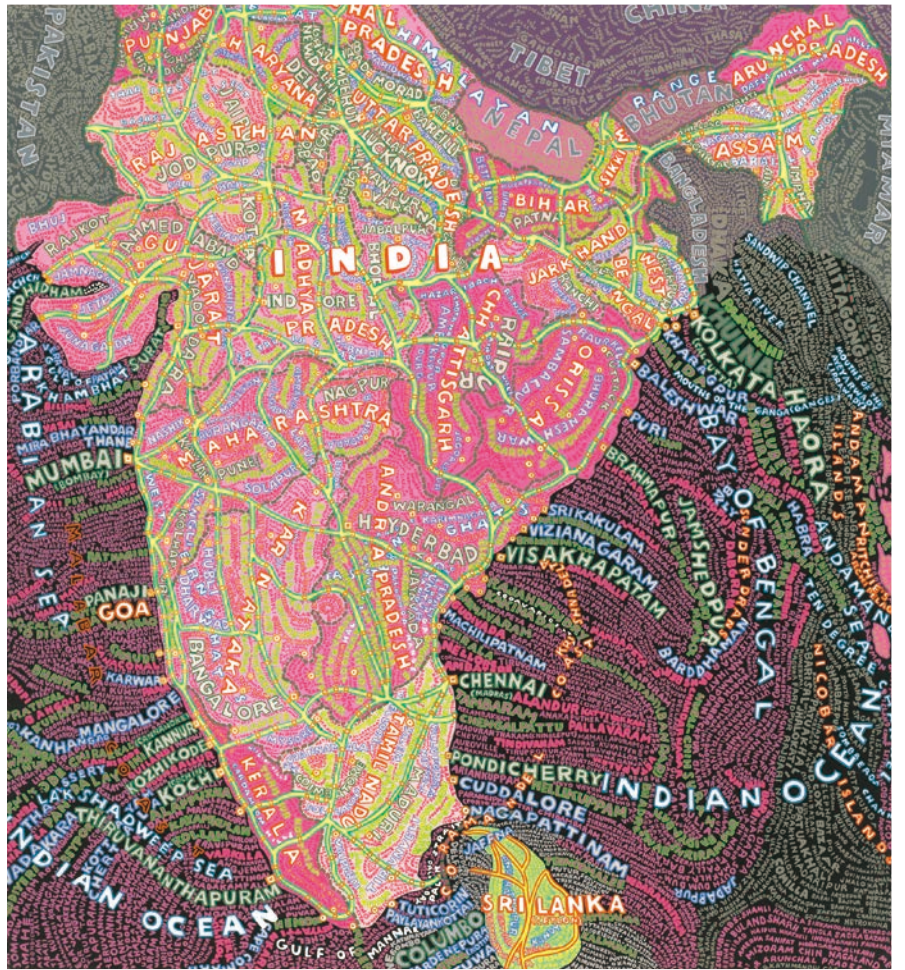
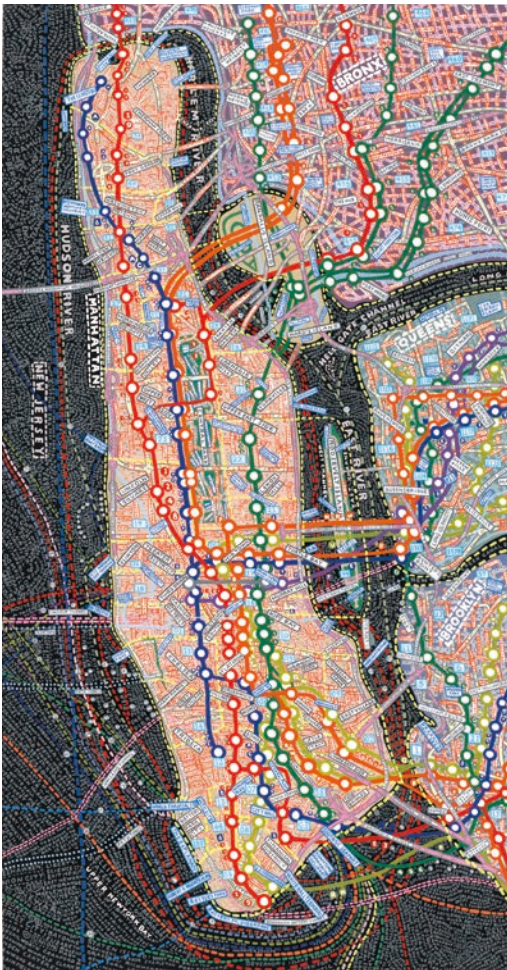


ギンザ・グラフィック・ギャラリーで回顧展を開催できて光栄でした。特に、2フロアにわたってアートとデザインの両方の作品を展示するというアメリカでも未経験の展覧会を、DNP文化振興財団が提案してくださったことに感謝しています。日本に着いてギャラリーを見た時、作品全てがすばらしく展示され、配置されていて感激しました。正直、この展覧会に入ってしまう、自分の作品であることを忘れるほどでした。関わってくださった方々に心より感謝申し上げます。私にとってかけがえのないイベントとなったこの展覧会は、いつまでも大切な思い出となるでしょう。

ポーラ・シェア

I was honored to have a retrospective exhibition at ggg. I was especially delighted that the DNP Foundation proposed a two floor exhibit, combining my fine art work with my design which I never show together in the States. When I arrived in Japan and saw the show installed, I was pleased with the hanging and positioning of all the works. In fact, I enjoyed seeing my own show so much that I almost forgot it was my work. I send warm greetings and thanks to everyone involved. It was a very special event for me and I will cherish the memory of it.

Paula Scher



kyoto ddd gallery 2018-19

April 10 – June 23, 2018

Graphic West 7: YELLOW PAGES

July 3 – August 21, 2018

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

August 28 – October 23, 2018

Keiichi Tanaami Dialogue

November 12 – December 22, 2018

Learn Science through Graphics: The Story of Evolution

January 12 – March 16, 2019

Typographic Composition, Yoshihisa Shirai



colonization and henceforth globalization, have consequentially become culturally schizophrenic with a mix of their own culture and western or contemporary culture. How then, do they try to translate and connect these cultures?

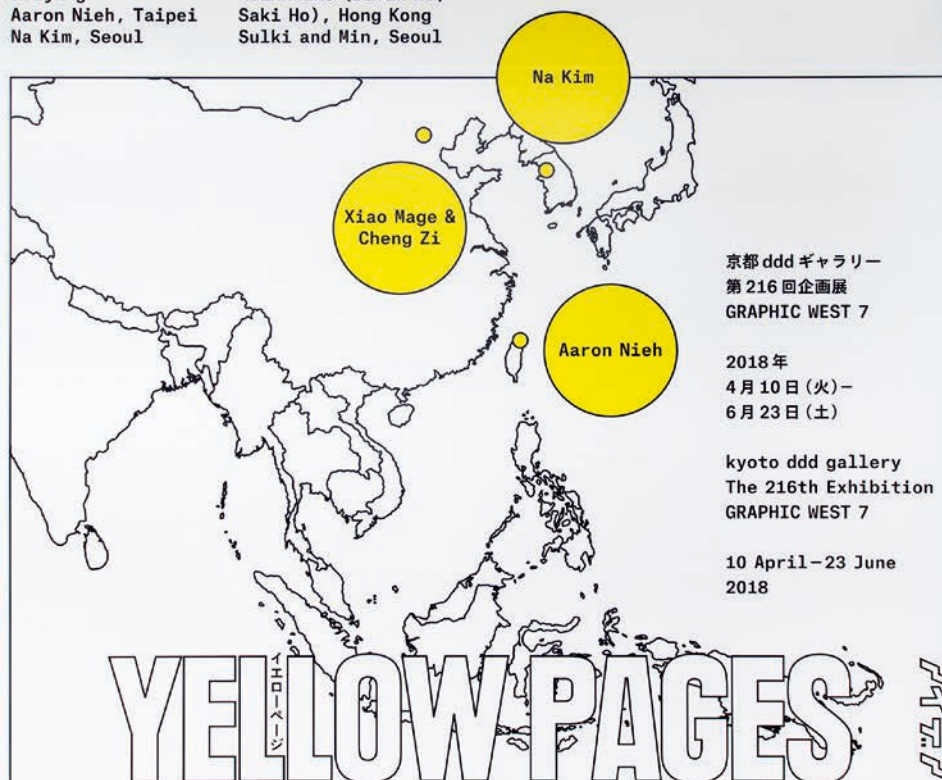
Artists

Xiao Mage & Cheng Zi, Beijing
Aaron Nieh, Taipei
Na Kim, Seoul

Curators

Tetsuya Goto, Osaka
Milkxhake (Javin Mo, Saki Ho), Hong Kong
Sulki and Min, Seoul

さまざまなデザインの翻訳が試みられ、日本ならではの型が生まれた。では、他のアジアの国々ではどうだろうか。日本を含めたアジア各国は、敗戦や植民地など、それぞれに歴史的断絶を経験し、またグローバル化の波を受け、伝統的な文化と西欧 / 現代的な文化との間で、言わば文化的分裂症にかかっている。それらをつなぐ翻訳作業は、いかに試みられているのだろうか。「イエローページ」は、このような課題を扱う展覧会である。



Graphic West 7: YELLOW PAGES

April 10 – June 23, 2018

Graphic West 7: YELLOW PAGES

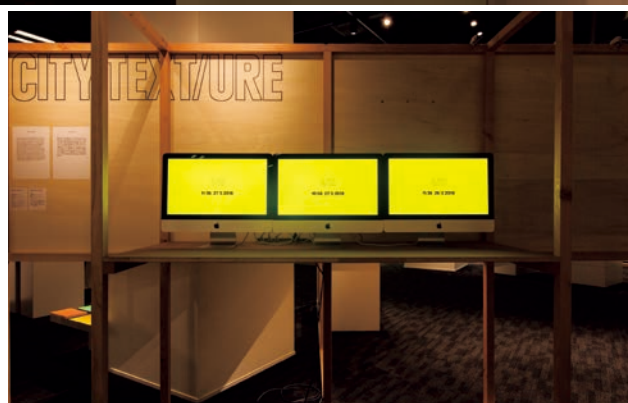
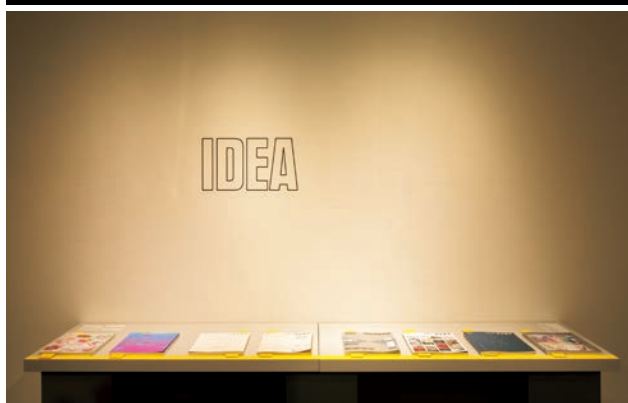


2013年の第5回以来2回目の「GRAPHIC WEST (以下GW)」を担当させていただけたことにまず感謝したい。関西～西日本を飛び越えたさらに「西」のアジアのデザインを紹介してきたことは、京都dddのオルタナティブな存在意義を示す重要な試みだと考えている。本展は『アイデア』での連載を展覧会として立体化したものだが、GW5も日本タイポグラフィ協会『typographics ti:』を下地にした同様のコンセプトであったため、今回はデザイナーだけでなく、印刷会社などとのコラボレーションにも焦点をあてた。また、GW5はデザイナー向けのトークが企画の軸になっていたが、今回は学生を対象としたワークショップなどを通じて、将来に向けた土壌づくりを意識した。 後藤哲也

First of all, I would like to express my gratitude for being asked to curate a “GRAPHIC WEST” exhibition for the second time, following the fifth such exhibition held in 2013. I think going beyond the scope of Kansai and western Japan to introduce design from farther west—Asia—is an important undertaking that demonstrates kyoto ddd gallery’s alternative raison d’être. This seventh “GRAPHIC WEST” brought three dimensions to the “YELLOW PAGES” series originally featured in IDEA magazine. The fifth exhibition in the series had had a similar concept—in that case based on the Japan Typography Association’s “typographics: ti:”—so this time I focused not only on designers but also on collaboration with a publisher. Also,

whereas the fifth “GRAPHIC WEST” exhibition had centered on talk sessions targeted at designers, this time I made a conscious effort to lay the groundwork for the future through workshops and other events oriented toward students.

Tetsuya Goto



Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

July 3 – August 21, 2018

TDC 2018



「東京TDC賞2018」の成果を見せるTDC展。渋谷克彦氏の展覧会ポスターが京都太秦の風情に映える。『エイドリアン—よむきくをまぜる試み』でRGB賞を受賞した中村至男氏のギャラリートークは、脳や生理に「わかる!」気持ちよさが聴衆の能動的な参加姿勢を引き出し、質の高い時間となった。翌日は「どっこワークショップ—ドット絵を作ってみよう!」を開催。世界的に評価される中村氏の絵本『どっこ どうぶつえん』からの出題・指導で、小学生を対象に行われた。終了後にはdddに作られた特設コーナーに作品を展示、またワークショップの様子を上映した。世界各国からのグラフィックデザインの先鋭と、子供たちの天真爛漫な世界の競演となった。

東京TDC 照沼太佳子

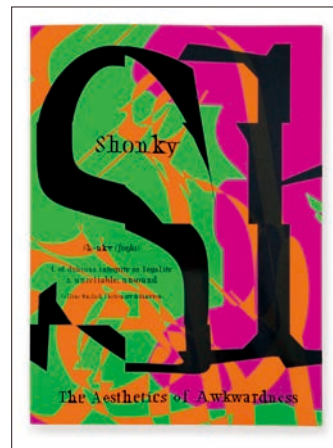
The exhibition highlighted the results of the 2018 Tokyo TDC Awards. The exhibition poster, created by Katsuhiko Shibuya, fit perfectly into the refined atmosphere of Kyoto's Uzumasa area. The Gallery Talk by Norio Nakamura, who won the RGB Prize for "Adrian," his foray into mixing "reading" and "listening," turned into an event of high quality, with the good feeling of mentally and physiologically "understanding" eliciting active participation by the audience. The following day Mr. Nakamura held a workshop for elementary school students on making dot drawings. He directed the participants using samples from his globally acclaimed picture book *Dottoko Zoo*. After the workshop, Mr. Nakamura's works were

displayed in a specially established area of the gallery, and a video of the workshop was shown. The occasion became a collaboration between leading graphic designers from all over the world and the purely innocent world of children.

Takako Terunuma, Tokyo TDC



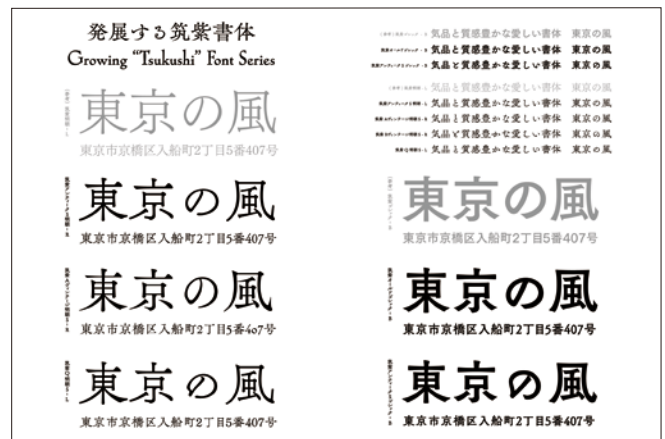
Tsuguya Inoue



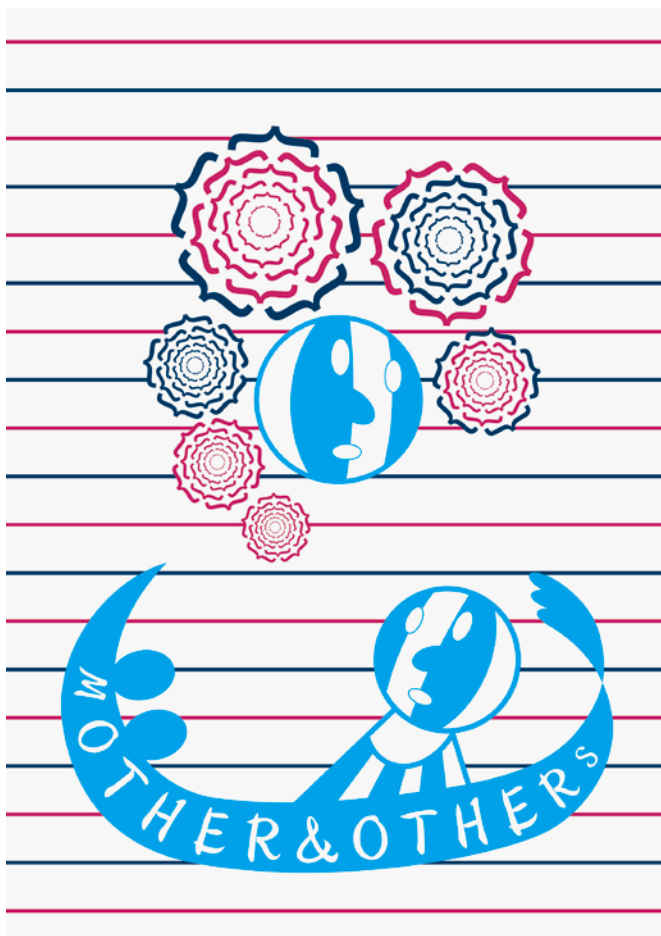
Fraser Muggeridge studio



Norio Nakamura



Shigenobu Fujita



Masayoshi Nakajo



M/M(Paris)



Balmer Hählen

Keiichi Tanaami Dialogue

August 28 – October 23, 2018

田名網敬一の現在展



今回のdddギャラリーの展示は、私の作家活動のなかで最も満足できる充実した内容になった。デザインに特化したギャラリーでの展示は、いくつもの制約があり、アートの分野に比べると幾分不自由な気がする。デザイナー自身が存在しない縛りに躊躇してしまうことが原因かもしれない。

dddでの「田名網敬一の現在」と題した展示は、タイトルの示すとおり、現在進行中の私の仕事全般を丸ごと公開したものである。あらゆる境界や領域を超えての展開は、私にとっても初めての試みだった。多種多様な作品が発する波動の衝突が、想像外の異界を出現させたのかもしれない。 田名網敬一

This exhibition at kyoto ddd gallery was in content the most satisfying and complete show of my artistic career. Exhibitions held at galleries that specialize in design typically have a number of constraints, and they seem somewhat lacking in freedom compared to exhibitions in the field of art. The reason may be hesitation on the part of designers themselves to be bound by nonexistent restrictions. My exhibition at kyoto ddd gallery presented a complete overview of my work currently in progress. It was the first time to show works spanning across all boundaries and spheres. The collisions of waves set in motion by such diverse works perhaps gave birth to unimagined realms. Keiichi Tanaami



Learn Science through Graphics: The Story of Evolution

November 12 – December 22, 2018

特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学ビジュアル・デザイン研究室共催展

グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展



「進化のものがたり展」の原点は、2000年代後半に行ったフランス国立高等装飾美術学校 (École nationale supérieure des Arts Décoratifs: 略称 ENSAD) との共同授業にあります。ENSAD との授業ではメディアを絵本に限定したのですが、今回は、メディアは絵本に限定せず、映像やゲームなど学生に自由に設定させました。その結果、京都dddギャラリーに来場した子どもたちが、ゲーム、絵本、映像などを楽しむ姿が見られました。

グラフィックデザインはポスターなどの広告メディアが中心ではありますが、今回の展覧会では、それ以外のメディアへのグラフィックデザインの可能性を示すことができたのではないかと思います。

辰巳明久 (京都市立芸術大学 教授)

The exhibition “The Story of Evolution” evolved out of a series of classes held jointly with France’s École nationale supérieure des Arts Décoratifs (EnsAD) roughly a decade earlier. In those classes, the media of instruction had been limited to picture books; but in the classes conducted in conjunction with this exhibition, the students were not limited and could select their preferred media. As a result, children visiting the gallery could be seen enjoying a variety of fun exhibits. Graphic design tends to center on advertising media: posters and the like. This exhibition, however, enabled exploration into the potential of graphic design in other media.

Akihisa Tatsumi,
Professor, Kyoto City University of Arts



Typographic Composition, Yoshihisa Shirai

January 12 – March 16, 2019

組版造形 白井敬尚



本展は好評をいただいた2017年秋のgggでの展示「組版造形 白井敬尚」の巡回展です。内容はggg展と同様で、文字組版を配置・構成した紙面空間に焦点を当てた展示をしました。加えて新たに制作した組版造形と、ブック・フォーマットの構造設計も展示しました。dddでの試みとして、和英の解説冊子を作成・配布し、スマートフォンやタブレットで解説文が読め、音声ガイドが実装されたアプリケーション、「カタログポケット」も導入されました。「組版が描く紙の上の風景」と評していただいた本展を終え、今後への展望と可能性を見出すこともできました。このような機会を与えてくださったdddの関係者の皆様、そして来場者の方々に感謝致します。

白井敬尚

This exhibition was first held at ggg in the autumn of 2017, to considerable acclaim. As at that earlier venue, here again I focused on arrangements and configurations of lettering on newspaper pages. In addition I showed newly created typographic compositions and structural designs in book format. For this show at ddd, I also prepared a brochure explaining my works in both Japanese and English, made it possible for visitors to read my explanations on a smartphone or tablet, and offered an application, "Catalog Pocket," that provided an audio guide to my exhibits. The exhibition garnered praise for its "typographic landscapes on paper," and after its conclusion I came away with an overview of where to proceed going

forward and the possibilities lying ahead in the future. I am grateful to everyone at ddd for giving me this opportunity, and to all those who took time to visit my exhibition.

Yoshihisa Shirai



Center for Contemporary Graphic Art and Tyler Graphics Archive Collection 2018–19

March 1 – June 10, 2018

A Select Few Colors: From the DNP Graphic Design Archives

June 16 – September 9, 2018

Kenji Kitagawa: Devices in Black –The Distance of Memory

September 15 – December 23, 2018

Helen Frankenthaler's Experimental Impressions:
31st Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection



A Select Few Colors: From the DNP Graphic Design Archives

March 1 – June 10, 2018

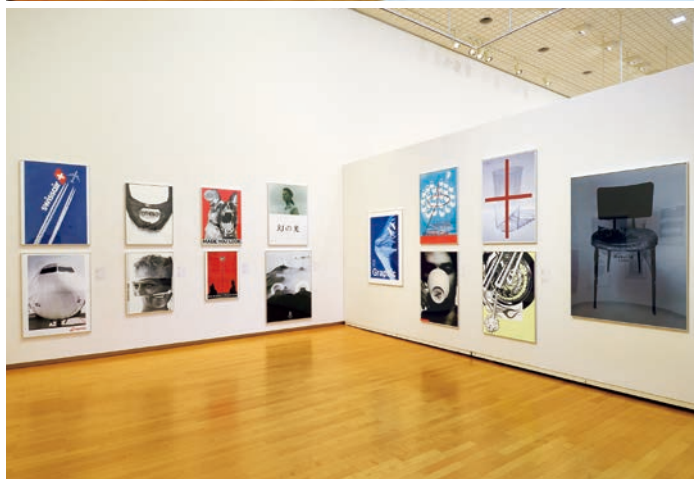
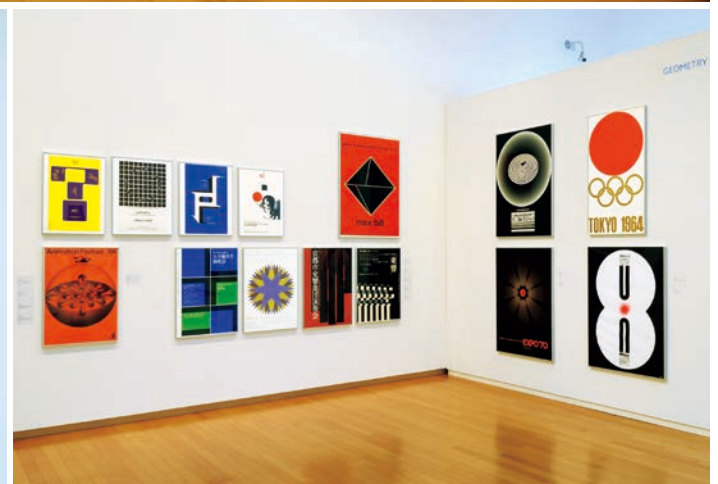
少数精鋭の色たちーDNP グラフィックデザイン・アーカイブより



視覚芸術の一つであるポスターは、情報やメッセージを伝達するという目的ゆえに、人々の視線を集めるため多くの色彩を駆使して表現されることが少なくない。だが、あえて色数を抑えて表現した作品もしばしば作られている。それらは、過剰なほど色彩が氾濫する現代にあって、その潔さがかえって目を引く、力強い表現にもなりえるのである。本展では少数の選ばれた色を用いたポスター作品を通して、デザイナーたちが限られた条件の中で最も効果的な表現を探り、思い思いに力をふるった挑戦の数々を展覧した。

In posters, a visual art, in many instances designers employ myriad colors as a way to attract the attention of the viewer, in order to carry out the poster's inherent purpose to convey information or a message. Often, however, the designer will intentionally create works that make use of a limited palette of colors. In these times overflowing with colors to the point of excess, such posters can, by virtue of their atypical conciseness, attract attention as powerful vehicles of expression. In this exhibition, through posters produced using only a select few colors, visitors were able to see how designers have probed optimally effective means of artistic expression within limited conditions, each focusing his or

her talents on their challenging task in a unique way.



Kenji Kitagawa: Devices in Black –The Distance of Memory

June 16 – September 9, 2018

北川健次：黒の装置—記憶のディスタンス



1970年代に銅版画家として作家活動を開始し、写真製版によるエッチング（フォトグラビュール）を用いて濃密かつ硬質な画面の作品を作り出してきた北川健次（1952-）。80年代以降はオブジェ、コラージュ、写真などへと表現領域を拡げてきたが、いずれにおいても彼が目指したのは、観者の内面に働きかけて記憶表象や想像力を喚起する「装置」としての作品である。本展では、多面的な北川健次の創作の中から、原点である銅版画を中心にオブジェを加えた代表作を展示し、魅惑的な視覚体験をもたらす彼の作品世界に迫った。

Born in 1952, Kenji Kitagawa embarked on his artistic career in the 1970s as a copperplate artist, using photogravure to produce works imbued with great density and stiffness. From the 1980s onward he expanded his areas of artistic expression to include three-dimensional objects, collages, and eventually photography, and in every instance he has sought to create works as “devices” that appeal to the viewer internally and stir images from memory and powers of imagination. From Kitagawa’s multifaceted output, this exhibition focused on his representative works in intaglio printing—his starting point—augmented by three-dimensional objects. It provided visitors with a close look at this artist’s works of captivating visual appeal.



Helen Frankenthaler's Experimental Impressions: 31st Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

September 15 – December 23, 2018

ヘレン・フランケンサラー[エクスペリメンタル・インプレッション]:
タイラーグラフィックス・アーカイブコレクション展 Vol.31



即興的な色面を描いた独創的な抽象絵画によってアメリカ美術に大きな足跡を残したヘレン・フランケンサラー（1928–2011）。彼女は版画制作にも一貫して情熱を傾け、多くの斬新な作品を生み出した。「エクスペリメンタル・インプレッション=実験的な刷り」とはフランケンサラーが制作したモノプリント（一点制作の版画）のシリーズのタイトルだが、彼女の革新的な版画制作そのものを指す言葉ともいえる。本展ではヘレン・フランケンサラーの版画作品の繊細かつ大胆な造形とみずみずしい色彩の魅力を紹介した。

Helen Frankenthaler (1928-2011) left an indelible mark within the history of American art with her unique abstract works depicting spontaneous color surfaces. She also continuously poured great passion into printmaking, producing a plethora of eye-catching works in this genre. The term “experimental impressions,” featured in the exhibition title, is taken from a series of Frankenthaler’s monoprints, but it also applies to her entire body of innovative prints. This exhibition introduced visitors to her works’ simultaneously delicate and bold forms and highly attractive forays into new colors.



Exhibition Tour

企画展「マリメッコ・スピリッツ - パーヴォ・ハロネン / マイヤ・ロウエカリ / アイノ＝マイヤ・メツォラ」巡回



茨城県陶芸美術館



岐阜県現代陶芸美術館

2017年秋から2018年春まで、東京で、「マリメッコ・スピリッツ」展と題した展覧会がほぼ同時期に2箇所で開催された。一つは、gggのマリメッコで現在最も活躍している3人のデザイナーに焦点を当てた展覧会。各デザイナーの代表作と合わせて、日本にインスピレーションを受けた新作が紹介された。ギャラリーエークウッドは、マリメッコの暮らしぶりを、日本文化との出会いの中で紹介したものだった。その二つの展覧会が融合され、副題を「フィンランド・ミーツ・ジャパン」として、2018年春の茨城県陶芸美術館を皮切りに、岐阜県現代陶芸美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館と続き、2019年夏から秋の大阪市立東洋陶磁美術館まで巡回している。実際のファブリックがクラシックなものから新作まで、大きく吊り下げられてマリメッコの世界観を創出し、展示作品は東京会場から共通でありながらも、各会場の展示スペースに合わせたクリエイティブな展示展開となっていて、若い世代を中心に来館者を魅了

している。
来場者からは、「マリメッコのパターンは、力強く存在感がある」「この空間に浸っていると元気になる」「カラフル」「日常の中でこんな使い方があるとのヒントがある」「どこか何か、日本のパターンと共通している気がする」「自然からインスピレーションを得ていることがよく理解できる」「自分の生活もちょっと工夫してみたくなった」などの声が寄せられている。

S2株式会社 迫村裕子

- 巡回展
「マリメッコ・スピリッツ展 - フィンランド・ミーツ・ジャパン」
同時開催「フィンランド陶芸：芸術家たちのユートピア」
- 特別協力
マリメッコ、公益財団法人ギャラリーエークウッド、
公益財団法人 DNP 文化振興財団
- 後援
フィンランド大使館、フィンランドセンター
- 企画協力
S2株式会社

From autumn 2017 to spring 2018, the "Marimekko Spirit" exhibition took place at two venues in Tokyo. One was ggg, where the focus was on three designers who play central roles at Marimekko today. Here, in addition to each designer's representative works, the show featured new works that had been inspired by Japan. The second exhibition was held at Gallery A4. It introduced the Marimekko lifestyle in the context of its encounter with Japanese culture. Subsequently, these two exhibitions were integrated and in a new configuration, appended by the subtitle "Finland Meets Japan," the show has been traveling around Japan: starting from the Ibaraki Ceramic Art Museum in spring 2018, continuing to the Museum of Modern Ceramic Art, Gifu and the Hagi Urugami Museum, and now, in summer 2019, at the Museum of Oriental Ceramics, Osaka. The new exhibition evokes the worldview of Marimekko with a display spanning from classic fabrics to brand-new works; and while the items on exhibit are the same as those shown in Tokyo, at each venue the display has been creatively modified to match the specific location. Visi-

tors, primarily of the young generation, have been captivated. Among their comments: "Marimekko patterns are so unique, so identifiable"; "Just being in the gallery cheers me up"; "I love the colors!"; "The show gave me hints on how to use Marimekko in my everyday life"; "I can detect various things in common with Japanese patterns"; "Clearly, Marimekko draws inspiration from nature"; "Seeing this show makes me want to make small changes in my lifestyle."

Hiroko Sakomura, S2 Corporation

- Traveling Exhibition:
"Marimekko Spirit: Finland Meets Japan"
Simultaneous Show:
"Power of Ceramics: Modernism in Finnish Applied Arts"
- Special Cooperation
Marimekko, Public Interest Corporation Gallery A4,
DNP Foundation for Cultural Promotion
- Support and Assistance
Embassy of Finland in Tokyo, The Finnish Institute in Japan
- Planning Cooperation
S2 Corporation

- 茨城県陶芸美術館
2018年4月21日 - 2018年7月1日
主催：茨城県陶芸美術館
協賛：株式会社常陽銀行
入館者数：約19,000人
- 岐阜県現代陶芸美術館
2018年11月17日 - 2019年2月24日
主催：岐阜県現代陶芸美術館
共催：中日新聞社
入館者数：約23,000人
- 山口県立萩美術館・浦上記念館
2019年4月20日 - 6月30日
主催：山口県立萩美術館・浦上記念館、朝日新聞社、
yab 山口朝日放送
特別協力：エフエム山口
後援：山口県国際交流協会、山口日本フィンランド友好協会、
山口県教育委員会、萩市、萩市教育委員会
入館者数：18,063人
- 大阪市立東洋陶磁美術館
2019年7月13日 - 10月14日
主催：大阪市立東洋陶磁美術館、朝日新聞社

- Ibaraki Ceramic Art Museum
April 21 - July 1, 2018
Organizer: Ibaraki Ceramic Art Museum
Support: Joyo Bank, Ltd.
Number of Visitors: approx. 19,000
- Museum of Modern Ceramic Art, Gifu
November 17, 2018 - February 24, 2019
Organizer: Museum of Modern Ceramic Art, Gifu
Co-organizer: Chunichi Shimbun Co., Ltd.
Number of Visitors: approx. 23,000
- Hagi Urugami Museum
April 20 - June 30, 2019
Organizers: Hagi Urugami Museum,
The Asahi Shimbun Company,
Yamaguchi Asahi Broadcasting, Ltd. (yab)
Special Cooperation: FM Yamaguchi
Support: Yamaguchi International Exchange Association,
Yamaguchi Japan Finland Society,
Yamaguchi Prefectural Board of Education, Hagi City,
Hagi City Board of Education
Number of Visitors: 18,063
- Museum of Oriental Ceramics, Osaka
July 13 - October 14, 2019
Organizers: Museum of Oriental Ceramics, Osaka,
The Asahi Shimbun Company

教育・普及事業

Education & Enlightenment

ギャラリートーク概要

ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

出演者：カロリン・フラーゼンブルグ(アムステルダム市立美術館 グラフィックデザイン部門キュレーター)

本展のキュレーターによって語られるクロウエルの略歴と人物像。印刷会社勤務でアマチュア画家・写真家だった父親からの影響、高校卒業後に学んだアカデミア・ミネルヴァでの経験や、リートフェルト・アカデミーではモダンなタイポグラフィを推奨していたピート・ズワルトが恩師であったこと。就職、そして独立してからも展覧会や展示会のデザインを数多く手がけ、1963年には他分野を総合的に扱う画期的なデザイン会社、トータルデザインを共同で設立し、オランダのグラフィックデザイン界の中心人物となっていくことなどが次々と語られた。日本に縁のある仕事として大阪万博でのオランダ館の監修、数々の名作ポスターが生まれたアムステルダム市立美術館での仕事も紹介。最後はクロウエル自身の言葉で締めくくった「私は幸運だった。私が仕事をしていた時代に、デザイナーは時代の精神に手を突っ込み、引き出し、時代の精神自体を形作っていく上で役割を果たしたのだ」。



ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて 特別講演
グリッドシステムの成立とその意味

出演者：白井敬尚

グリッドシステムでも有名なクロウエルの展覧会に関連して、会期中に白井氏によって行われた特別講演。まずは日本のデザイナー達がグリッドシステムをどのように導入して、どのように活用してきたかを、いくつかの用例をグリッドで分析しながら概観した。そしてバチカン図書館にある4世紀の写本、13世紀のグーテンベルクの42行聖書など、時代を遡って様々な資料を見せながら、書体やレイアウトについての長い歴史を解説。さらにモダンタイポグラフィの時代に入り、多くのデザイナーがタイポグラフィに関するいろいろな試みをしていく中で、秩序、機能、合理性、汎用性を求めたグリッドシステムが成立したことを詳細に説明した。もちろんクロウエルとグリッドシステムについても語り、その後に訪れたデジタル時代の大きな変化や、ますます多様化した現在の状況から今後の展望まで、充実した内容の3時間となった。



Harumi Yamaguchi × Yoshiroten
Harumi's Summer

出演者：山口はるみ + Yoshiroten + 小池一子

進行役も兼ねてゲストに迎えたのは山口氏とは20代前半からの長い付き合いでお互いによく知った仲である小池一子氏。まずはそもそもなぜこんなに世代も違う二人が出会ったのかという小池氏からの問いに、山口氏は8年前に突然仕事の依頼があり、実際に会ってみたい人か感じるものがあつたという。山口氏のファンだというYoshiroten氏も、ネットで調べてホームページを見つけメールでレコードジャケットの仕事を頼み込んだんです、と出会いを語った。そして今回の展覧会が決まった時に、ポットYoshiroten氏がことが頭に浮かび、コラボレーターとして参加してもらうことに。一階ではプールで夏を演出、見た人がクララッとするものを作りたいと、地階では壁全体を使って膨大な量の作品を時代順にカラーージュした。今後の抱負を聞かれて、ぜひHarumi's Winterも開催したいとYoshiroten氏。私はもっと長生きして、皆様の面白い仕事をいっぱい見せていただきたいな、と山口氏。



横尾忠則 幻花幻想幻画譚1974-1975

出演者：横尾忠則 + 平野啓一郎

展示作品が新聞連載小説の挿絵ということもありゲストには小説家の平野啓一郎氏を迎えた。ちょうど僕が母のお腹の中にいた頃に横尾さんがこの作品を描かれていたのですよ、と平野氏。世代は違うものの以前よりアトリエをたびたび訪れたり電話で話したりと、横尾氏とは親交があり終始和やかな雰囲気だトークが進む。インド旅行に行くために原稿よりも先に挿絵をまとめて描いておいた話など、当時のエピソードの数々を交えながら、小説の内容と挿絵の関係について、自身も小説を書く横尾氏が語る。僕は僕で小説とは違う独自の物語を作っている気がする。絵は絵として自立していればいいし、読者も読んだ通りをそのまま説明するような挿絵を見て面白くないですよ。平野氏も、あまり具体的すぎると、読者のイマジネーションも限定されてしまうし、少し象徴的な挿絵の方がいいのではないかと思います。後半はさらに話題が拡がり、絵画や美術の表現と文学における表現の違いなど充実した内容となった。



Graphic West 7: YELLOW PAGES
クロージングトーク

出演者：谷口純弘 (FM802/digmeout プロデューサー / Unknown Asia プロデューサー)、松村貴樹 (Kitakagaya Flea & Asia Book Market 主宰 / JIN/SECTS 編集長)、後藤哲也 (近畿大学専任講師 / 本展キュレーター)

アジアにフォーカスしたブックフェア「KITAKAGAYA FLEA & ASIA BOOK MARKET」とアジアからデザインを発信するアートフェア「UNKNOWN ASIA」について、二人の企画者の話を交え、「YELLOW PAGES」も含め、なぜアジア・フォーカスな企画が大阪で立ち上がっているのか、その背景や関係者の思いなどが語られた。後藤氏は日本タイポグラフィ協会「タイポグラフィックス・ティー」の編集を担当。それまで関心の無かったアジアのデザイン取材を通じて興味をもち、大阪なんばのdddギャラリーで展覧会を2013年に開催。谷口氏は2015年から、松村氏は2017年からとほぼ2010年代半ば頃に活動開始が集中。これには意外な事に航空業界でのLCCの発展が貢献している事や、大阪の文化がアジアの人々から身近で受け入れられ易い事などが寄与しているとの事。彼らのアジアに対する尽きない興味が伝わってくる内容であった。



TDC 2018

出演者：中村至男

暴風雨で開催が危ぶまれる中、それでも参加された多くの来場者に向けて無事講演を行う。亀倉雄策賞を受賞し注目される中村氏は、映像作品「エイドリアン - よむきくをまぜる試み」でこの年のTDCでRGB賞を受賞。この作品はPV業界で行われている歌詞と音楽の認知を融合させる取り組みを参考とした実験作品との事。その他イメージが連鎖する19枚の連作ポスター、ディック・ブルーナ展でのオマージュ作品、イメージを書割化しリアルと組み合わせた「エルメスのある部屋」など直近の作品解説に始まり、1990年代から始まるCBSソニー時代や明和電機との仕事、そして佐藤雅彦氏とのプレイステーション向けゲーム開発、各種クライアントの広告作品に至るまで、いずれも見事に対する斬新な中村氏独特の視点・感覚を披露頂いた。最後に京都で子ども向けに開催するワークショップに繋がるドット絵本についての紹介で幕を閉じた。



TDC 2018 子供向けワークショップ
「どっこワークショップ-ドット絵を作ってみよう!」

会場：京都市右京ふれあい文化会館
講師：中村至男
2018年度メディア創造学科第2回講演会：「文字を見る、文字で伝える - デザインの国際賞「東京TDC」とタイポグラフィ」
会場：同志社女子大学 京田辺キャンパス 聡恵館
講師：照沼佳子

ワークショップでは、まず始めに中村氏の体のすべてがドットだけでできた動物のいる不思議な動物園の世界を舞台にした絵本「どっこどうぶつえん」を紹介。4〜12歳の子供と保護者が参加。動物にこだわらず自分のテーマでどっこ絵を作成。かわいい動物から日本地図や野球場の観客席まで子供の自由な発想によるカラフルなドット絵が作られた。会期中ddd内のワークショップ紹介コーナーに額装して展示。同志社女子大学での講演会では東京TDC事務局長の照沼氏からTDC賞の趣旨と審査方法について紹介。照沼氏自身の女性としての責任ある仕事への取り組み方・気構えについてたくさんのスライドを通じて、これから社会へ巣立って行く事への不安もあるだろう女子学生達を前に丁寧に披露された。



田名網敬一の現在①

出演者：田名網敬一 + 宇川直宏

田名網氏と同じ京都造形芸術大学で教鞭を取り、自らを田名網信者と語る「現在美術家」の宇川氏とのトーク。膨大な田名網作品の画像・映像を見ながら、60年以上に及び創作活動について質問形式で進行。田名網氏が活動を開始した時期はサイケデリック・ムーブメント全盛期。ベトナム反戦運動とも相俟って数々の作品が産まれた。半芸術の作家達との交流もあり、正当のグラフィックデザインとは対極の作品が産みだされた。同じ事を続けていると飽きてしまう為、絵画・イラストだけでなくアニメーションや実験映像にも創作の幅を広げ、その事がよい効果につながったと言う。1975年から月刊プレイボーイのアートディレクションを10年担当。1980年代からは立体作品も始め、この時代の作品だけを収集するコレクターも存在する。そんな1981年に結核という大病を患い、闘病生活の中で見た幻覚を起源としたモチーフが子供時代の東京大空襲のイメージに加わり何度も現出する事になったという。多作の源は他に趣味が無いことと目や腰に衰えを感じないからだと締め括った。



日本のアートディレクション展2018

出演者：大貫卓也＋服部一成＋中村至男＋吉田ユニ

ゲストは「Advertising is」で今年のADCグランプリを受賞した大貫卓也氏と、服部一成氏、今年新たにADC会員に加わった中村至男氏と吉田ユニ氏の4名。受賞作に掲載された作品について、大学に西武線通っていた時にリアルタイムで「としまえん」のポスターを見ていましたよ、と中村氏。他にも浅葉克己さんの「不思議、大好き」など西武のポスターも貼ってあってすごい通学路でした。そう、あの時代は日常生活の中で広告がライブだったと大貫氏。お金もかかっているし知恵も使っていたと振り返る。新卒で大貫デザインに入り3年間働いた吉田氏からは大貫氏の制作についての裏話もあるなど、大貫作品の数々を中心に語りながら、広告の変遷や制作スタイルについてなど話は尽きなかった。また会期中には恒例となった一般部門のG8と会員部門のgggを巡るギャラリートゥアーを、植原亮輔、河合雄流、菊地敦己のADC会員三氏をゲストに迎えて開催し、こちらも好評であった。



田名網敬一の現在②

出演者：田名網敬一＋佐藤博一

京都造形芸術大学教授の佐藤氏がアジアからの留学生も多く含む同大学のゼミ学生らを引率し、田名網氏自らが、会場を巡りながら展示作品をきめ細かく解説。展示作品は60年以上の期間の間に制作されたグラフィックデザイン作品、イラストレーション、アニメーション、立体作品、アパレル作品と世界的に注目される最近の海外ブランドとのコラボレーション作品まで非常に多岐にわたる。その中の数多くの作品を取り上げて、制作の経緯や背景、アイデア、制作手法等々について、丁寧に紹介された。長年にわたり常に好奇心と熱意をもって仕事に取り組んでこられた歴史が伝わり、学生達は終了後のレポート提出に向けて細かくメモを取りながら、熱心に聞き入っていた。最後に佐藤教授から、創作期間もジャンルも幅広い直接作品に触れて作家である田名網氏から解説が聞けた貴重な機会を頂いた事への感謝の挨拶で締め括られた。



続々 三澤遥 ギャラリートゥアー

出演者：三澤遥

実際に展示を見ながら作品一つ一つについて三澤氏本人が解説してくれるという貴重な機会。従来のグラフィックデザインの枠に収まらないユニークな作品の展示は、会期が進むにつれてSNSなどで大きな話題を集めていただけたに、予約なしで土曜の開館時間中に開催されたギャラリートゥアーは大盛況。三澤氏の丁寧な解説で予定時間が大きくオーバーするほどであったが、参加者は最後まで熱心に耳を傾けていた。また会期中にはgggとG8のはしご企画として両ギャラリーを作家と一緒に巡るギャラリートゥアーも実施。同時期にG8で開催中だった「大原の身体 田中の生態」展を三澤氏が観察・質問し、gggの「続々 三澤遥」展を大原大次郎、田中義久の両氏が観察・質問するというユニークな企画。和やかな雰囲気の中、年代的にも近い三氏による飾らないざっくばらんなやりとりで、参加者も大いに楽しめた模様。



京都dddギャラリー・京都市立芸術大学ビジュアル・デザイン研究室共催展グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展ギャラリートゥアー

京都市立芸術大学ビジュアル・デザイン研究室との共催展である本展のオープニングに、作品を担当した20名の学生達が、自身の作品について解説を行うギャラリートゥアーを開催。展示作品は、ゲーム、映像、絵本など多岐に渡った。これらの作品は進化に関する専門書を読み、その内容を小学校の中・高学年の子どもたちに伝えるために作られており、作品と共に展示された専門書のどこに着目し、それを作品のどこで表現し印象づけたのか、また具体的な制作の際に苦労した事などについて、自分の言葉で説明を行った。当日は近隣の別の芸術大学の学生達も先生と共に参加し、本の内容をグラフィックデザインの手法で伝えるというカリキュラムの可能性について関心を示されていた。



ポーラ・シェア：Serious Play

出演者：ポーラ・シェア

トークのテーマはデザイナーとして長く仕事を続けるための10の秘訣。何かにほれ込みなさい。何かに対し抗いなさい、ヒーローを持つことも大事だけど、同じくらい大事なのは大嫌いなものを持つことです。キャリアの階段に沿わないこと、予想されること以外のこともやりましょう。初心者であり続けましょう、無知だから失敗する、失敗するから学べます。一番得意なことをしましょう、でも時代と共に変わらなければいけません。実際の経験や具体的に各年代の自身の仕事について語りながら次々と飛び出す言葉は、半世紀近いキャリアに裏打ちされているから説得力を持つ。デザイナーを続ける秘訣というだけでなく人生を生き抜くための施策とも言えそうな内容に観客も大きくうなずく。ニューヨークでトップを走り続ける彼女の言葉は多くの人の心に確実に響いたようだ。「私はいろいろなことをやってきました。そしていろいろ変身してきました。でも変わらず私のままです」。



組版造形 白井敬尚①

出演者：白井敬尚

「組版造形とブックフォーマット」と名づけられたトークでは、白井氏が仕事にいたった職場で出会った様々な先輩方の影響を受けながら「タイポグラフィをやるぞ」と志した経緯が語られた。その後、30代半ばまではヘルムート・シュミット氏他を通じて心酔したスイス・タイポグラフィの王道を追ってきたが、正方形主宰の清原悦志氏の死を経て、もっと視野を広げたいと社内勉強会を開催し、日本語書体の活用方法を習得したとの事。展示作品の中から数多くの作品について、レイアウトフォーマットを用いて詳しく解説された。また会期中には白井氏によるギャラリートゥアーも開催、ほぼ時系列に配置された展示会場の展示台を休憩も挟んで3回に分けて事細かく解説。使用した書体や制作時のブックフォーマットや編集者とのエピソード、DTPの発展の影響なども多岐に渡り、デザインや編集に関わる参加者も多く、実践的な内容に関心していた。いずれのイベントも誠実な白井氏の人柄とタイポグラフィ、組版に関する尽きない好奇心が伝わる内容であった。



Graphic West 7: YELLOW PAGES ギャラリートゥーク

出演者：後藤哲也(近畿大学専任講師/本展キュレーター)、室賀清徳(前「アイデア」編集長)、ミン(韓国)、ジェイビン・モ、サキ・ホ(香港)、杉崎真之助(大阪芸術大学教員、グラフィックデザイナー) ワークショップ(会期中に2回開催) 講師：アーロン・ニエ(台湾、グラフィックデザイナー) 講師：シャオマグ(北京、グラフィックデザイナー)

後藤氏がテーマとするアジア7都市のデザインの潮流をまとめた「アイデア」の特集について紹介。デザイナー本人だけでなく、写真家や印刷会社など彼らを取り巻く人々の紹介を含めて今回の展覧会としての経緯が話された。大阪時代のdddでGraphicWestとしてアジアを取り上げる展覧会のシリーズ企画を担った杉崎氏から当時の状況解説があり、またサキ氏からはヨーロッパでもアジアのデザインを取材するプロジェクトへと繋がっている状況を報告。アジア各国のデザイン動向を追い続ける面白さが伝わる内容であった。また、dddと大阪芸術大学でワークショップを開催。アーロンはデザイン技法のコントラストとリビートについて、シャオマグは持ち寄った本を解体し再構成するという実践的な内容の指導で、参加した学生からは意義深かったとの感想が聞かれた。



組版造形 白井敬尚②

出演者：白井敬尚＋ニコール・シュミット＋一野篤

「制約と自由」というタイトルで白井氏が敬愛する故ヘルムート・シュミット氏の娘であるニコール氏と同世代で京都在住のデザイナー一野氏が白井氏に組版に関して質問する形で進行。全体を「改行と組版」、「スペーシングと濃度」、「グリッドと自由」、「本と住まい」という4テーマ別に展示作品を中心とした組版のスライドを示しながら、改行はどこで行うべきか？、アイデア誌面のハンギングの意図は？、花形装飾はどう使うべきか？、文字組のスペーシングのコツは？、書籍『老建築家の歩んだ道』で使われた4つの書体を選んだ理由は？等々、デザイナーには参考になる具体的な質問に対して、白井氏より懇切丁寧なコメントを頂く。白井氏も30代半ばまでとそれ以降で、組版に対する姿勢に変化が出て機能一辺倒のスイス・タイポグラフィ重視から開放され、グリッドシステムも花形装飾も原稿内容をどう表現するかに関与するために臨機応変に使えるようになった、という経験に裏打ちされた言葉が印象的であった。



ggg, ddd Gallery Talk Overviews

wim crouwel: fascinated by the grid (Talk No.1)

Speakers : Carolien Glazenburg (Curator of Graphic Design, Stedelijk Museum Amsterdam)

Ms. Glazenburg related how Crouwel had been influenced by his father, an amateur artist and photographer who worked at a lithographer's workshop; how after graduating from high school Crouwel had studied at Academie Minerva (Art School); and how, at Gerrit Rietveld Academie, he had studied under Piet Zwart, a pioneer of modern typography. After taking up employment, and then later after going freelance, Crouwel performed design work for numerous exhibitions and shows. In 1963 he became co-founder of Total Design, an epochmaking design company handling all fields comprehensively, setting Crouwel on the path to becoming a central figure in the world of Dutch graphic design. Ms. Glazenburg also introduced his supervision of the design of the Dutch Pavilion at Osaka Expo '70, and also his prolific production of poster masterpieces for Stedelijk Museum. She closed the Gallery Talk with a quotation from Crouwel himself: "I was lucky to have been working at a time when a designer could tap into and define the spirit of the age."



wim crouwel: fascinated by the grid (Special Talk) "The Creation of the Grid System and its Meaning"

Speakers : Yoshihisa Shirai

Mr. Shirai began by introducing how designers in Japan came to adopt the grid system and how they have used it, illustrating his discussion with an analysis of various grid usages. Mr. Shirai next spoke about the long history of typefaces and layouts while retrospectively showing a variety of materials, including a 4th century manuscript kept in the Vatican Library and a 42-line Gutenberg Bible from the 13th century. He went on to discuss the era of modern typography, describing in detail how, as many designers experimented with typography in various ways, the grid system was created in a quest after order, function, rationality and universal utility. As expected, Mr. Shirai also spoke about Crouwel and the grid system, and then he turned to the vast changes characterizing the subsequent digital age, giving an overview of today's increasingly diversified situation and the outlook for tomorrow. This Special Talk, lasting a full three hours, was remarkably rich in content.



Harumi Yamaguchi X Yoshirotten Harumi's Summer

Participants : Harumi Yamaguchi + Yoshirotten + Kazuko Koike

Ms. Kazuko Koike began by asking Ms. Yamaguchi how she met Yoshirotten, an artist of a much younger generation. Ms. Yamaguchi replied that eight years earlier, quite out of the blue she had been contacted by Yoshirotten asking her to do a job for him. On his part, Yoshirotten said that he was a fan of Ms. Yamaguchi, and he had looked up her website and contacted her by email with a request to work with him on a record jacket. Ms. Yamaguchi related how, when it was decided to hold this exhibition, immediately Yoshirotten popped into her head, and she asked him to participate as collaborator. On the ground floor he evoked the image of summer using a swimming pool, aiming to knock visitors for a loop, while in the gallery's lower level he opted to fill the walls completely with a collage, in chronological order, of Ms. Yamauchi's enormous volume of works. When asked what he hoped to do in the future, Yoshirotten replied he was especially eager to hold "Harumi's Winter." Ms. Yamaguchi responded saying she hoped to live an even longer life and show lots more interesting works to everybody.



Tadanori Yokoo: The Complete Drawing for Genka by Jakucho Setouchi 1974-1975

Participants : Tadanori Yokoo + Keiichi Hirano (novelist)

Mr. Hirano began by commenting that exactly at the time when Mr. Yokoo had created the illustrations on exhibit, he was still in his mother's womb. Their generational gap aside, Mr. Hirano was on close terms with Mr. Yokoo, having visited his studio on many occasions, talked at length on the telephone, and so on, so the mood of the Gallery Talk was congenial from start to finish. Mr. Yokoo, who himself writes fiction, spoke about the relationship between the content of a work of fiction and its illustrations, injecting various anecdotes from those days. For example, he related how, because he was scheduled to travel to India, he had drawn all the illustrations even before the manuscript of the story had been completed. Mr. Yokoo added that, personally, when he makes illustrations he feels like he's creating a story all his own. Illustrations should be able to stand on their own, and for the reader too, it would be boring if illustrations only served to explain exactly what they are reading. During the second half, the talk expanded further, touching on the differences between expression in art and paintings and expression in the realm of literature.



Graphic West 7: YELLOW PAGES (Closing Talk)

Participants : Sumihiro Taniguchi (producer of FM radio-sponsored art fairs) + Takaki Matsumura (supervisor of Asian book fair, editor-in-chief of *IN/SECTS* magazine) + Tetsuya Goto (exhibition curator, Associate Professor at Kindai University)

The three discussed why events focused on Asia, including "YELLOW PAGES," were being launched in Osaka, and introduced the background to this trend. Mr. Goto is in charge of editing the Japan Typography Association's *Ti* magazine. He said he personally had no particular interest in Asian design until he undertook research for an article, whereupon his interest was aroused, leading to his organization of an exhibition in 2013 at ddd when the gallery was still in Osaka. Mr. Taniguchi and Mr. Matsumura became active in this sphere around the same time, 2015 and 2017. They attributed this in part mainly to three circumstances: the airline industry's development of low-cost carriers, surprisingly; the relatively lower cost of traveling to Osaka than to Tokyo; and the familiarity and easy approachability of Osakan culture to people from Asia. The content of this Closing Talk readily conveyed their boundless interest in Asia.



Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

Speaker : Norio Nakamura

Mr. Nakamura, who garnered attention as recipient of the Yusaku Kamekura Design Award in 2018, received the 2018 Tokyo TDC's RGB Prize for his film "Adrian." He described "Adrian" as an experimental work created making reference to moves in the realm of promotional videos to integrate recognition of music and lyrics. He also explained some of his most recent works, including his set of 19 imagery-linked posters, his work created in homage to Dick Bruna for the exhibition "The Secret of Simplicity: Dick Bruna's Design," and his window display titled "A Room With Hermès." Mr. Nakamura then proceeded to talk about his work for Sony and Maywa Denki tracing back to the 1990s, his PlayStation video game development in collaboration with Masahiko Sato, and advertising works he has created for various clients. In each case, the audience came to recognize Mr. Nakamura's novel perspective and perception toward seeing things. He closed his Gallery Talk with an introduction to his "dot" picture books linked to the workshop for children in Kyoto.



TDC 2018 Children's Workshop: "Dottoko Workshop: Let's Make Dot Pictures!"

Venue : Ukuyo Fureai Culture Hall, Kyoto
Instructor : Norio Nakamura
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Department of Media 2018 Lecture #2: "Seeing Words, Conveying in Words—International Awards in Design, Tokyo TDC and Typography"
Venue : Sokei-kan, Kyotanabe Campus, Doshisha Women's College of Liberal Arts
Speaker : Takako Terunuma

The workshop began with an introduction to Mr. Nakamura's *Dottoko Zoo*, his picture book depicting a marvelous zoo in which the animals' bodies are made entirely from dots. The participants were children aged 4 to 12 and their guardians, and their assignment was to create dot pictures on the theme of their choice.

The lecture was given by Takako Terunuma, Chief Secretary of Tokyo TDC. She first presented an overview of the organization's awards program and explained the judging method. She spoke about her own approach, as a woman, to her job entailing great responsibilities and, illustrating her talk with numerous slides, she offered up her views to the young women in the audience who likely felt anxieties toward finishing their student days and becoming productive members of society.



Keiichi Tanaami Today (Gallery Talk)

Participants : Keiichi Tanaami + Naohiro Ukawa

The conversation proceeded with Mr. Ukawa asking questions about Mr. Tanaami's more than six decades of creative activity stretching back to 1958, while looking at his vast body of visuals. Mr. Tanaami launched his career when the psychedelic movement was at its peak, and in tandem with anti-Vietnam War sentiment, numerous works were born. Mr. Tanaami often mixed with "half-art" artists, producing works at the polar opposite of orthodox graphic design. He expanded his scope of creative artistry to painting, illustration, and even animation and experimental film, and he says doing so yielded good results. Starting in 1975, Mr. Tanaami was placed in charge of art direction of the monthly magazine *Playboy*, and the first issue quickly went into an additional print run of 300,000 copies. In the 1980s Mr. Tanaami became seriously ill with tuberculosis, and he said that on any number of occasions he saw visions of motifs engendered by the hallucinations he saw during his illness, coupled with images of the firebombing of Tokyo that he experienced as a child. He closed this Gallery Talk stating that the source of his prolific production was his lack of other hobbies or pastimes, plus the fact that he as yet feels no deterioration in his eyesight or lower back.



Art Direction Japan 2018 Exhibition

Participants : Takuya Onuki + Kazunari Hattori + Norio Nakamura + Yuni Yoshida

Mr. Nakamura, commenting on the content of Mr. Onuki's winning work, said he had personally seen his "Toshimaen" posters in real time when he used to ride the Seibu Line to his university. It was an amazing route to school, he noted, as the line also displayed Seibu Department Stores' posters: Katsumi Asaba's "Fushigi daisuki" series, for example. "True, in those days advertising was a vibrant part of our everyday lives," reminisced Mr. Onuki. "A lot of money was being spent, and a lot of wisdom went into ads, too." Ms. Yoshida, who spent three years working for Mr. Onuki after graduation, told some behind-the-scenes anecdotes. In this way, while focusing on Mr. Onuki's many works, the conversation extended in myriad directions, discussing how advertising has evolved and how production styles have changed. In addition, as in previous years, during this exhibition a Gallery Tour was held that visited both ggg and Creation Gallery G8. The tour was led by three ADC members—Ryosuke Uehara, Takeru Kawai and Atsuki Kikuchi—and it too was well received.



Haruka Misawa – Again and Again: Ideas Coming To Mind (Gallery Tour)

Guide : Haruka Misawa

This Gallery Tour was a rare opportunity, with Ms. Misawa personally explaining each of her works while actually viewing them in the gallery. As an exhibition of unusual works not fitting into the conventional framework of graphic design, her show attracted great interest with each passing day, through the social media especially, and as a result the Gallery Tour, held on a Saturday during the exhibition's run and requiring no reservations, was packed with visitors. Ms. Misawa's explanations were so thorough and detailed, the tour overshot its scheduled time substantially, yet the participants all listened intently right up to the end. During the show's run, a special and unique event was also held where visitors joined designers on a tour covering both ggg and Creation Gallery G8. Ms. Misawa led the tour of "Ohara's Physicality, Tanaka's Bionomics" held at the same time at Creation Gallery G8, and Daijiro Ohara and Yoshihisa Tanaka guided the visitors on a tour of Ms. Misawa's exhibition at ggg. The tour participants greatly enjoyed watching the frank exchanges between the three designers, in a highly congenial atmosphere.



Paula Scher: Serious Play

Speaker : Paula Scher

The theme of Ms. Scher's Gallery Talk focused on her 10 "life lessons" for continuing to work for a long time as a designer. 1. Fall in love with something that was designed; 2. Have heroes and/or mentors; 3. Push back against something; 4. Defy the career staircase; 5. Go the distance; 6. Be a neophyte; 7. Find a personal expression; 8. Be civic-minded; 9. Hang around with smart people; 10. Do what you do best but change with the times. Ms. Scher's words of wisdom were highly persuasive, interspersed by talk of her own experiences and specific work she did at each stage of her career stretching back almost half a century. What she outlined were hints not only for successfully continuing a career in design, but for living a rewarding life as well, and her audience was enthralled. Listening to this designer who has constantly remained at the top of her profession in New York, many in the audience felt her words resonate deeply. Ms. Scher closed by stating that in the course of her career she has done many things and changed in many ways, but always remained true to herself.



Graphic West 7: YELLOW PAGES (Gallery Talk)

Participants : Tetsuya Goto (exhibition curator, Associate Professor at Kindai University) + Kiyonori Muroga (editor-in-chief of *IDEA* magazine) + Min Choi (Sulki & Min, Korea) + Javin Mo & Saki Ho (Milkshake, Hong Kong) + Shinnosuke Sugisaki (graphic designer, Professor at Osaka University of Arts)

In the Gallery Talk, Tetsuya Goto introduced the special feature in *IDEA* magazine dedicated to design trends in seven cities in Asia. Together with Javin Mo and Min Choi, Mr. Goto talked about how the exhibition evolved, with its focus not limited to the designers themselves but extending also to the photographers, printing companies and others in their orbit. Mr. Sugisaki, who had been in charge of the "Graphic West" series of exhibitions about Asia at ddd when the gallery was still located in Osaka, spoke of the situation in those days. Saki Ho reported on the project to gather information on Asian design even in Europe. The event vividly conveyed how interesting it is to keep following the design trends of the Asian countries. During the exhibition's run, two workshops by graphic designers were also held, exclusively for students. Aaron Nieh offered instruction on design methods' contrasts and repeats, while Xiao Mage guided participants in taking apart and reassembling books they had brought along.



Keiichi Tanaami Today (Gallery Tour)

Participants : Keiichi Tanaami + Hirokazu Sato

Hirokazu Sato, a Professor at Kyoto University of Art and Design, brought along students of his seminar, including many foreign students from Asia, and Mr. Tanaami personally went with them through the gallery explaining his works in detail. His works span an extremely broad spectrum created over a period of more than 60 years, including graphics, illustrations, animations, three-dimensional works, apparel works, and Mr. Tanaami's most recent works created in collaboration with overseas brands, which have garnered great attention worldwide. Among this vast body, he selected a significant number and spoke of how they came to be produced, their background, embedded ideas, production method, etc. Mr. Tanaami's long years of dedication to his work, driven by his enduring curiosity and passion, were vividly conveyed, and the students listened intently, all while taking copious notes in preparation for submitting a report afterward. Mr. Sato closed the session expressing appreciation to Mr. Tanaami for such a precious and rare opportunity to receive explanations, in person, of his works of such diverse genres created over so many years.



Collaborative Exhibition by kyoto ddd gallery and the Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution" (Gallery Tour)

To mark the opening of this exhibition organized jointly with the Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts, a Gallery Tour was held where twenty students explained their works on display. Their works spanned diverse media—games, video, picture books, etc.—all created to convey to children at the elementary, junior and high school levels the content of books on evolution which they had read specially for this assignment. The university students explained in their own words what points they focused on in the books they had read (which were also on display), how they expressed those points in their works, and what challenges they had faced when actually creating their works. Also participating in this event were students and teachers from another nearby arts university. Great interest was demonstrated in the potential of a curriculum that utilizes graphic design as a method for conveying the content of books.



Typographic Composition: Yoshihisa Shirai Exhibition (Gallery Talk No.1 and Gallery Tour)

Speakers : Yoshihisa Shirai:

At this Gallery Talk, Mr. Shirai spoke of how he originally decided to focus on typography under the influence of the various people he met after joining his first place of employment. Subsequently, until his mid-thirties he said he followed the "orthodox" path of Swiss typography, which he became infatuated with thanks especially to the influence of Helmut Schmid. After the death of Etsushi Kiyohara, principal of Seihokai Corporation, Mr. Shirai became eager to broaden his horizons. He organized an in-house study group and it was here, he said, that he learned how to skillfully use Japanese typefaces. Referring to his works on display, Mr. Shirai proceeded to explain a large number of them in detail in terms of their layout and formatting. At Gallery Tour, he explained his works on display, which were arranged in near chronological order, again in great detail—touching upon the typefaces used, the book formats employed during their production, anecdotes about the editors he had worked with, the impact from the development of desktop publishing, etc.



Typographic Composition: Yoshihisa Shirai Exhibition (Gallery Talk No.2)

Participants : Yoshihisa Shirai + Nicole Schmid + Atsushi Ichino

In this second Gallery Talk, Mr. Shirai was posed questions about composition by Nicole Schmid, daughter of the late Helmut Schmid, and Atsushi Ichino, a Kyoto-based designer of Mr. Shirai's generation. A slide presentation about composition was given, divided into four themes: line breaks and composition; spacing and density; grids and freedom; and books and appearance. What's aimed at in using hanging paragraphs in the pages of *IDEA* magazine? How should one use fleurons? What's the secret to creating good block spacing? These were among the questions asked, all of relevance to designers, and Mr. Shirai responded very thoroughly to each. He related how his stance toward composition had changed around his mid-thirties: whereas up until then he had attached importance to Swiss typography and its total emphasis on function, after that he broke free and shifted to ad hoc use of the grid system and fleurons as best fit the purpose expressing the content of the written text.



CCGA Print Studio Workshops

CCGA 版画工房ワークショップ



CCGAでは版画教育の拠点としての機能を強化し、地域でのグラフィックアートの普及振興にいっそう貢献するために、小規模ながらも本格的な版画制作を行うことのできる工房を2012年に開設、市民向け版画ワークショップの定期開催を開始した。版画工房にはエッチング用プレス機等のほか、大日本印刷の前身である秀英舎で100年以上前に実際に使われていたアルビオン・プレス（活版用手動平圧印刷機）を再生して設置している。

2018年は2つのワークショップを開講した。1回目は、6月16日—9月9日開催の「北川健次：黒の装置—記憶のディスタンス」展関連事業として、北川健次氏の1990年代以降の版画作品を手がけたプリンター・加藤史郎氏を講師に迎え、オリジナルのインク制作など銅版画の「刷り」の技術を学ぶ講座を開催した。また2回目は、木口木版による蔵書票制作講座を開催した。

2013年に開始した工房の一般開放も継続している。これは、CCGAでのワークショップ受講などによる版画制作の経験がある方を対象に、毎週土曜日（ワークショップ開講日およびCCGA休館日を除く）に工房を開放して、継続的に版画制作を行えるようにしたものである。

CCGAでは、グラフィックアートにより深く接する機会の得られる場として、地域の皆様が版画工房を活用していただくことを願っている。

In 2012 CCGA opened a studio, small in scale but enabling full-fledged print production, in a quest to strengthen its function as a base for education about printmaking and to contribute further to the promotion of graphic art locally. Since its opening, print workshops open to local citizens have been held here on a regular basis. The studio is equipped with an etching press and other standard equipment as well as a restored Albion press that was actually used more than 100 years ago at Shueisha, the forerunner of Dai Nippon Printing Co., Ltd.

Two workshops were held during 2018. The first was conducted in conjunction with the exhibition “Kenji Kitagawa: Devices in Black—The Distance of Memory” (June 16 to September 9). The workshop featured Shiro Kato, who has performed printing for Kitagawa's works since the 1990s. He taught how copperplate prints are printed, including how original inks are prepared. The second workshop offered instruction in making bookplates by wood engraving. Again this past year, the print studio was made open for use by the general public, a practice started in 2013. Every Saturday (except when a workshop is being held or CCGA is closed), people who have experience in printmaking through attendance at CCGA's workshops or otherwise are able to use the studio, enabling them to continue their printmaking hobby without interruption.

CCGA hopes that the print studio will be actively

used by local citizens as a venue affording them opportunities to become more deeply acquainted with graphic art.

2018年度 第1回 銅版画の刷りとインクを学ぶ

日程：2018年6月30日（土）、7月7日（土） 全2日間
講師：加藤史郎（プリンター、加藤史郎版画工房主宰）
受講者数：10名

2018年度 第2回 木口木版で蔵書票づくり

日程：2018年11月17日（土）、11月24日（土）、
12月1日（土）、12月8日（土） 全4日間
講師：野口和洋（木口木版画家）
受講者数：10名

1st 2018 Workshop: “Learning How to Make Prints and Inks”

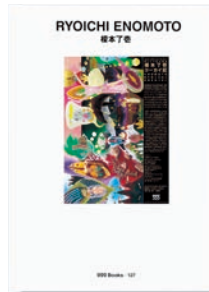
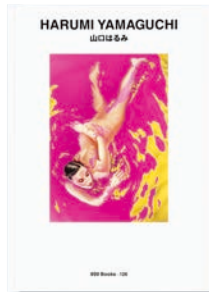
Dates : June 30 (Sat), July 7 (Sat), 2018
Instructor : Shiro Kato
(printer, principal of Kato Shiro Print Studio)
Number of participants : 10

2nd 2018 Workshop: “Making Bookplates by Wood Engraving”

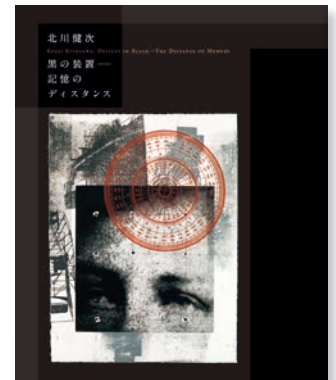
Dates : November 17 (Sat), November 24 (Sat),
December 1 (Sat), December 8 (Sat), 2018
Instructor : Kazuhiro Noguchi (wood engraving artist)
Number of participants : 10

Publications 2018-19

出版活動



■ Graphic Art & Design Annual 17-18



- ggg Books 126 山口はるみ
- ggg Books 127 榎本了希
- ggg Books 128 三澤遙

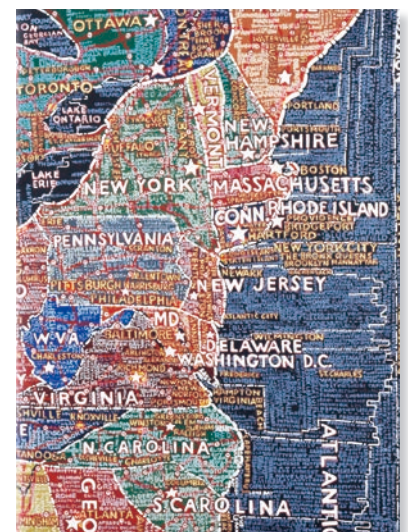
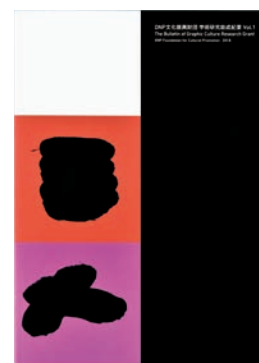
- グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展
- 北川健次 黒の装置—記憶のディスタンス

- DNP文化振興財団 学術研究助成紀要 第1号
- The Maps – Paula Scher

- ggg Books 126 Harumi Yamaguchi
- ggg Books 127 Ryoichi Enomoto
- ggg Books 128 Haruka Misawa

- Learn Science through Graphics: The Story of Evolution
- Kenji Kitagawa: Devices in Black –The Distance of Memory

- The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.1
- The Maps – Paula Scher



アーカイブ事業

Archiving

Poster Archives 2018-19

Koichi Sato Poster Archives

佐藤晃一 ポスターアーカイブ



1974



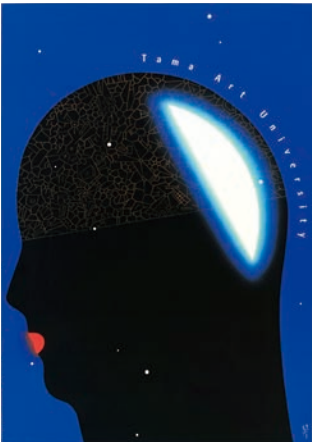
1977



1985



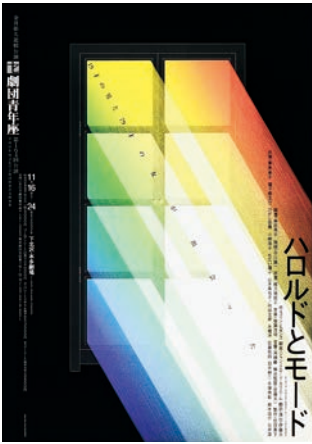
1997



2000



2002



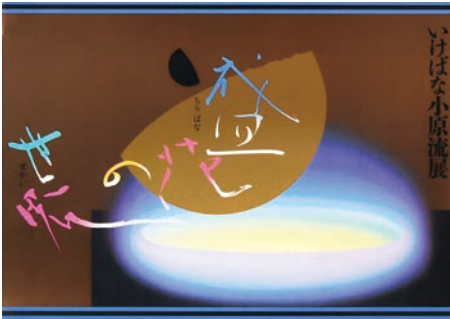
2002



2013



2016



1978



2001



Mamoru Suzuki Poster Archives

鈴木守 ポスターアーカイブ



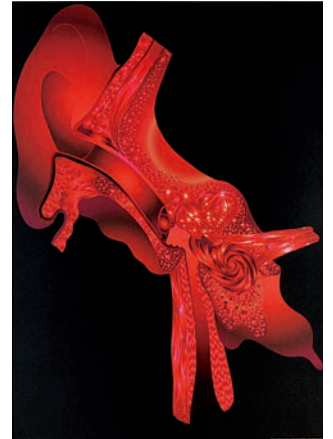
1991



1994



1994



1997

Minoru Niiijima Poster Archives

新島実 ポスターアーカイブ



2005



2006



2007



2007

DNP Graphic Design Archives

DNP グラフィックデザイン・アーカイブ

◆ポスターアーカイブ(2019年3月現在)

- ① 収蔵作家: 237名(国内作家: 120名、海外作家 117名)
- ② 総点数: 15,156点
- ③ 2018年4月～2019年3月の受入れ状況

<日本>	
・佐藤 晃一	59点
・鈴木 守	38点
・新島 実	13点
<hr/>	
計	110点

◆アーカイブ作品寄贈

- ① アムステルダム市立美術館(オランダ)
2018年5月
田中 一光ポスター 44点
福田 繁雄ポスター 4点
永井 一正ポスター 44点
- ② M+美術館(香港)
2018年12月
田中 一光ポスター 215点
福田 繁雄ポスター 231点
永井 一正ポスター 224点

◆アーカイブ作品貸出

- ① 諸橋近代美術館
「夢幻×無限 ～エッシャー、ダリ、福田繁雄～」展
2018年4月20日～6月24日
福田 繁雄作品 7点
- ② 武蔵野美術大学 美術館・図書館
「新島実と卒業生たち—そのデザイン思考と実践
1981-2018」
2018年9月3日～9月29日
新島 実作品 18点
- ③ 装飾美術館(フランス)
「ジャポニズムの150年」展
2018年11月15日～2019年3月3日
田中 一光作品 1点

◆Poster Archives (as of March 2019)

- ① Artists represented: 237
(120 domestic, 117 from overseas)
- ② Items in collection: 15,156
- ③ Items received between April 2018 and March 2019

<Domestic>	
・ Koichi Sato	59
・ Mamoru Suzuki	38
・ Minoru Nijima	13
<hr/>	
Total	110

◆Donations to the Archives

- ① Stedelijk Museum Amsterdam (The Netherlands)
May 2018
44 Ikko Tanaka posters
4 Shigeo Fukuda Posters
44 Kazumasa Nagai posters
- ② M+, Museum for visual culture (Hong Kong)
December 2018
215 Ikko Tanaka posters
231 Shigeo Fukuda Posters
224 Kazumasa Nagai posters

◆Loans of Archived Works

- ① Exhibition of M. C. Escher, Salvador Dali and Shigeo Fukuda
Exhibition at the Morohashi Museum of Modern Art
April 20 – June 24, 2018
7 Shigeo Fukuda posters
- ② Minoru Nijima and The Graduates -
Thoughts and Practices of Visual Communication Design
1981-2018
Exhibition at the Musashino Art University
Museum & Library
September 3 – 29, 2018
18 Minoru Nijima posters
- ③ Japon – Japonismes. Objets inspirés, 1867-2018
Exhibition at Musée des Arts Décoratifs (France)
November 15, 2018 – March 3, 2019
1 Ikko Tanaka poster

国際交流事業

International Exchange

International Symposium Italy and Japan: Relations and Exchanges through the Arts

Sala Napoleonica – University of Milan : April 5 – 6, 2018

国際シンポジウム「イタリアと日本：芸術を通じての文化交流」



Photo: Yuki Seri

2018年4月5日、6日の2日間、ミラノ大学のSala Napoleonicaで、国際シンポジウムが開催された。テーマは、「イタリアと日本：芸術を通しての文化交流」。

会場：Sala Napoleonica ミラノ大学

主催：ミラノ大学文化遺産環境学部

コーディネーター：ロッセラ・メネガッツォ教授

特別支援：ミラノ大学、公益財団法人石橋財団

後援：在イタリア日本国大使館、国際交流基金、ローマ日本文化会館、CARC 現代アジアリサーチセンター

主な講師：

西嶋大二（公益財団法人石橋財団）

Maria Daniela Candia（ミラノ大学副学長）

ロッセラ・メネガッツォ（ミラノ大学教授）

西林万寿夫（ローマ日本文化会館館長）

谷野啓（一般財団法人日本カメラ財団常務理事、日本カメラ博物館館長）

福山浩一郎（NHK事業センター専任部長）

古田亮（東京藝術大学大学美術館准教授、日本美術評論家）

石井元章（大阪芸術大学教授、文学博士）

MAKIO HASUIKE (MAKIO HASUIKE & Co., S.r.l. 社長)

神取龍生（地質学者）

ステファニア・リッチ（サルバトーレ・フェラガモ博物館館長）

Raffaele De Berti（ミラノ大学教授）

松永真（グラフィックデザイナー）

北沢永志（公益財団法人DNP文化振興財団）他

ミラノ大学、石橋財団の特別支援による2日間の国際交流イベントに、グラフィックデザイナーの松永真氏と共に財団スタッフがゲストスピーカーとして招聘された。視聴者は、大学生だけでなく、学者や一般の人々も含め250人以上の参加があり、イタリアと日本の文化交流にとって、実り多いイベントとなった。

イタリアの文化は、つねに世界の指導的な役割を果たしてきた。レオナルド・ダ・ヴィンチに象徴されるように、イタリア・ルネッサンスの精神が、いまだ

に連綿と現代のイタリアのデザイン、アート、建築等に影響を及ぼしている。

財団スタッフは、gggとdddギャラリーを通じて出合いのあったイタリアと日本の作家の交流から、今日本がイタリアから改めて学ぶべきことについて語った。松永氏は、「僕たちが貧しく悲しかった頃、みんな明るいイタリアが大好きだった」と題し、幼少期から今日まで、いかにイタリアに魅せられてきたかを、映画や家族の絆をキーワードに語り、好評を博した。



Photo: Yuki Seri

On April 5 and 6, 2018, an International Symposium was held at Sala Napoleonica, at the University of Milan, on the theme of "Italy and Japan: Relations and Exchanges through the Arts."

Venue: Sala Napoleonica, University of Milan

Organizer: Department of Cultural Heritage and Environment, University of Milan

Coordinator: Rossella Menegazzo, Professor at University of Milan

Special Support: University of Milan, Ishibashi Foundation

Support: Embassy of Japan in Italy, The Japan Foundation, The Japan Cultural Institute in Rome, Contemporary Asia Research Centre (CARC)

Key Speakers:

Taiji Nishijima (Ishibashi Foundation)

Maria Daniela Candia (Vice Rector, University of Milan)

Rossella Menegazzo (Professor, University of Milan)

Masuo Nishibayashi (Director, The Japan Cultural

Institute in Rome),

Hiroshi Yano (Standing Director, Japan Camera Industry Institute; Director, JCII Camera Museum)

Koichiro Fukuyama (Deputy Head, Cultural Promotions Center, NHK-Japan Broadcasting Corp.)

Ryo Furuta (Associate Professor, Tokyo University of the Arts Museum; Japanese art critic),

Motoaki Ishii (Ph.D.; Professor, Osaka University of Arts)

Makio Hasuike (President, Makio Hasuike & Co. S.r.l.), Ryusei Kandori (Curator, Kota City Board of Education; archaeologist)

Stefania Ricci (Director, Museo Salvatore Ferragamo) Raffaele De Berti (Professor, University of Milan)

Shin Matsunaga (graphic designer)

Eishi Kitazawa (DNP Foundation for Cultural Promotion) et al.

Graphic designer Shin Matsunaga and a staff member from the DNP Foundation for Cultural Promotion were invited to be guest speakers at this two-day international

exchange symposium specially supported by University of Milan and the Ishibashi Foundation. More than 250 people attended, including not only university students but also academic scholars and members of the general public. The event was highly productive as a cultural exchange between Italy and Japan.

Italian culture has at all times served in a global leadership role. As the work of Leonardo da Vinci symbolizes, even today the spirit of the Italian Renaissance continues to exercise an ongoing influence on contemporary Italian design, art and architecture.

The Foundation staff member spoke about what Japan today still stands to learn from Italy through exchanges between Japanese and Italian artists at ggg and kyoto ddd gallery. Mr. Matsunaga's talk was titled "In Hard Times All of Us Enjoyed and Loved Italian Beauty." In this well-received speech, he told of his lifelong fascination with Italy, from the time he was a child through to the present, focusing on his admiration of Italian cinema and of the strong family ties in evidence in Italian culture.

AGI Congress Mexico City 2018

September 24 – 29, 2018

AGI総会メキシコシティ 2018

メキシコでのAGI（国際グラフィック連盟）総会は、2000年のオアハカ総会に続いて2回目。まず最初にオプションツアーが用意され、テオティワカン遺跡、ルイス・バラガン邸、メキシコ壁画運動を知る、という3つのコースに分かれ、初日から開催地の魅力の一端に触れることができた。

毎年恒例の講演会（9/25、26開催）では、会員によるプレゼンテーションのみならず、メキシコの文化や歴史、社会情勢などを伝える、様々な分野の専門家が登壇した。移民問題や女性の地位向上といった性急に解決しなければならない課題に対して、デザインの力で取り組んでいる事例が紹介され、各々自国のかかえる問題を振り返りながら、デザイナーの社会的役割を改めて考える契機となった。

本総会をもって、ニッキー・ゴニッセン会長（オランダ会員）の任期が終了。ゴニッセン会長がかかげた目標の一つにグループの多様性があったが、本年はその成果として、チリ、ペルー、ハンガリー、シンガポールなど、今まで会員のいなかった、あるいは少なかった地域のデザイナーが多く入会した。日本からは、田中義久氏、渡邊良重氏、吉田ユニ氏の3名が新たに会員となった。

The 2018 Congress of Alliance Graphique Internationale (AGI) took place in Mexico City, marking the second such event in Mexico after the Oaxaca Congress in 2000. To begin, participants were offered a choice of three optional tours: Teotihuacán, Casa Luis Barragán or Mexican muralism. These were designed to introduce a sampling of the many attractions of Mexico City and its environs.

September 25 and 26 were dedicated to presentations by AGI members, augmented by a diverse program of talks by specialists offering their expert insight into various aspects of Mexican culture and history, social conditions, etc. Examples were presented of how the power of design is being used to address issues demanding swift resolution, such as the current immigration problem and improving the position of women in society. The program served as a prime opportunity to once again consider the social roles of the designer, while reflecting on the issues that affect the different countries represented.

The 2018 Congress marked the end of Nikki Gonnissen's (Netherlands) term as president of AGI. One of her goals while in office was to build a diverse membership, and her efforts bore fruit in 2018 with the addition of numerous designers from regions that previously had no members or few members, such as Chile, Peru, Hungary and Singapore. From Japan, three new members were inducted: Yoshihisa Tanaka, Yoshie Watanabe and Yuni Yoshida.



Photo 1: Photograph by TSDO

AGI in India

November 22 – 23, 2018

AGI特別企画 in インド

AGI初となる、会員のいない地域を開拓するためのイベントがインドで開催された。ブネのアジャンキャ・ディーワイ・パティル大学 (ADYPU) の全面的な協力により、大学のキャンパス内で、AGI会員によるレクチャーやワークショップを2日間実施。財団は、イベントの一環として企画されたAGI会員によるポスター展に関して、作品収集、展示アドバイスなどの協力を行った。

〈イベント概要〉

- 名 称: AGI in India
- 開催日: 2018年11月22日–11月23日
(ポスター展会期: 2018年11月22日–12月21日)
- テーマ: REGIONAL – 地域が世界へ提供できるものとは
- 開催地: アジャンキャ・ディーワイ・パティル大学 (ADYPU) (インド、ブネ)
- 主 催: AGI (国際グラフィック連盟) /
アジャンキャ・ディーワイ・パティル大学 (ADYPU)
- 協 力: 公益財団法人DNP文化振興財団 (AGIポスター展)
- 参加費: 学生 1,000ルピー / 社会人 3,000ルピー
- 参加者: 約300名

〈プログラム〉

- 講演会 (登壇順)
(初日)
ニッキー・ゴニッセン (AGIオランダ)
ソニア・マンチャンダ (インド / Spread Design and Innovation)
ディーン・プーール (AGIニュージーランド)
スティーラー・シャルマ (インド / INDI Design)
トミー・リー (AGI中国)
(二日目)
エヴェリン・テルベッケ & デリク・ベハージュ (AGIフランス)
佐藤卓 (AGI日本)
- ワークショップ
- 学生ポスターコンペティション
- AGIポスター展 (学生ポスターコンペティション入賞作品展、同時開催)

India was selected as the site of AGI's first event in a location where it has no members, the aim being to attract members from a new region. With full cooperation from Ajeenkya D Y Patil University (ADYPU), lectures and workshops were conducted on campus by AGI members over the course of two days. The DNP Foundation for Cultural Promotion cooperated by collecting works and offering advice on displaying them at the accompanying poster exhibition featuring works by AGI members.

Event Overview

- Name: AGI in India
- Dates: November 22 – 23, 2018
(Poster Exhibition: November 22 – December 21, 2018)
- Theme: "REGIONAL – What Regions Can Offer the World"
- Location: Ajeenkya D Y Patil University (ADYPU: Pune, India)
- Organizers: AGI / ADYPU
- Cooperation: DNP Foundation for Cultural Promotion
(AGI Poster Exhibition)
- Admission: Students 1,000 INR / Working Professionals 3,000 INR
- Participants: Approx. 300

Program

- Panel Sessions (in order of appearance)
Day #1
Nikki Gonnissen (AGI Netherlands)
Sonia Manchanda (India / Spread Design and Innovation)
Dean Poole (AGI New Zealand)
Sudhir Sharma (India / INDI Design)
Tommy Li (AGI China)
Day #2
Evelyn ter Bekke & Dirk Behage (AGI France)
Taku Satoh (AGI Japan)
- Workshop
- Student Poster Competition
- AGI Poster Exhibition (together with award-winning student works)



Photo 1, 4, 5: Photograph by TSDO

研究助成事業

Research Support

Research Results Presentations and Exchange Session

研究成果報告会・交流会

2014年からスタートしたDNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、2018年度に5年目を迎えるにあたり、これまでの研究成果をまとめた『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.1』を刊行、あわせて、2018年11月30日に東京国立近代美術館講堂において学術研究助成成果報告会兼交流会を開催した。

学術研究助成成果報告会兼交流会には総勢84名が参加した。助成期間を終えた採択研究者から選ばれた3名の研究者による研究成果報告にくわえて、審査委員、柏木博先生、前田富士男先生よりご講演いただいた。報告会の後は、美術館に併設されているレストランにおいて交流会を行い、日頃接点のない分野の違う研究者たちが交流する貴重な機会となった。

『DNP文化振興財団学術研究助成紀要 Vol.1』は、2018年までに助成期間が終了した26名の採択研究者の成果論文を収録。また、グラフィックデザイナー、永井一正氏のオーラルヒストリーを掲載した。紀要は、国立国会図書館をはじめ、全国の大学図書館、美術館等へ献本し、今後も1回刊行予定である。

In 2018, the DNP Foundation for Cultural Promotion's Research Grants Program for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art, launched in 2014, entered its fifth year. To mark the occasion, the Foundation published a volume—*The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.1*—collating the results of the research funded to date. Also, on November 30, 2018 a session was held in the Auditorium of the Museum of Contemporary Art Tokyo, at which research results were reported and participants were able to interact in free exchanges.

A total of 84 individuals participated. Research results reports were presented by three researchers who had completed their grant period, and talks were given by two members of the grant application screening committee: Hiroshi Kashiwagi and Fujio Maeda. This was followed by an exchange session in the museum restaurant, offering a rare opportunity for researchers to mix with people they would normally have no contact with in their daily lives.

The Bulletin of Graphic Culture Research Grants, Vol.1 contains research reports by 26 recipients whose grant period had been completed by 2018. An oral history of graphic designer Kazumasa Nagai is also featured. The Bulletin will be donated to the National Diet Library as well as university libraries and art museums all around Japan, with plans calling for further volumes to be published once every year.



Research Grants for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art

グラフィック文化に関する学術研究助成

DNP文化振興財団グラフィック文化に関する学術研究助成は、2018年度も58件の応募があった。研究者の間でこのプログラムの存在が着実に浸透してきたことがうかがえる。

審査は例年どおり、書類審査である一次審査、審査委員が一堂に会する二次審査の2段階で行い、討議の結果、グラフィックに関わる幅広いテーマを対象とするA部門で13件を本年度の新規採択研究に選出した。また、2017年度採択研究のうち継続助成希望のあった11件については、中間報告書にもとづく審査の結果、10件の継続助成が承認された。なお、グラフィックデザイナー田中一光に関する研究が対象のB部門は、残念ながら今年は応募がなかった。

審査は、研究テーマの新規性・独創性、社会や学問分野における意義・重要性、そして研究計画の妥当性の三つの観点で、個々の申請を評価した。今年は、新規性・独創性で際立った申請が少なく、選考に際しては、相対的に意義・重要性、研究計画の妥当性の比重が高くなった。その結果、研究手法や計画がよく練られた堅実な研究が選出された。一方、研究手法としてオーラルヒストリーを用いる申請が散見されたが、一部の委員から、学術的に厳密な手法を欠いたまま安易にオーラルヒストリーに頼ることへの危惧が出されていた。

採択された研究者の皆さまには、研究が充実したものとなり、有意義な成果の発表を聞けることを期待している。

2018年度募集要項

A部門	グラフィックデザイン、グラフィックアート全般をテーマとする研究
B部門	グラフィックデザイナー、田中一光に関する研究
助成対象	大学、美術館等の研究機関に所属する研究者（大学院修士課程在籍者以上）、またはそれに準じる研究実績のある者（大学教授または美術館館長の推薦のある者）
助成金額	1件につき上限50万円
助成期間	2018年11月～2020年3月31日まで（1回を限度に次年度に継続研究が可）
申請方法	所定様式の申請書を郵送
申請期間	2018年5月1日～7月17日まで



In 2018, the DNP Foundation for Cultural Promotion research grants program attracted a total of 58 applications. This number demonstrates that research scholars are steadily becoming aware of the program's existence.

As in previous years, the grant winners for 2018 were decided in a two-part screening process: the first part consisting of evaluation of the application documents, and the second part a final evaluation session attended by the complete judging panel. After lengthy discussions of the merits of the finalists, ultimately the judges selected a total of 13 research topics to receive new grant awards in Category A, which encompasses research on graphic design or graphic art in general. In addition, 11 of the grant winners of 2017 had requested continuation of support for a second year, and after a review of these grantees' interim reports the judges approved ongoing assistance for 10 of those applicants. Concerning Category B, which calls for research relating to graphic designer Ikko Tanaka, unfortunately this year no applications were received. In evaluating the submitted applications, the judges carefully considered their respective merits from a variety of perspectives including novelty, originality, social or scholastic significance, and appropriateness as a research project. This year, only a few of the applications stood out in terms of novelty or originality, so in choosing the grant recipients relatively greater weight was placed on each topic's significance and appropriateness as a research project. As a result, the applications selected this year tended to be those that involve solid, well-planned projects to be executed using sound research methods. On the other hand, this year not a few applications proposed use of oral history as their research method, and some members of the judging panel expressed misgivings toward relying too easily on oral history in the absence of strictly scholastic research methods.

We wish the newly selected grant winners the greatest success in carrying out their research, and we look forward to learning of their significant results.

Overview of the 2018 Grant Program

Category A	Research on graphic design or graphic art in general
Category B	Research relating to graphic designer Ikko Tanaka (1930-2002)
Eligibility	Scholars affiliated with research institutions (universities, art museums, etc.) or individuals having corresponding research credentials
Grant amount	Maximum 500,000 yen
Grant period	November 2018 to March 31, 2020. (Grants are awarded on an annual basis, with extension for a second year possible, but one time only.)
Application method	Designated application form, to be submitted by regular post
Application period	May 1 to July 17, 2018

応募件数

	国内	海外	計
A部門	55	3	58
B部門	0	0	0
計	55	3	58

Number of Applications

	Japan	Overseas	Total
Category A	55	3	58
Category B	0	0	0
Total	55	3	58

Research Grants for Academic Studies Relating to Graphic Design and Graphic Art

グラフィック文化に関する学術研究助成

2018年度 採択研究 (13件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	イメージ、タイポグラフィー、イデオロギー： 植民地時代 (1920-30年代) における韓国の構成主義	鄭善娥 (チョン, ソナ)	ソウル大学 博士課程	400,000円
A	視覚文化研究における生物学とバイオメディアの考察： 微生物によるグラフィックスを事例に	長谷川 紫穂	埼玉大学大学院 人文社会科学研究所 産学官連携研究員	500,000円
A	古代地中海文明における空間と平面を繋ぐ媒体としてのグラフィックアートに関する研究： 古代エジプトのデザイン技法の分析を中心に	安岡 義文	東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 日本学術振興会特別研究員 SPD	500,000円
A	画面デザインの保護のあり方・意匠法による保護拡張は必要か	麻生 典	九州大学 芸術工学研究院 助教	500,000円
A	実験心理学手法による慣用色名認識の現状把握と カラーシステムへの対応性評価	吉澤 陽介	木更津工業高等専門学校 情報工学科 准教授	500,000円
A	写真植字と光学的デザイン： 1950年代末～90年代前半の日本における組版とブック・デザインの展開	阿部 卓也	愛知淑徳大学 創造表現学部 准教授	500,000円
A	書物の機能と装飾：西欧初期中世法典写本の研究	安藤 さやか	東京藝術大学 美術学部芸術学科 教育研究助手	250,000円
A	亜欧堂田善の西洋版画受容の手法と特色	坂本 篤史	福島県立美術館 副主任学芸員	500,000円
A	近代日本写真における雑誌からオリジナル・プリントへのメディア変遷ー ギャラリスト・石原悦郎の書簡アーカイビングを通じて	粟生田 弓	石原悦郎とツァイト・フォト・サロン アーカイブズ	500,000円
A	ドイツ語圏のジャポニスム： ヴァルター・クレムとカール・ティーマンの多色木版画を中心に	青木 加苗	和歌山県立近代美術館 学芸員	500,000円
A	明治期キリシタン版画にみる日本文化の受容と展開	白石 恵理	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 助教	400,000円
A	井上隆雄写真資料のアーカイブ構築に基づいた ラダック仏教壁画のグラフィック的観点からの表現技法研究	山下 晃平	京都市立芸術大学 美術学部 非常勤講師	500,000円
A	パウル・スハイテマのグラフィックデザイン手法： 雑誌「De 8 en Opbouw」におけるタイポグラフィと画像の統一的表现	井上 宗則	秋田公立美術大学 美術学部 助教	300,000円

2018 Selected Research Topics

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Image, typography and ideology: constructivism in Korea in colonial era (1920-30s)	Suna JEONG	Doctoral Course, Seoul National University	400,000
A	A Study on Appearance of Biology and Biomedica in Visual Culture Studies: Through Analysis of Graphics Created by Microorganisms	Shiho HASEGAWA	Part-time Researcher of Industry-Government-Academia Collaboration, Graduate School of Humanities and Social Sciences, Saitama University	500,000
A	A Study on the Ancient Mediterranean Graphic Art as a Mediator of Planar and Spatial Expressions: A Focus on the Ancient Egyptian Design Method	Yoshifumi YASUOKA	Superlative Postdoctoral Fellow of Japan Society for the Promotion of Science, The University of Tokyo	500,000
A	The protection of design including a graphic image: consideration of the necessity for enhanced protection by Design Act	Tsukasa ASO	Assistant Professor, Faculty of Design, Kyushu University	500,000
A	Grasp of custom color name recognition by experimental psychology method and evaluation of adaptation to color systems	Yosuke YOSHIZAWA	Associate Professor, National Institute of Technology, Kisarazu College	500,000
A	Phototypesetting and Optics-based Design in Japan: A Historical Study on the Development of Typesetting and Book Design (from late 1950s to early 1990s)	Takuya ABE	Associate Professor, Faculty of Creation and Representation, Aichi Shukutoku University	500,000
A	Function and Decoration of Books: a Study on the Legal Manuscripts of the Early Middle Ages	Sayaka ANDO	Research Assistant, Department of Aesthetics and Art History, Tokyo University of the Arts, Faculty of Fine Arts	250,000
A	Aodo Denzen and his Study of Western Prints	Atsushi SAKAMOTO	Associate Curator, Fukushima Prefectural Museum of Art	500,000
A	Transition of Media from Magazines to Original photographs in Modern Japanese Photography: Through Archiving the letters to Gallerist Etsuro Ishihara	Yumi AOTA	Etsuro Ishihara and ZEIT-FOTO SALON Archives	500,000
A	Japonisme in the German-Speaking World: Focusing on the Color Woodcut by Walther Klemm and Carl Thiemann	Kanae AOKI	Curator, The Museum of Modern Art, Wakayama	500,000
A	Images of Japan in the Prints of Meiji Period Missionaries	Eri SHIRAIISHI	Assistant Professor, International Research Center for Japanese Studies	400,000
A	A Study of the Expression Technique Present in Ladakh's Buddhism Wall Paintings from a Graphic Viewpoint, Based on the Archives of Takao Inoue's Photographic Materials	Kohei YAMASHITA	Adjunct Lecturer, Kyoto City University of Arts	500,000
A	Paul Schuitema's Graphic Design Method: The Unity of Text and Image in the Magazine "De 8 en Opbouw"	Munenori INOUE	Assistant Professor, Department of Fine Arts, Akita University of Art	300,000

2017年度 採択研究継続助成(10件)

部門	テーマ	代表研究者	所属・職名	助成額
A	言語・言葉: オイゲン・ゴムリンガーのタイポグラフィと具体詩について	マーガー, サイモン	ローザンヌ州立美術学校 助手	300,000円
A	デザイン保護法制におけるグラフィックデザイン 一意匠法における保護対象としての位置づけを中心にー	末宗 達行	早稲田大学 法文学部学術員助手/ 同大学院 法学研究科 博士後期課程	500,000円
A	グラフィカルユーザインターフェースの法的保護について	吉田 悦子	大阪大学 知的財産センター 特任研究員	500,000円
A	植民地的近代のイメージ: 植民地期朝鮮の広告とグラフィックデザイン	全庸権 (ジョン, ヨンゴン)	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート 博士課程	500,000円
A	生成・消滅・再生する切り紙のかたち ー日本と世界の比較文化研究	丹羽 朋子	人間文化研究機構 特任助教	250,000円
A	エンブレムブックの中南米のキリスト教美術への影響	伊藤 博明	専修大学 文学部 教授	300,000円
A	20世紀初頭の英国前衛美術と印刷メディアの発展 ーヴォーティンズムのドローイングを手掛かりとして	要 真理子	跡見学園女子大学 准教授	300,000円
A	独立以前のエストニアにおける風刺画と文芸新聞及び雑誌の相関	有持 旭	広島市立大学 専任講師	500,000円
A	芹澤銑介「絵本どんきほうて」と民藝運動	トルヒョ・デニス, アナ	コミーリヤス・ボンティフィカル大学 講師	500,000円
A	小中学校デジタル理科教科書における「技術」のイメージに関する研究	郡司 賀透	静岡大学学術院 教育学領域 准教授	500,000円

2018 Continuation Grants (2017 Selected Research Topics)

Cat.	Research Topic	Applicant	Affiliated Institution	Grant Amount (JPY)
A	Words Form Language: On Eugen Gomringer, Typography and Concrete Poetry	Simon MAGER	Teaching and research assistant, ECAL University of Art and Design Lausanne	300,000
A	Legal Protection on Graphic Design: Focusing on Protection under Design Act	Tatsuyuki SUEMUNE	Research Associate / Ph.D. Candidate, Waseda University	500,000
A	The Protection of Graphical User Interfaces	Etsuko YOSHIDAI	Specially Appointed Fellow, Intellectual Property Center, Osaka University	500,000
A	Visual Representation of Colonial Modernity: Advertising and Graphic Design in Korea Under Japanese Rule (1910-1945)	Yongkeun CHUN	PhD candidate, Royal College of Art, London	500,000
A	Generation, Extinction and Revival of the Paper-cut Forms: Comparative Cultural Study between Japan and the World	Tomoko NIWA	Project Assistant Professor, National Institutes for the Humanities	250,000
A	Influence of the emblem books upon the Christian art in Central and South America	Hiroaki ITO	Professor, School of Letters, Senshu University	300,000
A	The Development of British Avant-Garde Art and Printed Media in the early 20th Century — In Reference to Vorticist's Drawings	Mariko KANAME	Associate Professor, Faculty of Letters, Atomi University	300,000
A	The correlation between Caricature, Literary newspaper and Magazine in Estonia of before independence	Akira ARIMOCHI	Assistant Professor, Faculty of Arts, Hiroshima City University	500,000
A	Serizawa Keisuke's <i>Ehon Don Kihôte</i> and the Mingei Movement	Ana TRUJILLO DENNIS	Lecturer, Universidad Pontificia Comillas, Madrid	500,000
A	Study on Images of "Technology" in Digital Textbooks for Elementary and Lower Secondary School Science	Yoshiyuki GUNJI	Associate Professor, Shizuoka University	500,000

2018-19 Financial Support Activities

2018-19年度助成実績

1	対象 第30回すかがわ国際短編映画祭 主催 すかがわ国際短編映画祭実行委員会／ 須賀川市教育委員会 年月 2018/5 金額 30,000円 備考 短編映画フェスティバルおよびコンペ	Target 30th Sukagawa International Short Film Festival Organizers Sukagawa International Short Film Festival Executive Committee, Sukagawa Board of Education Date May, 2018 Amount JPY30,000 Remarks Short film festival and competition
2	対象 第30回田善顕彰版画展 主催 須賀川商工会議所青年部／ 須賀川市教育委員会後援 年月 2019/2 金額 50,000円 備考 須賀川出身の江戸期の銅版画家、亜欧堂田善（あおう どうでんぜん）顕彰を目的とする市内小中学生対象の版 画コンクール	Target The 30th Denzen Print Award Exhibition Organizers Sukagawa Chamber of Commerce Youth Division, Sukagawa Board of Education Date February, 2019 Amount JPY50,000 Remarks Print contest for Sukagawa elementary and junior high school students aimed at spreading recognition of copper plate print artist and Sukagawa native Aodo Denzen (1748-1822).



Reveiw of ggg 2018-19

ggg 展覧会概要

TDC 2018

会期 = 2018年4月4日 - 28日

受賞作家 = ○グランプリ = プリル・ヴィセッリ・クレーメル ○TDC賞 = M/M (パリ)、バルマー・ヘーレン、アウ・チョン・ヒン、ノッド・ヤング ○特別賞 = 井上嗣也、仲條正義 ○タイプデザイン賞 = 藤田重信 ○ブックデザイン賞 = フレザー・マゼリッジ・スタジオ ○RGB賞 = 中村至男

展示概要 = 先端的なタイポグラフィ作品が一堂に会する国際コンペティション「東京TDC賞」(東京タイプディレクターズクラブ)の成果を紹介するTDC展。2017年秋の公募に寄せられた3,109点(国内1,828、海外1,281)の応募作から厳正な審査によって選ばれた「東京TDC賞2018」。この受賞10作品をはじめ、ノミネート作品、優秀作品を合わせた約150点のタイポグラフィカルな作品を展示した。毎年、先鋭的かつ実験的な見応えのある作品が選定されるが、今年も洋の東西や世代を越えた幅広いジャンルの作品が集まり、タイポグラフィシーンの最前線を感じさせるバラエティに富んだラインナップとなった。

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

Dates = April 4 - 28, 2018

Award Winners = Grand Prix: Prill Viecele Cremers. TDC Prize: M/M(Paris), Balmer Hahlen, Au Chon Hin, Nod Young. Special Prize: Tsuguya Inoue, Masayoshi Nakajo. Type Design Prize: Shigenobu Fujita. Book Design Prize: Fraser Muggeridge studio. RGB Prize: Norio Nakamura.

Exhibition Overview = The 2018 Tokyo Type Directors Club Exhibition introduced the results of an international competition organized by the Tokyo Type Directors Club (TDC) that brought together an array of today's most advanced works of typography. Award winners were selected from a pool of 3,109 open entries submitted starting in autumn 2017: 1,828 from within Japan and 1,281 from overseas. In all, approximately 150 works of typography were on display: not only the 10 award-winning works, but also works that reached the nomination stage as well as other outstanding entries. Every year the selections on display include brilliantly experimental works at the vanguard of their art, and this year was no exception: a diversified assortment of works from East and West, representing all generations, vividly demonstrated the latest advances being made in typography today.



Design: Katsuhiko Shibuya

ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

会期 = 2018年5月14日 - 6月23日

協力 = アムステルダム市立美術館、カロリン・フラーゼンブルグ、ヒレイン・エッシャー・ポスター・コレクション

後援 = オランダ王国大使館

作家略歴 = 1928年フローニンゲン生まれ。アカデミア・ミネルヴァ、アムステルダム芸術アカデミーで学ぶ。52年よりデザイン事務所、展示や見本市デザインに携わる。56年インテリアデザイナーとアムステルダムにデザイン事務所を設立。63年にはトータルデザインの共同設立者となる。70年の大阪万博ではオランダ館を監修。85年ロッテルダムのボイス・マン・ファン・ペーニンゲン美術館長。94年よりアムステルダムを拠点にフリーランスのデザイナー。展示概要 = 壁面にはアムステルダム市立美術館の展覧会のためのポスターや図録など、クロウエル氏の代表的な作品を展示した。カレンダーや切手のグラフィック、展覧会デザインやVIなどに加え、実験的な書体デザインとして有名なニューアルファベットのためのスケッチなど貴重な資料も紹介。半世紀以上にわたり極めて一貫性のある作品づくりを実現してきた彼の、幅広い分野における業績の全容を初めて日本で伝える展覧会となった。

wim crouwel: fascinated by the grid

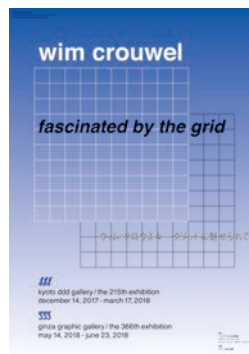
Dates = May 14 - June 23, 2018

Cooperation = Stedelijk Museum Amsterdam, Carolien Glazenburg, The Gielijn Escher Poster Collection

Support = Embassy of the Kingdom of the Netherlands

Artist Profile = Wim Crouwel was born in Groningen, the Netherlands, in 1928. After studying at the local Minerva Art Academy and IvKNO (today's Gerrit Rietveld Academie) in Amsterdam, in 1952 he joined a design office, where he was involved in designing exhibitions, trade fair stands, etc. In 1963, he became cofounder and partner of the design agency Total Design. In 1970, he served as art director of the Dutch pavilion at Expo '70 in Osaka. In 1985, Crouwel became director of Museum Boijmans Van Beuningen in Rotterdam. Since 1994 he works as a freelance designer based in Amsterdam.

Exhibition Overview = The gallery walls displayed Crouwel's representative works, including his posters and catalogs created for exhibitions at Stedelijk Museum Amsterdam. Also on show were his calendar and postage stamp graphics, exhibition and VI designs, as well as rare materials such as the sketches for his famous New Alphabet font. For more than half a century Crouwel has continuously produced a work portfolio of consistently supreme quality, and this was the first exhibition in Japan that conveyed the full scope of his accomplishments in diverse fields.



Design: Wim Crouwel / Remco Crouwel / Helmut Schmid

Harumi Yamaguchi × Yoshiroten Harumi's Summer

会期 = 2018年7月6日 - 8月25日

協力 = NANZUKA

作家略歴 = 山口はるみ: 松江市生まれ。東京芸術大学油画科卒業。西武百貨店宣伝部を経て、フリーランスのイラストレーター。1972年よりエアブラシを用いた女性像を描き、PARCOの広告などで、一躍時代を象徴するアーティストとなる。Yoshiroten: 1983年生まれ。東京をベースに活動するグラフィックアーティスト、アートディレクター。グラフィック、映像、立体、インスタレーション、音楽などジャンルを超えた様々な表現活動を行う。

展示概要 = 山口はるみ自身の発案によりYoshirotenがコラボレーターとして参加、山口の傑作の数々を独自の視点で見直して展示構成を行った。一階はアクリルに出力されたHarumi Galsに囲まれて、展覧会タイトルにもなった「夏」を体感できるプールのある涼しい空間。地階では壁全体を使用してそれぞれの時代を彩った山口の女性像をコラージュ、原画を含む代表作に埋め尽くされた迫力のある展示となった。

Harumi Yamaguchi × Yoshiroten Harumi's Summer

Dates = July 6 - August 25, 2018

Cooperation = NANZUKA

Artist Profile = Harumi Yamaguchi was born in Matsue, Shimane Prefecture. She graduated from Tokyo University of the Arts with a degree in oil painting. After working in the publicity department of Seibu Department Stores, she launched her career as a freelance illustrator. In 1972 she began depicting female figures using airbrush techniques, and through her ads created for the PARCO fashion stores especially, she quickly established herself as an artist representative of the times. Yoshiroten, born in 1983, is a graphic artist and art director based in Tokyo. He is active in diverse genres of artistic expression, including graphics, motion graphics, installations and music.

Exhibition Overview = For this exhibition Harumi Yamaguchi came up with the idea of inviting Yoshiroten to collaborate, and from his unique perspective he reconfigured Yamaguchi's well-known masterpieces. The ground floor of the gallery was dedicated to a display of "Harumi Gals" created in acrylic, evoking a refreshingly cool "pool" area where the visitor could experience the "summer". In the gallery's lower level, the walls were filled with Yamaguchi's representative works, including collages and original drawings of her many females who became symbols of their respective times.



Design: Yoshiroten

横尾忠則 幻花幻想幻画譚1974-1975

会期＝2018年9月5日－10月20日
協力＝横尾忠則現代美術館、株式会社ヨコオス・サーカス
作家略歴＝1936年兵庫県生まれ。72年にニューヨーク近代美術館で個展。その後もパリ、ヴェネツィア、サンパウロ、バングラデシュなど各国のビエンナーレに出品し世界的に活躍する。アムステルダム、ステデリック美術館、パリのカルティエ財団現代美術館での個展など海外での発表が多く国際的に高い評価を得ている。2015年、第27回高松宮殿下記念世界文化賞受賞。
展示概要＝1974年から75年にかけて、東京新聞に連載された瀬戸内晴美（現・瀬戸内寂聴）の時代小説「幻花」のために描かれた挿絵全371点を、横尾忠則現代美術館の協力のもと東京で初めて展示した。自由奔放な発想と実験的な手法により、約8cm×14cmの小さな画面に凝縮された小さな宇宙。40年以上の時を経て公開された、30代の横尾忠則の超絶技巧のイラストレーションは大きな反響を呼び、会期中12,000人を超える来場者で賑わった。

Tadanori Yokoo:
The Complete Drawings for Genka
by Jakucho Setouchi 1974-1975

Dates＝September 5－October 20, 2018
Cooperation＝Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art, Yokoo's Circus Co., Ltd.
Support＝Tokyo Shimbus
Artist Profile＝Born in Hyogo Prefecture in 1936, Tadanori Yokoo held a solo exhibition at The Museum of Modern Art in New York (MoMA) in 1972. Subsequent participation in the biennales of Paris, Venice, Sao Paulo, and Bangladesh placed him squarely on the world stage. Yokoo's many foreign exhibitions, including solo shows at the Stedelijk Museum Amsterdam and Fondation Cartier pour l'art contemporain (Paris), have brought Yokoo international acclaim. He was awarded the 27th Praemium Imperiale in 2015.
Exhibition Overview＝This was the first exhibition in Tokyo of the 371 illustrations Yokoo created for "Genka," a historical novel written by Harumi Setouchi that was serialized in the Tokyo Shimbun newspaper from 1974 to 1975. In these small works roughly 8x14 cm in size, Yokoo has used his boundless imagination and experimental techniques to create a remarkably compact microcosm. These transcendently crafted illustrations made during Yokoo's thirties, on public view after a gap of more than 40 years, drew a phenomenal response, attracting more than 12,000 visitors to the gallery during the show's run. The exhibition was realized with the cooperation of the Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art.



Design: Tadanori Yokoo

日本のアートディレクション展2018

会期＝2018年10月29日－11月22日
受賞作家＝○グランプリ＝大貫卓也 ○ADC会員賞＝佐野研二郎＋多田琢＋香取有美＋瀧本幹也 ○原弘賞＝菊地敦己<以下G8にて展示>
○ADC賞＝田中裕介＋原野賢太郎＋野添剛士＋斉藤迅＋真鍋大度、瀬尾大＋平岡政展＋柳沢翔＋高瀬裕介＋佐藤雄介、小野恵央＋川腰和徳＋平山浩司、池澤樹＋野添剛士＋ステファン・フォン・ボルベリー＋内田将二、金井あき、正親篤＋井口弘一＋磯島拓矢、浜辺明弘＋照井晶博＋唐仁原教久＋上田義彦、北川一成、岡本学＋山本康一郎＋国井美果＋田島征三
展示概要＝昨年までのADC展から名称も新たに日本のアートディレクション展として開催した。今年も約8,000点の応募作の中からADC（東京アートディレクターズクラブ）全会員80名によって2018年度のADC賞が選出された。本展では受賞作品と優秀作品を、ggg [会員作品]、G8 [一般作品]の2会場で紹介。今年もグラフィック、広告の最高峰に輝く作品の数々が勢ぞろいした。

Art Direction Japan 2018 Exhibition

Dates＝October 29－November 22, 2018
Award Winners＝Grand Prix: Takuya Onuki. ADC Members Award: Kenjiro Sano + Taku Tada + Yumi Katori + Mikiya Takimoto. Hara Hiromu Award: Atsuki Kikuchi. ADC Award (shown at Creation Gallery G8): Yusuke Tanaka + Kentaro Harano + Takeshi Nozoe + Jin Saito + Daito Manabe; Masaru Seo + Masanobu Hiraoka + Show Yanagisawa + Yusuke Takase + Yusuke Sato; Yoshinaka Ono + Kazunori Kawagoshi + Koji Hirayama; Tatsuki Ikezawa + Takeshi Nozoe + Stefan von Borbely + Shoji Uchida; Aki Kanai; Atsushi Oogi + Koichi Iguchi + Takuya Isojima; Akihiro Hamabe + Akihiro Terui + Norihisa Tojimbara + Yoshihiko Ueda; Issey Kitagawa; Manabu Okamoto + Koichiro Yamamoto + Mika Kunii + Seizo Tashima
Exhibition Overview＝"Art Direction Japan" was a new name adopted for what had previously been the annual "Tokyo ADC Exhibition." Again this year, ADC (Tokyo Art Directors Club) Awards were selected by the club's 80 members from among approximately 8,000 works submitted. The exhibition featured the award-winning and other outstanding works, shown at two venues: ggg (works by Tokyo ADC members) and Creation Gallery G8 (works by non-members). Together they constituted a complete display of the year's highest achievements in graphics and advertising.



Illustration: Kazumasa Nagai

続々 三澤遥

会期＝2018年12月3日－2019年1月26日
協力＝アワガミファクトリー、岡村印刷工業株式会社、株式会社ショウエイ、株式会社竹尾、株式会社ツクリ、nomena、福永紙工株式会社
作家略歴＝1982年群馬県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、デザインオフィス nendo を経て2009年より日本デザインセンター原デザイン研究所に所属。2014年より三澤デザイン研究所として活動開始。
展示概要＝水中環境をあらたな風景に再構築した「waterscape」、竹尾ペーパーショウへの出品作「動紙」、飛行する紙のかたちを研究する「散華プロジェクト」、上野動物園の知られざる魅力をビジュアル化した「UENO PLANET」などの代表作の数々を展示。ものごとの奥に潜む原理を観察し、そこから引き出した未知の可能性を視覚化するという、三澤氏が取り組んでいる実験的なアプローチが存分に伝わる内容となった。

Haruka Misawa – Again and Again:
Ideas Coming To Mind

Dates＝December 3, 2018－January 26, 2019
Cooperation＝Awagami Factory / Fukugana Print Co., Ltd. / nomena inc. / OKAMURA PRINTNG INDUSTRIES Co., Ltd. / TAKEO Co., Ltd. / TSUKURI Inc. / SHOEI, Inc.
Artist Profile＝Haruka Misawa was born in Gunma Prefecture in 1982. After graduating from the Interior Design Course of Musashino Art University and working at the design office nendo, she joined Hara Design Institute at Nippon Design Center in 2009. She founded Misawa Design Institute in 2014.
Exhibition Overview＝This exhibition offered visitors a look at Haruka Misawa's representative works, including: "waterscape," her reconfigurations of underwater environments into all-new landscapes; "Paper Verb," works Misawa exhibited at the Takeo Paper Show; "Sange: flowering in the air," her studies of paper forms floating in the air; and "UENO PLANET," her visualizations of the unknown charms of Ueno Zoo. Misawa's solo show vividly conveyed the artist's experimental approach, i.e. her visualization of the hidden possibilities she gleans from her explorations into the principles lurking deep within things.



Design: Haruka Misawa

ポーラ・シェア : Serious Play

会期＝2019年2月4日－3月25日
監修・会場構成＝矢萩喜從郎
作家略歴＝世界有数の名声を博しているグラフィックデザイナー。1991年以降、国際的に高く評価されているデザイン会社、ペンタグラムのニューヨーク・オフィスのプリンシパルを務め、アイデンティティならびにブランディング、環境グラフィックス、刊行物のデザインを、シティバンク、マイクロソフト、ニューヨーク近代美術館、ティファニー、ザ・パブリック・シアター等、多数のクライアントのために手がけてきた。
展示概要＝一階では彼女が近年精力的に取り組んでいる大型の地図のアート作品16点を展示した。また地階では1970年代に制作された鮮烈な印象を与えるアルバム・カバーや、ニューヨーク中に旋風を巻き起こしたザ・パブリック・シアターのポスターの数々、主に2000年以降に関わるようになった環境グラフィックスの仕事など、代表的なクライアントワークを紹介。一階と地階でそれぞれ異なるポーラ・シェアの魅力の二つの面を楽しむことが出来た。

Paula Scher: Serious Play

Dates＝February 4－March 25, 2019
Supervision, Exhibition Design＝Kijuro Yahagi
Artist Profile＝Paula Scher is one of the world's most acclaimed graphic designers. Since 1991 she has been principal of the New York office of the internationally renowned Pentagram design consultancy. Here, she has designed identity and branding systems, environmental graphics, and publications for numerous clients including Citibank, Microsoft, the New York Museum of Modern Art (MoMA), Tiffany & Co. and New York's Public Theater.
Exhibition Overview＝The ground floor of the gallery was dedicated to 16 of Paula Scher's large pieces of map art, an area she has been energetically developing in recent years. The lower level was devoted to Scher's brilliant works commissioned by clients: works including her striking record album covers created during the 1970s; her many posters for New York's Public Theater, which took the city by storm; and her environmental graphics, a genre she has been involved in mainly since the start of the new millennium. In this way, visitors were able to gain an appreciation of Paula Scher's dual-faceted appeal as a supreme designer.



Design: Paula Scher

ddd 展覧会概要

Graphic West 7: YELLOW PAGES

会期＝2018年4月10日－6月23日
キュレーター＝後藤哲也(大阪)、ミルクシェイク(ジェイビン・モ、サキ・ホ：香港)、スルキ＆ミン(ソウル)
アーティスト＝シャオマグ＋チャンズィ(北京)、アロン・ニエ(台北)、ナ・キム(ソウル)
展示デザイン監修＝久慈達也
空間設営＝伊藤智寿
プログラミング＝萩原俊矢
協力＝『アイデア』(誠文堂新光社)
展示概要＝「GRAPHIC WEST」は、dddが関西にとどまらずアジアにまで視野を広げて開催しているシリーズ企画展。4年ぶり7回目の本展では、グラフィックデザイン専門誌『アイデア』誌上でアジアのデザイナーを取り上げてきた連載「YELLOW PAGES」を展覧会として再構成。今回登場したのは、台北、北京、そしてソウルの若手3組。最終的な作品の展示だけでなく、クライアントや写真家、編集者、印刷会社など、協働者たちとの関係性も紹介。展示は工事現場の様に無造作に無垢の角材やクランプ等を使用した現在進行形のイメージ。アジア各都市のデザインをめぐる状況の一端を知る機会を提供した。

Graphic West 7: YELLOW PAGES

Dates = April 10 – June 23, 2018
Curators = Tetsuya Goto (Osaka), Milkshake (Javin Ho + Saki Ho: Hong Kong), Sulki & Min (Korea)
Artists = Xiao Mage + Cheng Zi (Beijing), Aaron Nieh (Taipei), Na Kim (Seoul)
Exhibition Design Supervision = Tatsuya Kuji
Space Construction = Tomohisa Ito
Programming = Shunya Hagiwara
Cooperation = IDEA magazine (Seibundo Shinkosha)
Exhibition Overview = “GRAPHIC WEST” is a series of exhibitions organized by kyoto ddd gallery that focus not only on Japan's Kansai region and beyond but also extend to Asia. This seventh exhibition in the series, the first held in four years, evolved out of “YELLOW PAGES,” a serialized feature in the graphic design magazine IDEA that introduces Asian designers. It placed the spotlight on works by young designers from Taipei, Beijing and Seoul. In addition to showing their finished works, the exhibition introduced the relationships with the various parties that collaborated in these works’ production: clients, photographers, editors, publishers, etc. The exhibition space evoked an image of a work in progress—a construction site with lumber, clamps and the like all scattered about. It provided an opportunity to know part of what is happening today in the field of design in various cities around Asia.



Design: Sulki & Min

田名網敬一の現在展

会期＝2018年8月28日－10月23日
協力＝NANZUKA
作家略歴＝1936年東京都生まれ。武蔵野美術大学を卒業。1991年より京都造形芸術大学教授を務める。1960年代より、グラフィックデザイナーとして、映像作家として、そしてアーティストとして、その境界を積極的に横断して創作活動を続け、世界中のアーティストたちに大きな影響を与えている。
展示概要＝1960年代から半世紀以上ものキャリアを誇り、今もトップランナーとして、そのキャリアの頂点を極めている田名網の現在を紐解く試み。田名網が、これまで制作してきた作品は、デザイン、イラストレーション、実験映画、立体作品と多岐にわたる。そこには、可変的な創造者であろうとしてきた田名網敬一の等身大の姿がある。田名網が世界中のアーティスト、ミュージシャン、ファッションデザイナーから集めている尊敬は、あらゆる境界、領域を超えて創作活動を続けてきた歴史の重みに比例するものだ。本展では、18点の新作プリント作品、アニメーション、立体作品から、ファッションブランドとのコラボレーションアイテム、出版物などを網羅。

Keiichi Tanaami Dialogue

Dates = August 28 – October 23, 2018
Cooperation = NANZUKA
Artist Profile = Keiichi Tanaami was born in Tokyo in 1936. He graduated from Musashino Art University. Since 1991 he has been a professor at Kyoto University of Art & Design. As a graphic designer, video creator and artist, ever since the 1960s Tanaami has continuously crossed the lines separating these diverse fields. Today, as a pioneer in artistry of phenomenal versatility, he continues to have a strong impact on artists around the world.
Exhibition Overview = Keiichi Tanaami boasts a career stretching back more than half a century, starting from the 1960s, and today he remains at the peak of his artistry as a leading force of remarkable versatility. This exhibition offered visitors a glimpse at where Tanaami's career has brought him today. Over the years, Tanaami has created works spanning an impressive spectrum ranging from design and illustration to experimental film, three-dimensional works and painting. Collectively, they vividly demonstrate his phenomenal diversity as a creative artist. The respect Tanaami receives today from artists, musicians and fashion designers the world over clearly reflects the scale and weight of his creative career transcending myriad boundaries of creativity. This exhibition featured 18 new prints, animation clips and three-dimensional works, plus a host of Tanaami's collaborations with fashion brands, publications, products, and more.



Design: Keiichi Tanaami

京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化のものがたり展

会期＝2018年11月12日－12月22日
協力＝京都大学 総合博物館
展示概要＝京都市立芸大ビジュアル・デザイン専攻の学生たちが、生物の進化について書かれた専門書を読み、その内容を子供たち(小学校・高学年)に伝えるためにデザインした作品を展示。作品は、ゲーム、映像、絵本など多岐に渡った。科学の知識は正確に伝えられなければならない。説明文、図版、写真、どれも正確を期することが求められるが、学生たちが子供たちに進化について伝えようとしたこれらの作品には全て、なんらかの「ものがたり」が加えられている。また京都大学総合博物館所蔵の近代教育掛図をパネルと画像で紹介。これは京都帝国大学の学生たちが植物などを学ぶために世界各地から集められた図版で、科学的視点から事実を伝えるという使命を超え、世界の深さを多角的に示唆する芸術性を感じさせる。学生たちの作品と近代教育掛図の図版からは、楽しく、美しく、情報が伝わる。これらの作品から、科学と芸術が並存した世界を可視化することができる、グラフィックデザインの可能性が感じられた。

Learn Science through Graphics:
The Story of Evolution

Dates = November 12 – December 22, 2018
Cooperation = Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts
Exhibition Overview = This exhibition featured works designed by students in the Visual Design course at Koto City University of Arts. In preparation the students read books on the evolution of biological forms, and then they created works to convey what they had read to children in the fourth to sixth grades of elementary school. Their works spanned a wide range, including games, videos and picture books. Because scientific knowledge had to be conveyed accurately, precision was called for in all explanatory notes, illustrations and photos. All the works the university students produced, in seeking to convey the concepts of evolution to the primary school students, told a “story” of some kind. Also on display were panels and visuals introducing a body of works known as the “Modern Educational Wallcharts: 1857-1941.” This collection, held by Kyoto University Museum, consists of drawings collected from all over the world to help students learn about plants and such. The collected works go beyond their inherent mission of conveying scientific facts, and are imbued with artistry hinting at the profundity of the world from multifaceted perspectives. They gave visitors a sense of the potential of graphic design to give visual form to a world in which science and artistry coexist.



Design: Chisato Tomiura

組版造形 白井敬尚

会期 = 2019年1月12日 - 3月16日

作家略歴 = グラフィックデザイナー。1961年、愛知県豊橋市生まれ。株式会社グレイス（宮崎利一チーム）、株式会社正方形（清原悦志主宰）を経て1998年、白井敬尚形成事務所を設立。書籍、雑誌、展覧会など、タイポグラフィを軸としたデザインに従事。2005年より2014年までデザイン誌『アイデア』のアートディレクションとデザインを担当。2012年より武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授。

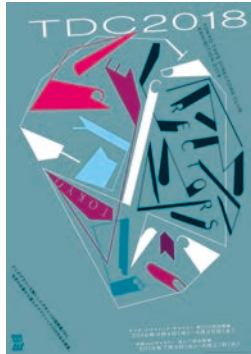
展示概要 = 展覧会タイトルの「組版造形」とは「紙面に文字組版を配置・構成した空間を含む造形」。ブックデザインやエディトリアルデザインを中心に活動する白井氏の美しい装丁の数々に加え、緻密に設計された墨文字1色の見開きページを多数展示。白いテーブルに整然と本が並ぶという静謐な美しい空間となり、dddの開け放たれたガラス壁面により、夜間は外からも展示が浮かびあがるかのように見てとれた。また白井氏による実際の仕事とともに制作にあたって参照された資料なども併せて紹介、過去の知識や造形がいかに引用・参照され、形を変えて継承されていくのか、表層だけではなく奥深い組版造形の世界を堪能できる内容となった。

TDC 2018

Tokyo Type Directors Club Exhibition 2018

会期 = 2018年7月3日 - 8月21日

Dates = July 3 - August 21, 2018



Design: Katsuhiko Shibuya

Typographic Composition, Yoshihisa Shirai

Dates = January 12 - March 16, 2019

Artist Profile = Yoshihisa Shirai is a graphic designer born in Toyohashi, Aichi Prefecture, in 1961. After working at Grace and then Seihokai, in 1998 he established his own design office. He specializes primarily in typography design, for books, magazines, exhibitions, etc. From 2005 to 2014 he was in charge of art direction for *IDEA* magazine. Since 2012 Shirai has served as Professor in the Department of Visual Communication Design at Musashino Art University.

Exhibition Overview = In the exhibition title refers to composition that includes the space in which lettering is arranged and configured on a page. The exhibition displayed many such works by Shirai, who is active mainly in book and editorial design, including both his beautiful book designs and meticulously designed two-page spreads entirely in black lettering. The gallery walls were left completely white, while the books he had designed were set out neatly on white tables, creating a beautiful, serene space. The gallery's outer wall surfaces of glass allowed the exhibit to be seen from outside, seemingly floating in space. Besides Shirai's actual works, also introduced were materials he has used as references in the course of creating his typography. Showing how Shirai has borrowed or referred to knowledge and compositions of the past and transformed them in his works, the exhibition enabled visitors to enjoy the truly profound world of typographic composition.



Design: Yoshihisa Shirai

Reveiw of CCGA 2018-19

CCGA 展覧会概要

少数精鋭の色たち—
DNP グラフィックデザイン・アーカイブより
A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives

会期 = 2018年3月1日 - 6月10日
Dates = March 1 - June 10, 2018



北川健次: 黒の装置—記憶のディスタンス
Kenji Kitagawa: Devices in Black —
The Distance of Memory

会期 = 2018年6月16日 - 9月9日
Dates = June 16 - September 9, 2018



ヘレン・フランケンサラー [エクスペリメンタル・
インプレッション]: タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.31
Helen Frankenthaler's Experimental Impressions: 31st
Exhibition of Prints from the Tyler Graphics Archive Collection

会期 = 2018年9月15日 - 12月23日
Dates = September 15 - December 23, 2018



1986

- 3月 1回 大橋正展 野菜のイラストレーション
4月 2回 福田繁雄展 Illustic412
5月 3回 奥村毅正展 燦々彩譜
6月 4回 秋山育展 ピクチャーレリーフ
7月 5回 1986 ADC展
8月 6回 アートワークス展Ⅰ The World is Art.
9月 7回 佐藤晃一展 箱についてー2
10月 8回 栗津潔展 エノタメノジブンカクメイ
11月 9回 追悼・ハーバート・バイヤー展
ヴィジュアル・コミュニケーションのバイオニア
12月 10回 K2 Live!展 ケイを知らずにツーといふな。

1987

- 1月 11回 いろはの絵展 辻修平と
The CA WorkshopによるCGカリグラフィ
2月 12回 花の万博十博覧会のシンボルマーク展
3月 13回 藤幡正樹展 geometric love
4月 14回 松永真 毎日デザイン賞受賞記念展
5月 15回 安西水丸 二色
6月 16回 ルウ・ドーフスマンとCBSの
クリエイティブワークス展
7月 17回 1987 ADC展
8月 18回 アートワークス展Ⅱ Rest in Peace
9月 19回 五十嵐威輔の立体数字展
10月 20回 青葉益輝プリンティングアート展 Graphically
11月 21回 オルガー・マチスのポスター展 意外性の真実
12月 22回 ミルトン・グレイザー展 イメージの魔術師

1988

- 1月 23回 木村勝パッケージングディレクション展
リングになった箱と動詞になった箱
2月 24回 谷口広樹展 猿の記憶
3月 25回 銀座百点 表紙原画展：創刊400号記念
4月 26回 吉田カツ・描き下し刷り下し展
5月 27回 AGI 88 Tokyo展
世界のグラフィックデザイン
6月 28回 イッセイ・ミヤケのポスター展 I.I.I. at GGG
7月 29回 1988 ADC展
8月 30回 アートワークス展Ⅲ Peace by Piece
9月 31回 情報ポスター・リクルート展
10月 32回 早川良雄「女」原画展
11月 33回 仲條正義展 NAKAJOISH
12月 34回 スタシスのポスターとイラストレーション展
存在の深淵に迫る東欧からのメッセージ

1989

- 1月 35回 ショッピング・バッグ・デザイン
2月 36回 矢萩喜從郎展
3月 37回 Texture 皆川魔鬼子＋田原桂一＋山岡茂
4月 38回 タナカノリユキ展 Gokan-都市の表層
5月 39回 オトル・アイヒャー展
現代哲学の先駆者 W.フォン・オッカム
6月 40回 操上和美展 Photographis
7月 41回 若尾真一郎展 Wakao Collection
8月 42回 アートワークス展Ⅳ 百花繚乱
9月 43回 永井一正展
10月 44回 Europalia '89 Japan
新作ポスター 12人展
11月 45回 チャールズ S. アンダーソン最新作品展覧会
12月 46回 清原悦志の仕事 オーマージュ

1990

- 1月 47回 秋月繁展 遊びの箱
2月 48回 菊地信義 装幀の本「棚」
3月 49回 原田維夫木版画展 馬
4月 50回 田中一光グラフィックアート植物園

- 5月 51回 山城隆一 猫のいないイラスト展
6月 52回 松井桂三3D展
7月 53回 寺門孝之展 遺伝子導入天使
8月 54回 アートワークス展Ⅴ 東京標本箱1990
9月 55回 田原桂一展 光の香り
10月 56回 浅葉克己の新作展 アジアの文字
11月 57回 伊勢亮也展 イメージのマカロニ
12月 58回 蓬田やすひろ展 ビープル

1991

- 1月 59回 舟橋全二展
2月 60回 太田徹也のダイヤグラム
3月 61回 ペア・アーノルディ展
Posters, Prints and Painting
4月 62回 澤田泰廣展 P2 [Painting × Printing]
5月 63回 新井苑子展 インスピレーションを描く
6月 64回 Communication & Print
新作ポスター 10人展
7月 65回 オブジェ・ブック展
中垣信夫＋中垣デザイン事務所
8月 66回 アートワークス展Ⅵ
"Bacteriat" Messages from Dream Island
10-11月 67回 Trans-Art 91
12月 68回 1991 ADC展

1992

- 1月 69回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ
2月 70回 立花ハジメ初の個展 ape-MAN
3月 71回 第4回東京TDC展
4月 72回 ヘンリック・トマシェフスキ展
5月 73回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻
6月 74回 鹿目尚志展 BOX・XX
7月 75回 中村誠 個展
8月 76回 リック・バリセンティ展
9月 77回 葛西薫展 'AERO'
10月 78回 薙本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展
11月 79回 ボール・ランド展
12月 80回 フロシキ展

1993

- 1月 81回 小島良平展 Tropica Grafica
2月 82回 稲越功一展 アウト・オブ・シーズン
3月 83回 1992 ADC展
4月 84回 第5回東京TDC展
5月 85回 U.G.サトーのポスター展 "Freedom"
6月 86回 オーマージュ 向秀男展
7月 87回 文字からのイマジネーション
8月 88回 現代香港のデザイン8人展
9月 89回 勝井三雄展 光の国：夜と昼の挟間に
10月 90回 1993 Illustration 4
安西水丸・河村要助・矢吹申彦・湯村輝彦
11月 91回 ソール・パス展
12月 92回 グリーティング・ポップアップ13人展

1994

- 1月 93回 栗津潔展 H²O Earthman
2月 94回 第6回東京TDC展
3月 95回 上條喬久展 Windscape Mindscape
4月 96回 片山利弘展
5月 97回 永井一正展
6月 98回 オランダのグラフィックデザイン100年
7月 99回 1994 ADC展
8-9月 100回 グラフィック・グッス展
デザインからの贈りもの
10月 101回 平野甲賀展 文字の力
10月 特別展 九州の九人の九つの個性展

- 11月 102回 亀倉雄策ポスター新作展
12月 103回 原研哉展
12月 特別展「私の好きなもの」
土橋とし子、中村幸子、メグ・ホソキ3人展

1995

- 1月 104回 ブルーノ・ムナーリ展
2月 105回 日本のブックデザイン展1946-95
3月 106回 第7回東京TDC展
4月 107回 ビーター・ブラッティンガ展
5月 108回 田中一光展 人間と文字
6月 109回 ニクラウス・トロックスラーポスター展
7月 110回 1995 ADC展
8月 111回 リズム&ヒューズの
コンピュータグラフィックス展
9月 112回 八木保展 自然観
9月 特別展 世界のグラフィック20人 ギンザ・グラフィック・
ギャラリー 10周年／ggg Books 20冊記念
10月 113回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー1
11月 114回 戸田正寿 イヤイヤランド展
12月 115回 日本のイラストレーション50年展

1996

- 1月 116回 蓬田やすひろ展 お江戸で、ゆらゆら
2月 117回 モダン・タイポグラフィの流れ展ー2
3月 118回 NIPPONJIN ポスター 23人展イン・サンバワロ
4月 119回 第8回東京TDC展
5月 120回 現代ハンガリーのグラフィック4人展
6月 121回 勝岡重夫タイポグラフィックアート展
Departure
7月 122回 1996 ADC展
8月 123回 前田ジョン かみとコンピュータ展
9月 124回 K2・黒田征太郎／長友啓典
二脚の椅子展
10月 125回 チェコ・アヴァンギャルド・ブックデザイン
1920s・30s
11月 126回 Graphic Wave 1996
青木克憲／佐藤卓／山形季央
12月 127回 アラン・ル・ケルネ展

1997

- 1月 128回 下谷二助展 人じん
1月 特別展 CCGA特別展：
ジョセフ・アルバース展
2月 129回 大橋正展 体温をもつ野菜たち
3月 130回 創立10周年記念 東京TDC展
4月 131回 仲條正義〇〇〇展
5月 132回 今日の雑誌8誌による・特集エコロジー展
6月 133回 横尾忠則ポスター展
吉祥招福繁昌描き下ろし!!
7月 134回 1997 ADC展
8月 135回 河原敏文とボリゴン・ピクチュアス展
ロッキー・ホラ商會
9月 136回 メキシコ10人展
10月 137回 Graphic Wave 1997
秋田寛／井上里枝／福島治
10月 特別展 勝見勝寛 10周年記念展
11月 138回 福田繁雄のポスター 〈Supporter〉
12月 139回 GLOBAL展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

- 1月 140回 鈴木八朗展 8RO ART & AD
2月 141回 オーデルマット＋ティッシ
グラフィックデザイン展
3月 142回 スタシス・エイドリグヴィチウス展
4月 143回 1998 TDC展

- 5月 144回 スタジオ・ドゥンパー展
6月 145回 山本容子展 オペラレッスン
7月 146回 1998 ADC展
8月 147回 河口洋一郎展 電脳宇宙への旅
9月 148回 Graphic Wave 1998
蛭名龍郎／平野敬子／三木健
10月 149回 グンター・ランボー展
11月 150回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター
12月 151回 ヘルベルト・ロイピン展

1999

- 1月 152回 海外作家によるFuroshiki Graphics展
2月 153回 日本のタイポグラフィック1946-95
3月 154回 木村恒久構成フォト・グラフィックス展 What?
3月 特別展 堀内誠一の仕事展 雑誌づくりの決定的瞬間
4月 155回 1999 TDC展
5月 156回 現代ブルガリアのグラフィックデザイン展
6月 157回 日比野克彦展 誘拐したい
7月 158回 1999 ADC展
7月 特別展 前田ジョン One-line.com
8月 159回 矢萩喜從郎展
9月 160回 Graphic Wave 1999
鈴木守／松下計／米村浩
10月 161回 FUSE展
11月 162回 松井桂三展
12月 163回 ボール・デイヴィスのポスター展
12月 特別展 アーヴィング・ベン
三宅一生の仕事への視点

2000

- 1月 164回 Graphic Message for Ecology
1月 特別展 篠山紀信&マニュエル・ルグリ展
フォトセッションinパリ・オハラ座1998-1999夏
2月 165回 ブルーノ・モングッツィ展 形と機能の詩人
3月 166回 伊藤憲治展 医学誌「ステスコープ」の
表紙デザイン半世紀
4月 167回 2000 TDC展
5月 168回 Poster Works Nagoya 12
岡本滋夫＋11人のデザイナーたち
6月 169回 なにわの、こてこてグラフィック展
7月 170回 2000 ADC展
8月 171回 日宣美の時代
日本のグラフィックデザイン1951-70展
9月 172回 Graphic Wave 2000
秋山具義／Tycoon Graphics／中島英樹
10月 173回 D-ZONE／戸田ツトム展
11月 174回 ビーエル・ベルナル展
現実的であれ、不可能を試みろ!
12月 175回 本とコンピュータ展 書物変容-アジアの時空

2001

- 1月 176回 二〇〇一年木田安彦展
2月 177回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics
3月 178回 "Spring has come"
松永真、ディテールの競演。
4月 179回 2001 TDC展
5月 180回 コントラプункト展
デンマーク国家のデザインプログラム
6月 181回 原弘のタイポグラフィ
7月 182回 2001 ADC展
8月 183回 薙本唯人 にんげんもよう
9月 184回 Graphic Wave 2001
澁谷克彦／永井一史／ひびのこづえ
10月 185回 ハングルポスター展
11月 186回 サイトウマコト展
12月 187回 チップ・キッド展

2002

- 1月188回 ウーヴェ・レシュ展
- 2月189回 宇野亜喜良展
- 3月190回 デザイン教育の現場から
セント・ジュースト大学院の新手法
- 4月191回 2002 TDC展
- 5月192回 DRAFT 展
- 6月193回 アラン・チャン展 東情西韻
- 6月 特別展 花森安治と暮らしの手帖展
- 7月194回 2002 ADC展
- 8月195回 タナカノリユキ展 OUT OF DESIGN
- 9月196回 Graphic Wave 2002
左合ひとみ／澤田泰廣／新村則人
- 10月197回 SUN-AD 人
- 11月198回 ブラジルのグラフィックデザイン展
ブックデザインにみる今日のブラジル
- 12月199回 ハーブ・ルバリン展

2003

- 1月200回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
- 2月201回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式、言葉と形象
- 3月202回 現代中国平面設計展
- 4月203回 2003 TDC展
- 5月204回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
- 6月205回 空山基展
- 7月206回 2003 ADC展
- 8月207回 新島夷展 色彩とフォントの相互作用
- 9月208回 Graphic Wave 2003
佐野研二郎／野田風／服部一成
- 10月209回 副田高行「広告の告白」展
- 11月210回 ステファン・サグマイスター展
- 12月211回 河野鷹患展
昭和を駆け抜けたモダニスト 1906-99

2004

- 1月212回 永井一正ポスター展
- 2月213回 伊藤桂司・谷口広樹・ヒロ杉山展
- 3月214回 雑誌をデザインする集団キャップ展
- 4月215回 2004 TDC展
- 5月216回 佐藤卓展 Plasticity
- 6月217回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセクション
- 7月218回 2004 ADC展
- 8月219回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
- 9月220回 Graphic Wave 2004
工藤青石／GRAPH／生息気
- 10月221回 疾風迅雷 杉浦康平雑誌デザインの半世紀展
- 11月222回 佐藤可士和 Beyond
- 12月223回 もう一人の山名文夫 1920-70年代

2005

- 1月224回 七つの顔のアサバ展
- 2月225回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン
- 3月226回 青木克憲XX展
- 4月227回 2005 TDC展
- 5月228回 和田誠のグラフィックデザイン
- 6月229回 チャマイエフ&ガイスマー展
40年間にわたるデザイン活動
- 7月230回 2005 ADC展
- 8月231回 佐藤雅彦研究室展 課題とその解答
- 9月232回 Graphic Wave 2005
谷田一郎／東泉一郎／森本千絵
- 10月233回 CCCP研究所＝ドクター・ベッシー &
マドモアゼル・ローズ展

- 11月234回 祖父江慎＋cozfish展
- 12月235回 スイスポスター 100年展

2006

- 1月236回 亀倉雄策 1915-1997
日本デザイン界を牽引したパイオニア
- 2月237回 野田風展
Hanpanda コンテンポラリーアート
- 3月238回 シアン展
- 4月239回 2006 TDC展
- 5月240回 永井一史
HAKUHODO DESIGN「ブランドとデザイン」
- 6月241回 田名網敬一主義展
- 7月242回 2006 ADC展
- 8月243回 アレクサンダー・ゲルマン展
ニューヨーク・コネクション
- 9月244回 Graphic Wave 2006 School of Design
古平正義／平林奈緒美／水野学／山田英二
- 9月 特別展 AGI日本デザイン総会開催記念：掛け軸展
- 10月245回 勝手に広告展
〔中村至男＋佐藤雅彦〕の活動No.6
- 11月246回 中島英樹展 Clear in the Fog
- 12月247回 早川良雄 日本のデザイン黎明期の証人

2007

- 1月248回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part I]
- 2月 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
- 3月249回 キムラカツ展 問いボックス店
- 4月250回 2007 TDC展
- 5月251回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アディテュード
- 6月252回 廣村正彰 2D⇄3D
- 7月253回 2007 ADC展
- 8月254回 ワルシャワの風 1966-2006
ワルシャワ国際ポスター・ビエンナーレ金賞受賞作品展
- 9月255回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ
- 10月256回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
- 11月257回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイン10人の越境者たち
- 12月258回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー

2008

- 1月259回 アーツダ！戸田正寿ポスターアート展
- 2月260回 グラフィックデザインの時代を築いた
20人の証言 Interviews by 柏木博
- 3月261回 Textasy
プロディ・ノイエシシュヴァンダー展
- 4月262回 2008 TDC展
- 5月263回 アラン・フレッチャー
英国グラフィックデザインの父
- 6月264回 がんばれニッポン、を広告してきたんだ
そういえば、俺。応援団長佐々木●宏
- 7月265回 2008 ADC展
- 8月266回 Now Updating... THA／
中村勇吾のインタラクティブデザイン
- 9月267回 平野敬子 デザインの起点と終点と起点
- 10月268回 白 原研哉展
- 11月269回 M/M [Paris] The Theatre Posters
- 12月270回 OYKOT Wieden+Kennedy Tokyo:
10 Years of Fusion

2009

- 1月271回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展

- 2月272回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
- 3月273回 DRAFT Branding & Art Directors
- 4月274回 2009 TDC展
- 5月275回 矢萩喜徳郎展
[Magnetic Vision／新作100点]
- 6月276回 グラフィックデザイナー マックス・フーパー展
- 7月277回 2009 ADC展
- 8月278回 [ラストショウ]細谷蔵アートディレクション展
- 9月279回 銀座界限隈ガヤガヤ青春ショー
～言い出しっぺ横尾忠則～
瀧本唯人・宇野亜喜良・和田誠・横尾忠則4人展
- 10月280回 山形季央展
- 11月281回 北川一成
- 12月282回 広告批評展
ひとつの時代の終わりと始まり

2010

- 1-2月283回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅰ
田中一光ポスター 1953-1979
- 3月284回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
- 4月285回 TDC展 2010
- 5月286回 Talking the Dragon 井上綱也展
- 6月287回 NB@ggg ネヴィル・プロディ 2010
- 7月288回 2010 ADC展
- 8月289回 ララル・シュライフォークル展
- 9月290回 ブッシュビーン・パラダイム
シーモア・クワスト | ボール・デヴィス |
ミルトン・グレイザー | ジェームズ・マクミラン
- 10月291回 海と山と新村則人
- 11月292回 服部一成二十年十一月
- 12月293回 EUPHRATES ユーフラテス展
～研究から表現へ～

2011

- 1月294回 秀英体 100
- 2月295回 イアン・アンダーソン／
ザ・デザイナーズ・リパブリックが
トーキョーに帰ってきた。
- 3月296回 デザイン 立花文徳
- 4月297回 TDC展 2011
- 5月298回 佐藤晃一ポスター
- 6月299回 レイモン・サヴィニャック展：
41歳、「牛乳石鹸モンサヴォン」の
ポスターで生まれた巨匠
- 7月300回 2011 ADC展
- 8月301回 [ジー ジー ジー] グルーヴィジョンズ展
- 9月302回 工藤青石展 形と色と構造の感情
- 10月303回 100 ggg Books 100 Graphic Designers
- 11月304回 イデオポリス東京：
スクール・オブ・ヴィジュアルアーツ
美術学修士課程卒業制作展
- 12月305回 杉浦康平・マンガラ発光

2012

- 1-2月306回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
- 3月307回 ロトチェンコ
ー慧星のごとく、ロシア・アヴァンギャルドの麗児ー
- 4月308回 TDC展 2012
- 5月309回 キギ展 植原亮輔と渡邊良重
- 6月310回 ジャンピン・ヘ フラッシュバック
- 7月311回 2012 ADC展
- 8月312回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

- 9月313回 寄藤文平の夏の研究
- 10月314回 AGI展
- 11月315回 横尾忠則 初のブックデザイン展
- 12月316回 テセウス・チャン ヴェルクNo.20：銀座
The Extremities of the Printed Matter

2013

- 1月317回 松永真ポスター 100展
- 2月318回 カリ・ビッポ ポスターとドローイング
シンブル・ストロング・シャープ
- 3月319回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
- 4月320回 TDC展 2013
- 5月321回 KM [ケーエム] カレル・マルテンス
- 6月322回 ホワイ・ノット・アノシエイツ
予定は失敗のもと。未定は成功のもと。
- 7月323回 2013 ADC展
- 8月324回 大宮エリー展
- 9月325回 PARTY そこにいない。展
- 10月326回 長崎りこ展
[Between Human and Nature]
- 11月327回 ヤン・チヒョルト展
- 12月328回 トマシェフスキ展 世界を震わす詩学

2014

- 1月329回 勝井三雄展 兆しのデザイン
- 2月330回 「指を置く」展 佐藤雅彦＋齋藤達也
- 3月331回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
- 4月332回 TDC展 2014
- 5月333回 phono / graph sound, letters, graphics
- 6月334回 永井裕明展 Graphic Jam Zukō
- 7月335回 2014 ADC展
- 8月336回 ひのこづさいぼー：
ひびのこづえ+「にほんごであそぼ」のしごと
- 9月337回 So French ミシェル・ブーヴェ・ポスターズ
- 10月338回 セミトランスベアレント・デザイン 退屈
- 11月339回 Persona 1965
グラフィックデザイン展(ペルソナ) 50年記念
- 12月340回 荒井良二だもん

2015

- 1月341回 浅葉克己のタイポグラフィ展
Asaba's Typography.
- 2月342回 Line in the sand ボール・デヴィス
- 3月343回 APPLE+ 三木健 学び方のデザイン
「りんご」と日常の仕事
- 4月344回 TDC展2015
- 5月345回 2 Men Show
スタンリー・ウォン【黄炳培】×
アナザーマウンテンマン【又一山人】
- 6月346回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
- 7月347回 2015 ADC展
- 8月348回 ラース・ミューラー 本 アナログリアリティー
- 9月349回 色部義昭 Wall
- 10月350回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
- 11月351回 字字字 大日本タイポ組合
- 12月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
THE NIPPON POSTERS

2016

- 1-3月 特別展 〔千代田区立日比谷図書文化館にて開催〕
千代田区立日比谷図書文化館主催／
DNP文化振興財団共催
祖父江慎＋コズフィッシュ展 ブックデザイ



1992-2019

4-5月352回 ggg30周年記念 明日に架ける橋

ggg 展覧会ポスター 1986-2016

6月353回 TDC 2016

7-9月354回 2016 ADC 展

9-10月355回 ノザイナー かたちと理由

11-12月356回 榎本了杏コーカイ記

2017

1-3月357回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐

4月358回 TDC 2017

5-6月359回 ロマン・チェシルヴィチ 鏡像への狂気

7月360回 2017 ADC 展

7月 特別展 追悼!『長友啓典』特別展

8-9月361回 Apeloiggg Tokyo フィリップ・アペロワ展

9-11月362回 組版造形 白井敬尚

11-1月363回 マリメッコ・スピリッツー パーヴォ・ハロネン/
マイヤ・ロウエカリ/アイノミヤ・メツツォラ

2018

1-3月364回 平野甲賀と晶文社展

4月365回 TDC 2018

5-6月366回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

7-8月367回 Harumi Yamaguchi × Yoshirotten
Harumi's Summer

9-10月368回 横尾忠則 幻花幻想画譚 1974-1975

10-11月369回 日本のアートディレクション展 2018

12-1月370回 続々 三澤遼

2019

2-3月371回 ボーラ・シェア: Serious Play

1992

1-2月 1回 Trans-Art '91展

3月 2回 アイヴァン・チャマイエフ展 コラージュ

4-5月 3回 第4回東京TDC展

5-6月 4回 リック・バリセンティ展

6-7月 5回 シーモア・クワスト展 メタル彫刻

7-8月 6回 デザイン・プリント・ペーパー展

8-9月 7回 ヴァン・オリバー展

10月 8回 中村誠 個展

10-11月 9回 マイケル・メイヴリー展

11-12月 10回 灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠、
山口はるみ展

1993

1-2月 11回 フロシキ展

2-3月 12回 ホワイノット・アソシエイツ展

3-4月 13回 アレン・ホリ+ロバート・ナカタ展
解き放たれた声

4-5月 14回 1992 ADC 展

5-6月 15回 ラッセル・W・フィッシャー展

6-7月 16回 第5回東京TDC展

7-8月 17回 文字からのイマジネーション

8-9月 18回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part II

9-10月 19回 ビル・ソーバーン展

10-11月 20回 U.G. サトーのポスター展 Treedom

11-12月 21回 勝井三雄展 光の国:夜と昼の狭間に

12-1月 22回 現代香港のデザイン8人展

1994

1-2月 23回 ソール・パス展

2-3月 24回 グリーディング・ポップアップ13人展

3-4月 25回 リュディ・パウア/
インテグラルコンセプト展

4-5月 26回 Illustration4 安西水丸・河村要助・
矢吹申彦・湯村輝彦

5-6月 27回 ジェニファ・モラー展

6-7月 28回 永井一正展

7-8月 29回 ウーヴェ・レシュ展

8-9月 30回 1994 ADC 展

9-10月 31回 デザイン・プリント・ペーパー展 Part III

10-11月 32回 アメリカのAD2人展

デビッド・カーソン+ゲラリー・ケブキ
エディトリアルデザインの新潮流

12月 33回 亀倉雄策ポスター新作展

1995

1-2月 34回 ヘルマン・モンタルボ ポスター展

2-3月 35回 ブルーノ・ムナーリ展

3-4月 36回 グラッパ・デザイン展

4-5月 37回 第7回東京TDC展

5-6月 38回 ミシェル・ブーヴェ展 ポスター、路傍の美

6-7月 39回 田中一光展 人間と文字

7-8月 40回 テレロング展

8-9月 41回 1995 ADC 展

9-10月 42回 デザイン・プリント・ペーパー展 IV

10-11月 43回 ベレ・トレント展

11-12月 44回 アジアのデザイナー 6人展

1996

1-2月 45回 日本のイラストレーション50年展

2-3月 46回 マーゴ・チェイス展

3-4月 47回 ヴェルネル・イエカー展

4-5月 48回 グンター・ランボー展

5-6月 49回 第8回東京TDC展

6-7月 50回 カリ・ビッポ展

7-8月 51回 現代ハンガリーのグラフィック4人展

8-9月 52回 1996 ADC 展

9-10月 53回 前田ジョン かみとコンピュータ展

10-11月 54回 アラン・ル・ケルネ展

11-12月 55回 ウッディ・バートル展

1997

1-2月 56回 ジョアン・マシャド展

2-3月 57回 K2オオサカ展 黒田征太郎+長友啓典

3-4月 58回 グラフィックデザイン・イン・チャイナ展

4-5月 59回 創立10周年記念 東京TDC展

5-6月 60回 メキシコ10人展

7月 61回 カトー・デザイン 思考するデザイン展

8-9月 62回 1997 ADC 展

9-10月 63回 ラルフ・シュライフォーゲル展

10-11月 64回 ジェームズ・ビクトル展 貼紙禁止

11-12月 65回 GLOBAL 展 世界33人の
デザイナーによるデュオポスター

1998

1-2月 66回 ファイトヘルベ/デ・ヴリンゲル展
未来を振り返る

2-3月 67回 ジャン・ベノア・レヴィ展 その視覚的活動

3-4月 68回 《トロイカ》ロシア 3人展

4-5月 69回 フィリップ・アペロウ展
フランス文化におけるポスター

6月 70回 1998 TDC 展

7月 71回 スタジオ・ダウンバー展

8-9月 72回 1998 ADC 展

9-10月 73回 ザフリキ展

10-11月 74回 現代イスラエルのビジュアルコミュニケーター
デビッド・タルタコーバ展

11-12月 75回 台湾四人展

1999

1-2月 76回 海外作家によるFuroshiki Graphics 展

2-3月 77回 ビエール・ニューマン展

3-4月 78回 ボーラ・シェア展

5-6月 79回 ハンブルクのグラフィックデザイン展
オルガー・マチス+クリスティアーネ・フライニンガー

6-7月 80回 1999 TDC 展

7-8月 81回 ヤン・ライリッヒ Jr. 展 時代のミルハウス

8-9月 82回 1999 ADC 展

9-10月 83回 スコット・マケラ [WIDE OPEN] 展

10-11月 84回 尊厳

チャズ・マヴィヤネー・デイヴィースの世界展

11-12月 85回 マカオ2人展

ウン・ヴァイメン/ビクトル・ヒューゴ・マレイロス

2000

1-2月 86回 Graphic Message for Ecology

2-3月 87回 松井桂三展

3-4月 88回 ポール・デイヴィスのポスター展

4-5月 89回 なにわの、こてこてグラフィック展

5-6月 90回 2000 TDC 展

6-7月 91回 アントン・ベイク展 ボディ・アンド・ソウル

7-9月 92回 ビエール・ベルナル展

現実的であれ、不可能を試みよう!

9-10月 93回 2000 ADC 展

10-11月 94回 イタロ・ルビ展 Not Just Graphics

11-12月 95回 デザイン教育の現場から
ベルリン芸術大学
オルガー・マチス教室によるアプローチ

2001

1-2月 96回 二〇〇一年木田安彦展

2-3月 97回 コントラプункト展

デンマーク国家のデザインプログラム

3-4月 98回 ギルツブルク音楽祭ポスター展

5-6月 99回 2001 TDC展
6-7月 100回 チップ・キッド展
7-8月 101回 ハングルポスター展
8-9月 102回 2001 ADC展
9-10月 103回 ウォルフガング・ワインガルト展
タイボグラフィへのわが道
10-11月 104回 “Spring has come”
松永真、ディテールの競演。
11-12月 105回 デザイン教育の現場からⅡ
セント・ジュースト大学院の新技术

2002

1-2月 106回 灘本唯人 にんげんもよう
2-3月 107回 サイトウマコト展
3-4月 108回 オットナシュタイン展
4-5月 109回 タビロ展 ヴェニス・ビエンナーレのポスター
5-6月 110回 2002 TDC展
7月 111回 ウィーンのパスター展
ウィーン市立図書館アーカイブ1883-2002
7-9月 112回 三木健展
9-10月 113回 2002 ADC展
10-11月 114回 サディク・カラムスターファ展
旅と儀式
11-12月 115回 中国グラフィックデザイン展

2003

1-2月 116回 SUN-AD 人
2-3月 117回 田中一光 ポスターとグラフィックアート展
3-4月 118回 ファブリカ展 1994 / 03 混沌から秩序へ
4-6月 119回 墨と椅子について
カン・タイキョン+フリーマン・ラウ
アート&デザイン展
6-7月 120回 2003 TDC展
7-8月 121回 ルーバル・ルコーバ展
8-9月 122回 2003 ADC展
9-10月 123回 ステファン・サグマイスター展
10-11月 124回 ヨーロッパの文化ポスター
ノイエ・ザムルング・ミュンヘンの
所蔵作品より
11-12月 125回 空山基展

2004

1-2月 126回 副田高行「広告の告白」展
2-3月 127回 永井一正ポスター展
3-4月 128回 現代デンマークポスターの10年
デンマーク・デザイン・センターによるセレクション
4-5月 129回 雑誌をデザインする集団キャップ展
5-6月 130回 2004 TDC展
6-7月 131回 ビエール・メンデル展
8-9月 132回 2004 ADC展
9-10月 133回 バーンブルック・デザイン展
Friendly Fire
10-11月 134回 チェコのポスター展
ブラハ美術工芸博物館
コレクション1960-2003
11-12月 135回 バラリンジ・デザイン展
古代の文化と現代のデザイン

2005

1-2月 136回 疾風迅雷 杉浦康平の雑誌デザイン半世紀展
2-3月 137回 シアン展 ベルリンでの13年
3-4月 138回 佐藤可士和 Beyond
4-5月 139回 メーフィス&ファン・デュールセン展
5-6月 140回 2005 TDC展
7月 141回 CCCP研究所=ドクター・ベッシェ &
マドモアゼル・ローズ展
8-9月 142回 2005 ADC展

9-10月 143回 青木克憲XX展
10-11月 144回 ドイツAGIグラフィックデザイン展
パーフェクトフォルム
11-12月 145回 和田誠のグラフィックデザイン

2006

1-2月 146回 スイスポスター 100年展
2-3月 147回 グラフィック・ソート。ファシリティ展
GTF / 50プロジェクト
3-4月 148回 野田弘展
Hanpanda コンテンポラリーアート
4-5月 149回 ブルーノ・オルダーニ展
5-6月 150回 2006 TDC展
6-7月 151回 ブラック&ホワイトポスター展
8月 152回 2006 ADC展

2007

5-6月 153回 Exhibitions Graphic Messages from
ggg & ddd 1986-2006
7-8月 154回 2007 TDC展
8-9月 155回 ヘルムート・シュミット
デザイン イズ アティテュード
10-11月 156回 2007 ADC展
11-12月 157回 キムラカツ展 問いボックス店

2008

1-2月 158回 Welcome to Magazine Pool
雑誌デザイナー10人の越境者たち
2-4月 159回 佐野研二郎 ギンザ・サローネ・オーサカ
4-6月 160回 中島信也CM展
中島信也と29人のアートディレクター
6-7月 161回 2008 TDC展
8月 162回 Now Updating... THA /
中村勇吾のインタラクティブデザイン
9-10月 163回 2008 ADC展
10-11月 164回 Aoba Show 青葉益輝ワン・マン・ショー
11-12月 165回 Graphic West 真 和 / or 善
杉崎真之助と高橋善丸のグラフィックデザイン

2009

1-2月 166回 Helvetica forever: Story of a Typeface
ヘルベチカ展
3-4月 167回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
4-6月 168回 DRAFT Branding & Art Directors
6-7月 169回 2009 TDC展
8-10月 170回 2009 ADC展
10-12月 171回 矢萩喜徳展
[Magnetic Vision / 新作100点]

2010

1-3月 172回 Graphic West 2 感じる箱展
grafの考えるグラフィックデザインの実験と検証
3-5月 173回 北川一成
5-7月 174回 TDC展 2010
7-9月 175回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング
9-10月 176回 2010 ADC展
11-12月 177回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979

2011

1-3月 178回 Graphic West 3 phono / graph
一音・文字・グラフィック
3-5月 179回 秀英体100
5-7月 180回 TDC展 2011
7-9月 181回 服部一成二十年一年夏大阪

9-10月 182回 2011 ADC展
11-12月 183回 100 ggg Books 100 Graphic Designers

2012

1-3月 184回 Graphic West 4 「奥村昭夫と仕事」展
3-5月 185回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
5-7月 186回 TDC展 2012
7-9月 187回 立花文穂展
9-10月 188回 2012 ADC展
11-12月 189回 The Posters 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレトヤマ受賞作品展

2013

1-3月 190回 Graphic West 5
type trip to Osaka typographics ti: 270
3-4月 191回 [デー デー デー] グルーヴィジョンズ展
5-6月 192回 TDC展 2013
7-8月 193回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展
9-10月 194回 2013 ADC展
11-12月 195回 大宮エリー展

2014

1-3月 196回 Graphic West 6
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
熱情と冷靜のアヴァンギャルド
3-4月 197回 「指を置く」展 佐藤雅彦+齋藤達也
5-6月 198回 TDC展 2014
6-7月 199回 明日のデザインと福島治
[Social Design & Poster]
10-12月 200回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
THE NIPPON POSTERS

2015

1-3月 201回 永井裕明展
Graphic Jam Zukō in Kyoto
4-5月 202回 ラース・ミュラー本 アナログリアディエー
6-7月 203回 TDC展 2015
8-10月 204回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
20世紀琳派 田中一光
11-12月 205回 ニッポンのニッポン ヘルムートシュミット

2016

1-3月 206回 浅葉克己個展 「アサバの血肉化」
4-5月 207回 21世紀琳派ポスターズ
10人のグラフィックデザイナーによる競演
5-7月 208回 ライゾマティクス グラフィックデザインの死角
TDC 2016
7-8月 209回 物質性-非物質性 デザイン&イノベーション
9-10月 210回 京都dddギャラリー・京都工芸繊維大学
11-12月 特別展 アートマネージャー養成講座連携企画展
なにで行く どこへ行く 旅っていいね
京都造形芸術大学プロジェクトセンター×
12月 特別展 京都dddギャラリー連携企画展
experimental studies | post past

2017

1-3月 211回 グラフィックとミュージック
5-6月 212回 仲條正義 IN & OUT, あるいは飲&嘔吐
7-8月 213回 TDC 2017
9-10月 214回 平野甲賀と晶文社展
11月 特別展 京都dddギャラリー・成安造形大学連携展
.communication
12-3月 215回 ウィム・クロウエル グリッドに魅せられて

2018

4-6月 216回 Graphic West 7: YELLOW PAGES
7-8月 217回 TDC 2018
8-10月 218回 田名網敬一の現在展
11-12月 特別展 京都dddギャラリー・京都市立芸術大学
ビジュアル・デザイン研究室共催展
グラフィックで科学を学ぼう 進化的ものがたり展

2019

1-3月 219回 組版造形 白井敬尚

1995
4-7月 1回 グラフィック・ビジョン：
ケネス・タイラーとアメリカ現代版画の30年
8-10月 2回 ロイ・リキテンスタイン：
エンタブラチュア→ヌード
11-1月 3回 一瞬の刻印：ロバート・マザウェル展

1996
3-4月 4回 アメリカ版画の現在地点：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.1
4-7月 5回 デヴィッド・ホックニー展
7-10月 6回 自律する色彩：ジョセフ・アルバース展
10-1月 7回 スタイルを越えて：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.2

1997
3-6月 8回 ジェームズ・ローゼンクvist展
6-9月 9回 版画における抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.3
10-11月 10回 大竹伸朗：Printing / Painting展
12-1月 11回 線／色彩／イメージ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.4

1998
3-5月 12回 フランク・ステラ／ケネス・タイラー：
構築する版画
アーティストとプリンター、30年の軌跡
5-9月 13回 主張する黒：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.5
9-12月 14回 形象としての紙：アラン・シールズ展

1999
3-5月 15回 福田美蘭展 New Works: Prints
6-9月 16回 かたる かたち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.6
9-12月 17回 版画の話展

2000
3-6月 18回 New Works 1998-1999：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.7
6-9月 19回 太田三郎：存在と日常
9-12月 20回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ設立展：
ポスターグラフィックス 1950-2000

2001
3-5月 21回 版画集への招待：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.8
5-7月 22回 折元立身：1972-2000
8-10月 23回 藤本由紀夫：四次元の読書
10-12月 24回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.2：
グラフィックデザインの時代

2002
3-6月 25回 空間に躍りでた版画たち：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.9
6-9月 26回 矢萩喜徳郎：視触、視弾、そして眼差しの記憶
9-12月 27回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ展 Vol.3：
個性の時代

2003
3-4月 28回 絵画―永遠の現在を求めて：
リチャード・ゴーマン展
4-6月 29回 色彩としての紙：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.10
6-9月 30回 ヘレン・フランケンサラー木版画展
9-12月 31回 タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション 新収蔵作品展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.11

2004
3-6月 32回 イラストレーションの黄金時代
6-9月 33回 パスワード：日本とデンマークの
アーティストによる対話
9-12月 34回 版で発信する作家たち2004福島

2005
3-6月 35回 アメリカ現代木版画の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.12
6-9月 36回 Breathing Light：吉田重信
10-12月 37回 decade ― CCGAと6人の作家たち

2006
3-6月 38回 版に描く：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.13
6-9月 39回 藤幡正樹：不完全さの克服
イメージとメディアによって創り出される、
新たな現実感。
9-12月 40回 野田哲也：日記

2007
3-6月 41回 凹版表現の魅力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.14
6-9月 42回 再生する版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.15
9-12月 43回 ユニーク・インプレッション：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.16

2008
3-6月 44回 厚い色：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.17
6-9月 45回 大きな版画、小さな版画：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.18
9-11月 46回 黒のモノローグ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.19

2009
2-6月 47回 作品と題名：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.20
6-9月 48回 きらめくデザイナーたちの競演
DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展
9-12月 49回 赤のちから：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.21

2010
3-6月 50回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅱ
田中一光ポスター 1953-1979
6-9月 51回 ロイ・リキテンスタイン展：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.22
9-12月 52回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅲ
福田繁雄のヴィジュアル・ジャンピング

2011
3月 53回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23
(東日本大震災のため中断)
6-9月 54回 秀英体 100
9-12月 55回 幾何学的抽象の世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.23

2012
3-6月 56回 日本ポルトガル交流
版で発信する作家たち：after 3.11
6-9月 57回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅳ
没後10周年記念企画
田中一光ポスター 1980-2002
9-12月 58回 銅版の表現力：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.24

2013
2月 特別展 第24回田善顕彰版画展
3-6月 59回 THE POSTERS 1983-2012
世界ポスタートリエンナーレヤマ受賞作品展
6-9月 60回 現代版画とリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.25
9-12月 61回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅴ
LIFE 永井一正ポスター展

2014
2月 特別展 第25回田善顕彰版画展
3-6月 62回 プリント・イン・ブルー：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.26
7-9月 63回 20世紀モダンデザインの誕生―
大阪新美術館建設準備室デザインコレクション
9-12月 64回 レリーフ・プリントの世界：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.27

2015
2月 特別展 第26回田善顕彰版画展
3-6月 65回 開館20周年記念
21世紀のグラフィック・ビジョン
6-9月 66回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅵ
浅草克己ポスターアーカイブ展
9-12月 67回 ロバート・マザウェルのリトグラフ：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.28

2016
2月 特別展 第27回田善顕彰版画展
3-6月 68回 グラフィックとミュージック
6-9月 69回 中林忠良展：未知なる航海―腐食の海へ
9-12月 70回 フランク・ステラ<イマジナリー・プレイシズ>：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.29

2017
2月 特別展 第28回田善顕彰版画展
3-6月 71回 DNPグラフィックデザイン・アーカイブ収蔵品展Ⅶ
松永真ポスター展
6-9月 72回 加納光於―揺らめく色の穂先に
9-12月 73回 ジョセフ&アニ・アルバース、二つの抽象：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.30

2018
2月 特別展 第29回田善顕彰版画展
3-6月 74回 少数精鋭の色たち-DNP グラフィック
デザイン・アーカイブより
6-9月 75回 北川健次：黒の装置―記憶のディスタンス
9-12月 76回 ヘレン・フランケンサラー
[エクスペリメンタル・インプレッション]：
タイラーグラフィックス・
アーカイブコレクション展 Vol.31

1986

- Mar. 1 Tadashi Ohashi:
Vegetable Illustration
- Apr. 2 Shigeo Fukuda: Illustration 412
- May 3 Yukimasa Okumura: Sunsun Saifu
- Jun. 4 Iku Akiyama: Picture Relief
- Jul. 5 1986 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 6 Art Works I The World is Art.
- Sep. 7 Koichi Sato: About Boxes 2
- Oct. 8 Kiyoshi Awazu:
Self Revolution for Painting
- Nov. 9 Herbert Bayer:
Pioneer of Visual Communication
- Dec. 10 K2 Live!
Don't Say "2" Without Knowing the "K"

1987

- Jan. 11 Iroha: CG Calligraphy of Shuhei Tsuji
and CA Workshop
- Feb. 12 Flower Expo + Expo Logo Exhibition
- Mar. 13 Masaki Fujihata: Geometric Love
- Apr. 14 The Works of Shin Matsunaga:
The Mainichi Design Prize
Commemorative Exhibition
- May 15 Mizumaru Anzai "2C"
- Jun. 16 Lou Dorfsman and
The Creative Works of CBS
- Jul. 17 1987 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 18 Art Works II Rest in Peace
- Sep. 19 Takenobu Igarashi: Igarashi Numbers
- Oct. 20 Masuteru Aoba: Graphically
- Nov. 21 Holger Matthies:
Unpredictable Reality
- Dec. 22 Milton Glaser: Conjurer of Image

1988

- Jan. 23 Katsu Kimura:
Works from Packaging Direction
- Feb. 24 Hiroki Taniguchi:
Homosapiens' Memory
- Mar. 25 Ginza Hyakuten Covers, Original Works
- Apr. 26 Katsu Exhibition, Spring: Original-
Lithography-Silk Screen-Offset Print
- May 27 AGI '88 Tokyo: World Graphic Design
- Jun. 28 Issey Miyake Poster Exhibition:
I.I.I. at GGG
- Jul. 29 1988 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 30 Art Works III Peace by Piece
- Sep. 31 Recruit / Information Posters
- Oct. 32 Yoshio Hayakawa:
Original Drawings "Woman"
- Nov. 33 Masayoshi Nakajo: NAKAJOISH
- Dec. 34 Posters and Illustrations of
Stasys Eidrigevicius

1989

- Jan. 35 Shopping Bag Design Exhibition
- Feb. 36 Kijuro Yahagi Exhibition
- Mar. 37 Texture: Makiko Minagawa +
Keiichi Tahara + Shigeru Yamaoka
- Apr. 38 Noriyuki Tanaka:
Gokan – The Urban Surface
- May 39 Ott Aicher: W.Von Ockham,
a Pioneer in Modern Philosophy
- Jun. 40 Kazumi Kurigami: Photographs
- Jul. 41 Shinichiro Wakao: Wakao Collection
- Aug. 42 Art Works IV
All The Flowers Have Come Here.
- Sep. 43 Kazumasa Nagai Exhibition

- Oct. 44 Posters by 12 Artists
for Europalia '89 Japan
- Nov. 45 The Current Works of Charles Anderson
- Dec. 46 Works of Etsushi Kiyohara: Hommage

1990

- Jan. 47 Shigeru Akizuki: Boxes for Fun
- Feb. 48 Nobuyoshi Kikuchi:
"Shelf" Bound Books
- Mar. 49 Tsunao Harada:
"Horse" Wood-block Print
- Apr. 50 Ikko Tanaka Exhibition:
Graphic Art Botanical Garden
- May 51 Ryuichi Yamashiro:
Illustration without Cats
- Jun. 52 Keizo Matsui:
Three Dimensional Graphics
- Jul. 53 Takayuki Terakado Exhibition
- Aug. 54 Art Works V Tokyo Specimen Boxes 1990
- Sep. 55 Keiichi Tahara: The Fragrance of Light
- Oct. 56 Katsumi Asaba's New Works:
Terrible Typography in Asia.
- Nov. 57 Macaroni: Katsuya Ise
- Dec. 58 Yasuhiro Yomogida: People

1991

- Jan. 59 Zenji Funabashi Exhibition
- Feb. 60 Tetsuya Ohta: Diagrams
- Mar. 61 Per Arnoldi:
Posters, Prints and Painting
- Apr. 62 Yasuhiro Sawada:
P2 [Painting × Printing]
- May 63 Sonoko Arai: Drawing Inspiration
- Jun. 64 Communication & Print:
Newly Created Posters by 10 Artists
- Jul. 65 Nobuo Nakagaki +
Nakagaki Design Office: Object Books
- Aug. 66 Art Works VI "Bacteriart" Messages
from Dream Island
- Oct.-Nov. 67 Trans-Art '91
- Dec. 68 1991 Tokyo ADC Exhibition

1992

- Jan. 69 Ivan Chermayeff: Collages
- Feb. 70 The First Solo Exhibition of
Hajime Tachibana: ape-MAN
- Mar. 71 The 4th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 72 Henryk Tomaszewski Exhibition
- May 73 Seymour Chwast: Painted Metal Sculpture
- Jun. 74 Takashi Kanome: BOX-XX
- Jul. 75 Makoto Nakamura Solo Exhibition
- Aug. 76 Rick Valicenti Exhibition
- Sep. 77 Kaoru Kasai: AERO
- Oct. 78 Tadahito Nadamoto / Akira Uno /
Makoto Wada / Harumi Yamaguchi
Exhibition
- Nov. 79 Paul Rand
- Dec. 80 Furoshiki by 18 Artists

1993

- Jan. 81 Ryohei Kojima: Tropica Grafica
- Feb. 82 Koichi Inakoshi: Out of Season
- Mar. 83 1992 Tokyo ADC Exhibition
- Apr. 84 The 5th Tokyo TDC Exhibition
- May 85 U.G. Sato's Poster Exhibition: Treedom
- Jun. 86 Hideo Mukai: Hommage
- Jul. 87 Imagination of Letters
- Aug. 88 8 Designers in Today's Hong Kong
- Sep. 89 Mitsuo Katsui: The Blessing of Light

- Oct. 90 1993 Illustration 4:
Mizumaru Anzai / Yosuke Kawamura /
Nobuhiko Yabuki / Teruhiko Yumura
- Nov. 91 Saul Bass Exhibition
- Dec. 92 13 Pop-up Greeting

1994

- Jan. 93 Kiyoshi Awazu: H²O Earthman
- Feb. 94 The 6th Tokyo TDC Exhibition
- Mar. 95 Takahisa Kamijyo: Windscape Mindscape
- Apr. 96 Toshihiro Katayama Exhibition
- May 97 Kazumasa Nagai Exhibition
- Jun. 98 Dutch Graphic Design A Century
- Jul. 99 1994 Tokyo ADC Exhibition
- Aug.-Sep. 100 Graphic Goods: Gifts from Design
- Sep. 101 Koga Hirano: The Power of Letters
- Oct. Kyushu Nine Designers Nine Personalities
- Nov. 102 Yusaku Kamekura New Posters
- Dec. 103 Kenya Hara Exhibition
Toshiko Tsuchihashi, Sachiko Nakamura,
Meg Hosoki: Favorites

1995

- Jan. 104 Bruno Munari Exhibition
- Feb. 105 Book Design in Japan 1946-95
- Mar. 106 The 7th Tokyo TDC Exhibition
- Apr. 107 Pieter Brattinga: Designs for People
- May 108 Ikko Tanaka: Man and Writing
- Jun. 109 Niklaus Troxler Posters
- Jul. 110 1995 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 111 Rhythm & Hues Computer Graphics:
A Postcard from Hollywood
- Sep. 112 Tamotsu Yagi: A View of Nature
- Sep. 20 Graphic Designers of the World:
ggg 10th Anniversary and 20 ggg Books
- Oct. 113 Transition of Modern Typography-1
- Nov. 114 Masatoshi Toda: Ear Ear Land
- Dec. 115 50 Years in Japanese Illustrations

1996

- Jan. 116 Yasuhiro Yomogida:
"yurayura" Swaying in Edo
- Feb. 117 Transition of Modern Typography-2
- Mar. 118 NIPPONJIN:
Posters by 23 Artists in Sao Paulo
- Apr. 119 The 8th Tokyo TDC Exhibition
- May 120 Contemporary Graphics in Hungary:
DOPP at GGG
- Jun. 121 Shigeo Katsukawa's Typographic Art:
Departure
- Jul. 122 1996 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 123 John Maeda Paper and Computers
- Sep. 124 K2 – Seitaro Kuroda /
Keisuke Nagatomo: Two Chairs
- Oct. 125 Czech Avant-Garde Book Design
1920s-'30s
- Nov. 126 Graphic Wave 1996: Katsunori Aoki /
Taku Satoh / Toshio Yamagata
- Dec. 127 Alain Le Querrec Exhibition

1997

- Jan. 128 Nisuke Shimotani: Man
Collection of CCGA:
The Prints of Josef Albers
- Feb. 129 Tadashi Ohashi: Warm Veggies
- Mar. 130 The 10th Anniversary of Tokyo TDC
- Apr. 131 Masayoshi Nakajo: ○○○
- May 132 Special Issue "Ecology"
by 8 Magazines in Japan

- Jun. 133 Tadanori Yokoo's Poster Exhibition:
Lucky God Yokoo
- Jul. 134 1997 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 135 Toshifumi Kawahara and
Polygon Pictures: Rocky Hola Shop
- Sep. 136 10 Mexican Graphic Designers
- Oct. 137 Graphic Wave 1997: Kan Akita /
Satoe Inoue / Osamu Fukushima
- Oct. The 10th Anniversary of
Masaru Katsumi Award
- Nov. 138 Shigeo Fukuda's Poster Exhibition:
Supporter
- Dec. 139 Global Exhibition: Duo Posters by
33 Designers from around the World

1998

- Jan. 140 Hachiro Suzuki: Bro Art & AD
- Feb. 141 Odermatt + Tissot Graphic Design
- Mar. 142 Stasys Eidrigevicius Exhibition
- Apr. 143 Tokyo TDC 1998 Exhibition
- May 144 Studio Dumber Exhibition
- Jun. 145 Opera Lesson by Yoko Yamamoto
- Jul. 146 1998 Tokyo ADC Exhibition
- Aug. 147 Yoichiro Kawaguchi:
Voyage through a Cyber Universe
- Sep. 148 Graphic Wave 1998: Tatsuo Ebina /
Keiko Hirano / Ken Miki
- Oct. 149 Gunter Rambow in Tokyo
- Nov. 150 Philippe Apeloig:
Posters in the Context of French Culture
- Dec. 151 Herbert Leupin Exhibition

1999

- Jan. 152 Furoshiki Graphics by 18 Designers
from around the World
- Feb. 153 Transition of Modern Typography in
Japan 1946-95
- Mar. 154 Tsunehisa Kimura Photo Graphics: What?
- Mar. The Works of Seichi Horiuchi
- Apr. 155 Tokyo TDC 1999 Exhibition
- May 156 Contemporary Bulgarian Graphic
Design Exhibition
- Jun. 157 Katsuhiko Hibino: Abduction
- Jul. 158 1999 Tokyo ADC Exhibition
- Jul. John Maeda: One-line.com
- Aug. 159 Kijuro Yahagi Exhibition
- Sep. 160 Graphic Wave 1999: Mamoru Suzuki /
Kei Matsushita / Hiroshi Yonemura
- Oct. 161 An Exhibition of FUSE Posters and Fonts
- Nov. 162 Keizo Matsui Exhibition
- Dec. 163 Paul Davis Posters
- Dec. Irving Penn Regards
the Works of Issey Miyake

2000

- Jan. 164 Graphic Message for Ecology
- Jan. Kishin Shinoyama & Manuel Legris:
A L'Opera de Paris
- Feb. 165 Bruno Monguzzi:
A Poet of Form and Function
- Mar. 166 Kenji Itoh: The Medical Journal
STETHOSCOPE – A Half Century of
Journal Cover Designs –
- Apr. 167 Tokyo TDC 2000 Exhibition
- May 168 Poster Works Nagoya 12:
Shigeo Okamoto + 11 Designers
- Jun. 169 Osaka Pop Exhibition:
"kotekote" Graphics
- Jul. 170 2000 Tokyo ADC Exhibition

Aug. 171 The Epoch of the Japan Advertising Artists Club [JAAC]
 Sep. 172 Graphic Wave 2000:Gugi Akiyama / Tycoon Graphics / Hideki Nakajima
 Oct. 173 Tztom Toda: D-ZONE
 Nov. 174 Pierre Bernard: Be Realistic, Demand the Impossible!
 Dec. 175 The Book & The Computer: New Parameters across Time and Space

2001

Jan. 176 2001 Yasuhiko Kida
 Feb. 177 Italo Lupi: Not Just Graphics
 Mar. 178 "Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details
 Apr. 179 Tokyo TDC 2001 Exhibition
 May 180 Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen
 Jun. 181 Typography of Hiromu Hara
 Jul. 182 2001 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 183 Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life
 Sep. 184 Graphic Wave 2001: Katsuhiko Shibuya / Kazufumi Nagai / Kodue Hibino
 Oct. 185 Hangul Poster Exhibition
 Nov. 186 Makoto Saito Exhibition
 Dec. 187 Chip Kidd Exhibition

2002

Jan. 188 Uwe Loesch Exhibition
 Feb. 189 Akira Uno Exhibition
 Mar. 190 Design Education: I, We, They.The Post -St Joost Method of Design Education
 Apr. 191 Tokyo TDC 2002 Exhibition
 May 192 Draft Exhibition
 Jun. 193 Alan Chan: Oriental Passion Western Harmony
 Jun. Yasuji Hanamori and "Kurashi no Techo"
 Jul. 194 2002 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 195 Noriyuki Tanaka: Out of Design
 Sep. 196 Graphic Wave 2002: Hitomi Sago / Yasuhiro Sawada / Norito Shinmura
 Oct. 197 Sun-ad: The People
 Nov. 198 Graphic Shows Brazil: Today's Brazilian Book Design
 Dec. 199 Herb Lubalin Exhibition

2003

Jan. 200 Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art
 Feb. 201 Sadik Karamustafa Graphic Design: Journeys and Rituals, Words and Images
 Mar. 202 Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition
 Apr. 203 Tokyo TDC 2003 Exhibition
 May 204 Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back
 Jun. 205 Hajime Sorayama The Exhibition
 Jul. 206 2003 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 207 Minoru Niijima: Interaction of Colors and Fonts
 Sep. 208 Graphic Wave 2003: Kenjiro Sano / Nagi Noda / Kazunari Hattori
 Oct. 209 Advertising Returns! Art Direction by Soeda Takayuki
 Nov. 210 Stefan Sagmeister Exhibition
 Dec. 211 Takashi Kono: Modernist of the Showa Era 1906-99

2004

Jan. 212 Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Feb. 213 Keiji Ito / Hiroki Taniguchi / Hiro Sugiyama Exhibition
 Mar. 214 The Magazine Design Studio Cap Exhibition
 Apr. 215 Tokyo TDC 2004 Exhibition
 May 216 Taku Satoh: Plasticity
 Jun. 217 Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre
 Jul. 218 2004 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 219 The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire
 Sep. 220 Graphic Wave 2004: Aoshi Kudo / Graph / Namaiki
 Oct. 221 Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura
 Nov. 222 Kashiwa Sato: Beyond
 Dec. 223 Another Side of Ayao Yamana 1920s-70s

2005

Jan. 224 The Seven Faces of Asaba
 Feb. 225 Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design
 Mar. 226 Katsunori Aoki XX
 Apr. 227 Tokyo TDC 2005 Exhibition
 May 228 The Graphic Design of Makoto Wada
 Jun. 229 Chermayeff & Geismar Inc: Designing over Four Decades
 Jul. 230 2005 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 231 Masahiko Sato Laboratory: Problems and Their Solutions
 Sep. 232 Graphic Wave 2005: Ichiro Tanida / Ichiro Higashizumi / Chie Morimoto
 Oct. 233 Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose
 Nov. 234 Shin Sobue + cozfish Exhibition
 Dec. 235 Swiss Poster Art: 100 Years of Creation

2006

Jan. 236 Yusaku Kamekura 1915-1997: A Leading Pioneer in the World of Japanese Design
 Feb. 237 Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art
 Mar. 238 Cyan Exhibition
 Apr. 239 Tokyo TDC 2006 Exhibition
 May 240 Kazufumi Nagai: Hakuodo Design "Brands and Designs"
 Jun. 241 Keiichi Tanaami-ism
 Jul. 242 2006 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 243 Alexander Gelman: New York Connection
 Sep. 244 Graphic Wave 2006 School of Design: Masayoshi Kodaira / Naomi Hirabayashi / Manabu Mizuno / Eiji Yamada
 Sep. AGI Congress 2006 in Japan: Kakejiku Exhibition
 Oct. 245 Radical Advertisement [Norio Nakamura + Masahiko Sato] Activities No.6
 Nov. 246 Hideki Nakajima: Clear in the Fog
 Dec. 247 Yoshio Hayakawa: Witness to the Dawn of Japanese Design

2007

Jan. 248 Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part I]

Feb. Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006 [Part II]
 Mar. 249 Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten
 Apr. 250 Tokyo TDC 2007 Exhibition
 May 251 helmut schmid: design is attitude
 Jun. 252 Masaaki Hiromura: 2D ↔ 3D
 Jul. 253 2007 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 254 The Warsaw Wind 1966-2006: Gold Prize Winning Entries from the Warsaw International Poster Biennale
 Sep. 255 Ginza Salone: Kenjiro Sano
 Oct. 256 Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors
 Nov. 257 Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design
 Dec. 258 Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show

2008

Jan. 259 Toda Today: Poster Art by Seiju Toda
 Feb. 260 Testimonies from Twenty Pioneers of the Graphic Design Era: Interviews by Hiroshi Kashiwagi
 Mar. 261 Textasy: Brody Neuenschwander
 Apr. 262 Tokyo TDC 2008 Exhibition
 May 263 Alan Fletcher: The Father of British Graphic Design
 Jun. 264 Hiroshi Sasaki, Leader of a Cheering Squad for the Japanese Advertising World
 Jul. 265 2008 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 266 Now Updating--- Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura
 Sep. 267 The Design Cycle of Keiko Hirano: Origin, Terminus, Origin
 Oct. 268 White: Kenya Hara Exhibition
 Nov. 269 M/M (Paris) The Theatre Posters
 Dec. 270 OYKOT Wieden + Kennedy Tokyo: 10 Years of Fusion

2009

Jan. 271 Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design
 Feb. 272 Helvetica forever: Story of a Typeface
 Mar. 273 Draft: Branding and Art Directors
 Apr. 274 Tokyo TDC 2009 Exhibition
 May 275 Kijuro Yahagi: Magnetic Vision / 100 New Works
 Jun. 276 Max Huber – a Graphic Designer
 Jul. 277 2009 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 278 Hosoya Gan Last Show: Exhibition of an Art Director & Graphic Designer
 Sep. 279 Tadahito Nadamoto, Akira Uno, Makoto Wada and Tadanori Yokoo Show
 Oct. 280 Toshio Yamagata Exhibition
 Nov. 281 Issay Kitagawa
 Dec. 282 Kokoku Hihyo: End of One Era, Start of Another

2010

Jan.-Feb. 283 DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979
 Mar. 284 DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping
 Apr. 285 Tokyo TDC 2010 Exhibition
 May 286 Talking the Dragon: Tsuguya Inoue

Jun. 287 NB@ggg: Neville Brody 2010
 Jul. 288 2010 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 289 Ralph Schraivogel Exhibition
 Sep. 290 The Push Pin Paradigm: Seymour Chwast | Paul Davis | Milton Glaser | James McMullan
 Oct. 291 Seas and Mountains and Norito Shinmura
 Nov. 292 Kazunari Hattori: November 2010
 Dec. 293 Euphrates: From Research to Expression

2011

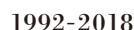
Jan. 294 Shueitai 100
 Feb. 295 Ian Anderson / The Designers Republic C(H-)ōme (+81/3)
 Mar. 296 Design Fumio Tachibana
 Apr. 297 Tokyo TDC 2011 Exhibition
 May 298 Sato Koichi Poster Exhibition
 Jun. 299 Raymond Savignac: at the Age of 41, Maestro Born from Poster [Monsavon au lait]
 Jul. 300 2011 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 301 [gggg] Groovisions Exhibition
 Sep. 302 Form, Color and Structure: The Sensual World of Aoshi Kudo
 Oct. 303 100 ggg Books 100 Graphic Designers
 Nov. 304 SVA MFA Design Ideapolis-Tokyo
 Dec. 305 Luminous Mandala: Book Designs of Kohei Sugiura

2012

Jan.-Feb. 306 DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002
 Mar. 307 Rodchenko – Innovator of Russian Avant-Garde –
 Apr. 308 Tokyo TDC 2012 Exhibition
 May 309 KIGI: Ryosuke Uehara and Yoshie Watanabe
 Jun. 310 Jianping He Flashback
 Jul. 311 2012 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 312 The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –
 Sep. 313 Bunpei Yorifuji's Summer Homework Project
 Oct. 314 AGI (Alliance Graphique Internationale) Exhibition
 Nov. 315 Tadanori Yokoo: The First Book Design Exhibition
 Dec. 316 Theseus Chan: WERK No. 20: Ginza The Extremities of the Printed Matter

2013

Jan. 317 Shin Matsunaga Poster 100
 Feb. 318 Kari Piippo Posters & Drawings – Simple, Strong and Sharp –
 Mar. 319 DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition
 Apr. 320 Tokyo TDC 2013 Exhibition
 May 321 KM Karel Martens
 Jun. 322 Why Not Associates – We Never Had a Plan So Nothing Could Go Wrong
 Jul. 323 2013 Tokyo ADC Exhibition
 Aug. 324 Ellie Omiya Exhibition
 Sep. 325 PARTY Not There.



1992

91

Nov.-Dec.	95	Design Education: The Classroom Approach of Holger Matthies, Berlin University of the Arts	Oct.-Nov.	134	Posters from the Czech Republic: Collection 1960-2003 of the Museum of Decorative Arts in Prague	2010	Jan.-Mar.	172	Graphic West 2: Sensory Boxes	Apr.-May	207	21st Century Rimpa Posters: Competitive Works by 10 Graphic Designers
							Mar.-May	173	Issay Kitagawa	May-Jul.	208	Rhizomatics: The Blind Spot of Graphic Design
			Nov.-Dec.	135	Balarinji: Ancient Culture – Contemporary Design		May-Jul.	174	Tokyo TDC 2010 Exhibition			
2001							Jul.-Sep.	175	DNP Graphic Design Archives Collection III Shigeo Fukuda's Visual Jumping	Jul.-Aug.	209	Tokyo TDC 2016 Exhibition
Jan.-Feb.	96	2001 Yasuhiko Kida					Sep.-Oct.	176	2010 Tokyo ADC Exhibition	Sep.-Oct.	210	Materiality-Immateriality Design & Innovation
Feb.-Mar.	97	Visual Identity for Danish State Institutions by Kontrapunkt, Copenhagen	2005				Nov.-Dec.	177	DNP Graphic Design Archives Collection II Ikko Tanaka Posters 1953-1979	Nov.-Dec.		University Collaborative Exhibition: Kyoto Institute of Technology Art Manager Training Program "How Will You Go, and Where? Travel is Wonderful"
Mar.-Apr.	98	Poster of Salzburg Festival	Jan.-Feb.	136	Wind and Lighting: A Half-Century of Magazine Design by Kohei Sugiura	2011				Dec.		University Collaborative Exhibition: Kyoto University of Art & Design Project Center "experimental studies post past"
May-Jun.	99	Tokyo TDC 2001 Exhibition	Feb.-Mar.	137	Cyan: 13 Years in Berlin	Jan.-Mar.	178	Graphic West 3: phono / graph – Sound · Letters · Graphics –				
Jun.-Jul.	100	Chip Kidd Exhibition	Mar.-Apr.	138	Kashiwa Sato: Beyond							
Jul.-Aug.	101	Hangul Poster Exhibition	Apr.-May	139	Mevis & Van Deursen Exhibition	Mar.-May	179	Shueitai 100				
Aug.-Sep.	102	2001 Tokyo ADC Exhibition	May-Jun.	140	Tokyo TDC 2005 Exhibition	May-Jul.	180	Tokyo TDC 2011 Exhibition				
Sep.-Oct.	103	Wolfgang Weingart: My Way to Typography	Jul.	141	Laboratoires CCCP = Dr. Peche + Melle. Rose	Jul.-Sep.	181	Kazunari Hattori: Summer 2011 in Osaka				
Oct.-Nov.	104	"Spring has come" Shin Matsunaga, Play Together with Details	Aug.-Sep.	142	2005 Tokyo ADC Exhibition	Sep.-Oct.	182	2011 Tokyo ADC Exhibition	2017			
			Sep.-Oct.	143	Katsunori Aoki XX	Nov.-Dec.	183	100 ggg Books 100 Graphic Designers	Jan.-Mar.	211	Graphics and Music	
Nov.-Dec.	105	Design Education II : I, We, They. The Post-St Joost Method of Design Education	Oct.-Nov.	144	German AGI Graphic Design: Perfect Form				May-Jul.	212	Masayoshi Nakajo IN & OUT	
			Nov.-Dec.	145	The Graphic Design of Makoto Wada				Jul.-Aug.	213	Tokyo TDC 2017 Exhibition	
2002						2012			Sep.-Oct.	214	Kouga Hirano and Shobunsha	
Jan.-Feb.	106	Tadahito Nadamoto: Patterns from Everyday Life	2006			Jan.-Mar.	184	Graphic West 4: "Okumura Akio and Works" Exhibition	Nov.		University Collaborative Exhibition: Seian University of Art & Design ".communication"	
			Jan.-Feb.	146	Swiss Poster Art: 100 Years of Creation	Mar.-May	185	DNP Graphic Design Archives Collection IV The 10th Memorial to Ikko Tanaka: Ikko Tanaka Posters 1980-2002	Dec.-Mar.	215	wim crouwel fascinated by the grid	
Feb.-Mar.	107	Makoto Saito Exhibition	Feb.-Mar.	147	Graphic Thought Facility: GTF 50 Projects							2018
Mar.-Apr.	108	Ott + Stein: Posters from Berlin	Mar.-Apr.	148	Nagi Noda: Hanpanda Contemporary Art	May-Jul.	186	Tokyo TDC 2012 Exhibition	Apr.-Jun.	216	Graphic West 7: YELLOW PAGES	
Apr.-May	109	Studio Tapiro: Posters for the Venice Biennale	Apr.-May	149	Bruno Oldani Exhibition	Jul.-Sep.	187	Fumio Tachibana Exhibition	Jul.-Aug.	217	Tokyo TDC Exhibition	
			May-Jun.	150	Tokyo TDC 2002 Exhibition	Sep.-Oct.	188	2012 Tokyo ADC Exhibition	Aug.-Oct.	218	Keiichi Tanaami Dialogue	
May-Jun.	110	Tokyo TDC 2002 Exhibition	Jun.-Jul.	151	Black and White Posters Exhibition	Nov.-Dec.	189	The Posters 1983-2012: The Prize – Winning Works from The International Poster Triennial in Toyama –	Nov.-Dec.		University Collaborative Exhibition: Visual Design Lab of Kyoto City University of Arts "Learn Science through Graphics: The Story of Evolution"	
Jul.	111	Posters from Vienna: The Vienna Municipal Library Archive 1883-2002	Aug.	152	2006 Tokyo ADC Exhibition							
Jul.-Sep.	112	Ken Miki Exhibition	2007			2013						
Sep.-Oct.	113	2002 Tokyo ADC Exhibition	May-Jun.	153	Exhibitions: Graphic Messages from ggg & ddd 1986-2006	Jan.-Mar.	190	Graphic West 5: Type trip to Osaka typographics ti: 270	2019			
Oct.-Nov.	114	Sadik Karamustafa: Journeys and Rituals	Jul.-Aug.	154	Tokyo TDC 2007 Exhibition				Jan.-Mar.	219	Typographic Composition, Yoshihisa Shirai	
Nov.-Dec.	115	Contemporary Chinese Graphic Design Exhibition	Aug.-Sep.	155	helmut schmid: design is attitude	Mar.-Apr.	191	[dddg] Groovisions Exhibition				
			Oct.-Nov.	156	2007 Tokyo ADC Exhibition	May-Jun.	192	Tokyo TDC 2013 Exhibition				
2003			Nov.-Dec.	157	Kimura Katsu Ten: Toy Box Ten	Jul.-Aug.	193	DNP Graphic Design Archives Collection V LIFE – Kazumasa Nagai Poster Exhibition				
Jan.-Feb.	116	San-ad :The People				Sep.-Oct.	194	2013 Tokyo ADC Exhibition				
Feb.-Mar.	117	Ikko Tanaka: Poster and Graphic Art	2008			Nov.-Dec.	195	Ellie Omiya Exhibition				
Mar.-Apr.	118	Fabrica 1994 / 03: From Chaos to Order and Back	Jan.-Feb.	158	Welcome to Magazine Pool: Ten Creators Crossing Boundaries for Magazine Design							
Apr.-Jun.	119	Kan Tai-Keung and Freeman Lau: The Art and Design of Ink and Chairs	Feb.-Apr.	159	Ginza Salone Osaka: Kenjiro Sano	2014						
Jun.-Jul.	120	Tokyo TDC 2003 Exhibition	Apr.-Jun.	160	Shinya Nakajima TV Commercial: Shinya Nakajima with 29 Art Directors	Jan.-Mar.	196	Graphic West 6: Osaka City Museum of Modern Art Collection Modern Avant-Garde Graphics				
Jul.-Aug.	121	Luba Lukova: From the Heart	Jun.-Jul.	161	Tokyo TDC 2008 Exhibition	Mar.-Apr.	197	"Putting Finger" Masahiko Sato + Tatsuya Saito				
Aug.-Sep.	122	2003 Tokyo ADC Exhibition	Aug.	162	Now Updating... Interactive Design Works by THA Ltd. / Yugo Nakamura							
Sep.-Oct.	123	Stefan Sagmeister Exhibition	Sep.-Oct.	163	2008 Tokyo ADC Exhibition	May-Jun.	198	Tokyo TDC 2014 Exhibition				
Oct.-Nov.	124	Cultural Posters from the Collection of Die Neue Sammlung München	Oct.-Nov.	164	Aoba Show: Masuteru Aoba One-Man Show	Jun.-Jul.	199	Osamu Fukushima and the Future of Design: Social Design & Poster				
Nov.-Dec.	125	Hajime Sorayama The Exhibition	Nov.-Dec.	165	Graphic West: Truth And / Or Virtue: Graphic Designs by Shinnoske Sugisaki and Yoshimaru Takahashi	Oct.-Dec.	200	DNP Graphic Design Archives Collection VI THE NIPPON POSTERS 2015				
2004						2015						
Jan.-Feb.	126	Advertising Returns!? Art Direction by Soeda Takayuki	2009			Jan.-Mar.	201	Nagai Hiroaki: Graphic Jam Zukō in Kyoto				
Feb.-Mar.	127	Kazumasa Nagai Poster Exhibition	Jan.-Feb.	166	Helvetica forever: Story of a Typeface	Apr.-May	202	Lars Müller BOOKS Analogue Reality				
Mar.-Apr.	128	Danish Posters: Over the Past 10 Years, Selected by Danish Design Centre	Mar.-Apr.	167	Brilliant Rivalry: Works by Outstanding Designers in the DNP Archives of Graphic Design	Jun.-Jul.	203	Tokyo TDC 2015 Exhibition				
Apr.-May	129	The Magazine Design Studio Cap Exhibition				Aug.-Oct.	204	DNP Graphic Design Archives Collection VII 20th Century Rimpa: Ikko Tanaka nippon no Nippon: helmut schmid				
May-Jun.	130	Tokyo TDC 2004 Exhibition	Apr.-Jun.	168	Draft: Branding and Art Directors	Nov.-Dec.	205	nippon no Nippon: helmut schmid				
Jun.-Jul.	131	Pierre Mendell Exhibition	Jun.-Jul.	169	Tokyo TDC 2009 Exhibition	2016						
Aug.-Sep.	132	2004 Tokyo ADC Exhibition	Aug.-Oct.	170	2009 Tokyo ADC Exhibition	Jan.-Mar.	206	Asaba's Assimilation: Katsumi Asaba Exhibition				
Sep.-Oct.	133	The Work of Barnbrook Design: Friendly Fire	Oct.-Dec.	171	Kijuro Yahagi: Magnetic Vision 60 / 100 New Works							

1995-2018

1995

- Apr.-Jul. 1 Graphic Vision Kenneth Tyler
Retrospective Exhibition: Thirty Years
of Contemporary American Prints
- Aug.-Oct. 2 Roy Lichtenstein:
Entablature → Nudes
- Nov.-Jan. 3 The Prints of Robert Motherwell

1996

- Mar.-Apr. 4 American Prints Today:
1st Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Apr.-Jul. 5 The Prints of David Hockney
- Jul.-Oct. 6 Autonomous Color: Josef Albers
- Oct.-Jan. 7 Transcending Style:
2nd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1997

- Mar.-Jun. 8 The Graphics of James Rosenquist
- Jun.-Sep. 9 Printed Abstraction:
3rd Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Oct.-Nov. 10 Shinro Ohtake: Printing / Painting
- Dec.-Jan. 11 Line-Color-Image:
4th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

1998

- Mar.-May 12 Frank Stella and Kenneth Tyler:
A Unique 30-Year Collaboration
- May-Sep. 13 Statements in Black:
5th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 14 Alan Shields: Images in Paper

1999

- Mar.-May 15 Miran Fukuda New Works: Prints
- Jun.-Sep. 16 Forms That Speak:
6th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 17 The Story of Prints

2000

- Mar.-Jun. 18 New Works 1998-1999:
7th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 19 Saburo Ota: Existence and Everyday
- Sep.-Dec. 20 DNP Archives of Graphic Design
Inaugural Exhibition:
Poster Graphics 1950-2000

2001

- Mar.-May 21 Invitation to Print Portfolios:
8th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- May-Jul. 22 Tatsumi Orimoto: 1972-2000
- Aug.-Oct. 23 Yukio Fujimoto:
Reading to Another Dimension
- Oct.-Dec. 24 2nd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design:
The Era of Graphic Design

2002

- Mar.-Jun. 25 Prints Leaping Into Space:
9th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 26 Kijuro Yahagi: Touching, Piercing,
and Tracing with Vision

- Sep.-Dec. 27 3rd Exhibition of DNP Archives of
Graphic Design: The Age of Individuality

2003

- Mar.-Apr. 28 Richard Gorman:
Paintings and Paper Works
- Apr.-Jun. 29 Paper as Color:
10th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 30 Frankenthaler: The Woodcuts
- Sep.-Dec. 31 11th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection

2004

- Mar.-Jun. 32 The Golden Age of Illustration
- Jun.-Sep. 33 Password:
A Danish / Japanese Dialogue
- Sep.-Dec. 34 Print Art of Today in Fukushima

2005

- Mar.-Jun. 35 The World of Contemporary American
Woodcuts:
12th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 36 Breathing Light: Shigenobu Yoshida
- Oct.-Dec. 37 decade – CCGA and Six artists

2006

- Mar.-Jun. 38 Painting on Stone:
13th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 39 Masaki Fujihata:
The Conquest of Imperfection –
New Realities Created with
Images and Media
- Sep.-Dec. 40 Tetsuya Noda: Diary

2007

- Mar.-Jun. 41 The Wonder of Intaglio:
14th Exhibition of Prints from
Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 42 Prints Given New Life:
15th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 43 Unique Impressions:
16th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2008

- Mar.-Jun. 44 Thick with Color:
17th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 45 Big Prints, Small Prints:
18th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Nov. 46 Monologues in Black:
19th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2009

- Feb.-Jun. 47 Prints and Titles:
20th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jun.-Sep. 48 Brilliant Rivalry:
Works by Outstanding Designers in
the DNP Archives of Graphic Design
- Sep.-Dec. 49 The Power of Red:
21st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2010

- Mar.-Jun. 50 DNP Graphic Design Archives Collection II
Ikko Tanaka Posters 1953-1979
- Jun.-Sep. 51 Roy Lichtenstein:
22nd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 52 DNP Graphic Design Archives Collection III
Shigeo Fukuda's Visual Jumping

2011

- Mar. 53 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
(Suspended because of The Great
East Japan Earthquake)
- Jun.-Sep. 54 Shueitai 100
- Sep.-Dec. 55 The World of Geometric Abstraction:
23rd Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2012

- Mar.-Jun. 56 The Artists Who Express through Prints:
after 3.11
- Jun.-Sep. 57 DNP Graphic Design Archives Collection IV
Ikko Tanaka Posters 1980-2002
- Sep.-Dec. 58 The Expressive Appeal of
Copperplate Prints:
24th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2013

- Feb. The 24th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 59 THE POSTERS 1983-2012
The Prize – Winning Works from
The International Poster Triennial
in Toyama –
- Jun.-Sep. 60 Lithographs As Contemporary Prints:
25th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Sep.-Dec. 61 DNP Graphic Design Archives Collection V
LIFE – Kazumasa Nagai
Poster Exhibition

2014

- Feb. The 25th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 62 Prints in Blue:
26th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection
- Jul.-Sep. 63 The Birth of Modern Design –
Osaka City Museum of Modern Art Collection
- Sep.-Dec. 64 Relief Prints:
27th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2015

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 65 CCGA 20th Anniversary
21st Century Graphic Vision
- Jun.-Sep. 66 DNP Graphic Design Archives Collection VI
Katsumi Asaba Poster Archives
- Sep.-Dec. 67 Robert Motherwell's Lithographs:
28th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2016

- Feb. The 26th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 68 Graphics and Music
- Jun.-Sep. 69 Tadayoshi Nakabayashi:
Unknown Voyage

- Sep.-Dec. 70 Frank Stella's Imaginary Places:
29th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2017

- Feb. The 28th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 71 DNP Graphic Design Archives Collection VII
Shin Matsunaga Posters
- Jun.-Sep. 72 Kano Mitsuo:
On the Tips of Quivering Hues
- Sep.-Dec. 73 The Two Abstractions of
Josef and Anni Albers:
30th Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

2018

- Feb. The 29th Denzen Print Award Exhibition
- Mar.-Jun. 74 A Select Few Colors:
From the DNP Graphic Design Archives
- Jun.-Sep. 75 Kenji Kitagawa:
Devices in Black – The Distance of Memory
- Sep.-Dec. 76 Helen Frankenthaler's Experimental
Impressions:
31st Exhibition of Prints from
the Tyler Graphics Archive Collection

ギンザ・グラフィック・ギャラリー

開設 1986年3月4日
名称 ギンザ・グラフィック・ギャラリー（略称／ggg）
所在地 〒104-0061
東京都中央区銀座7丁目7番2号 DNP銀座ビル
Phone:03-3571-5206
Fax:03-3289-1389
開館時間 午前11時～午後7時
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

京都dddギャラリー

開設 1991年11月5日（大阪・堂島）
2007年5月24日 大阪・南堀江に移転
2014年10月9日 京都・太秦に移転
名称 京都dddギャラリー
所在地 〒616-8533
京都府京都市右京区太秦上刑部町10
Phone:075-871-1480
Fax:075-871-1267
開館時間 午前11時～午後7時（土曜・日曜特別開館午後6時まで）
休館 日曜日、祝日
監修 永井一正

CCGA 現代グラフィックアートセンター

開設 1995年4月20日
名称 CCGA現代グラフィックアートセンター
所在地 〒962-0711
福島県須賀川市塩田宮田1
Phone:0248-79-4811
Fax:0248-79-4816
開館時間 午前10時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
休館 月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）、
祝日の翌日（土・日にあたる場合は開館）、
展示替え期間中、冬期（12月下旬～2月末）
入場料 一般＝300円、学生＝200円、
小学生以下と65歳以上および障がい者手帳をお持ちの方は無料。
サロン
利用料 200円

企画・運営 公益財団法人DNP文化振興財団
<http://www.dnp.co.jp/foundation>

ginza graphic gallery

Establishment: March 4, 1986
Name: ginza graphic gallery (ggg)
Location: DNP Ginza Building, 7-2 Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo 104-0061
Phone: +81 3 3571 5206
Fax: +81 3 3289 1389
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

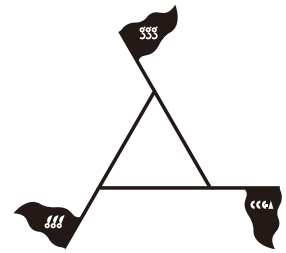
kyoto ddd gallery

Establishment: November 5, 1991 in Dojima, Osaka
Moved May 24, 2007 to Minami Horie, Osaka
Relocated October 9, 2014 to Uzumasa, Kyoto
Name: kyoto ddd gallery
Location: 10, Kamikeibuchō, Uzumasa,
Ukyoku, Kyoto, 616-8533
Phone: +81 75 871 1480
Fax: +81 75 871 1267
Opening Hours: 11:00am to 7:00pm (Until 6:00pm on Saturdays, irregularly open on Sundays)
Closed on Sundays and Holidays
Adviser: Kazumasa Nagai

Center for Contemporary Graphic Art

Establishment: April 20, 1995
Name: Center for Contemporary Graphic Art (CCGA)
Location: Miyata 1, Shiota, Sukagawa-shi,
Fukushima 962-0711
Phone: +81 248 79 4811
Fax: +81 248 79 4816
Opening Hours: 10:00am to 5:00pm (Admission until 4:45pm)
Closed on Mondays (Tuesday if Monday is a public holiday),
the day immediately after a public holiday (except Saturday and Sunday),
between exhibitions and during winter (late December through February)
Admission: Adults= ¥300, Students= ¥200,
Free for young children (through elementary school), senior citizens (65 and over) and the disabled.
Salon Utilization Fee: ¥200

Planning and Operation: DNP Foundation for Cultural Promotion
<http://www.dnp.co.jp/foundation>



Graphic Art & Design Annual 2018 ggg ddd CCGA

発行	公益財団法人DNP文化振興財団 〒104-0061 東京都中央区銀座7-7-2 DNP銀座ビル Phone: 03-5568-8224
企画・編集	公益財団法人DNP文化振興財団
アートディレクション	松永 真
デザイン	松永 真次郎
デザインアシスト	清川 萌未、高川 知子
表紙デザイン	横尾 忠則
撮影	藤塚 光政 (ggg会場写真) 堺 亮太、川並 京介 (gggギャラリートーク) 吉田 亮人、前田 欣一 (ddd会場写真、ギャラリートーク)
翻訳	室生寺 玲
協力	河尻 亨一
印刷・製本	大日本印刷株式会社



公益財団法人DNP文化振興財団
DNP Foundation for Cultural Promotion

